

三 国際連盟による中国援助問題

203 昭和3年7月24日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

中国の連盟理事国再選問題に関する連盟側の
意向につき杉村連盟事務次長より内話につ
て

パ リ 7月24日後発
本 省 7月25日前着

第一一〇号

王寵惠ハ七月十日付事務総長ニ対シ来ル九月理事国改選ノ
際支那カ再選ヲ希望シ居ル旨ノ私信ヲ寄セタルカ寿府方面
ニテハ今回支那カ落選セハ連盟ヲ捨テ米ニ走ルコトナキ
ヤヲ杞憂スルモノアリ事務総長秘書ノ一人ハ杉村次長ニ対
シ日本ハ支那ノ再選ヲ好マサルヘキモ連盟全体ノ見地ヨリ
今回ハ支那ニ対シ特殊ノ考慮ヲ払フ必要アリトノ各方面ノ
意見ナルニ付右ノ趣旨ニテ尽力方申出アリタルニ対シ杉村
ハ支那ニ斯ル希望アルコトハ恐ラク日本政府ノ全然知ラサ
ル処ナルヘキモ支那全体ニ対スル日本ノ同情ト濟南事件ノ

如キ局部的問題ニ対スル主張トハ混同スヘカラストテ帝国
政府ニ於テ此ノ際支那ノ再選ヲ妨クル如キ措置ニ出ツル虞
ナカルヘキコトヲ夫レトナク説明シ置キタル趣同次長ヨリ
内報アリタリ
支那カ再選セラルル為ニハ先ツ再選資格ニ関シ總會三分ノ
二以上ノ票数ヲ集メサルヘカラサル処右ハ昨年白耳義ノ例
ニ見ルモ至難ノコトナルノミナラス他方欧州及南米各国ノ
有力ナル代表者カ安達理事ニ語レル処ニ徴スルモ支那ノ再
選ヲ予想スルモノナク何レモ今回亜細亞ハ暹羅又ハ波斯ニ
依リ理事会ニ代表セラルヘキモノト考ヘ居ル有様ナレハ支
那ノ希望貫徹ハ殆ト望ナキ現状ナル処落選ノ曉ニ於テ日本
ノ妨害タルモノノ如ク宣伝サルルカ如キコトアリテハ頗ル
迷惑ナレハ今日ヨリ適宜前記ノ事情ヲ事務局各方面ニ説明
方杉村公使ニ依頼シ置ケリ何等御参考迄
英、米、仏、独、伊、白、杉村公使ニ暗送セリ

204 昭和3年8月24日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

中国の連盟理事国再選問題に関する王中国連
盟代表との会談について

付 記 昭和三年八月二三日付杉村次長覚書

中国問題に関するドラモンド連盟事務総長の
内話

パ リ 8月24日後発
本 省 8月25日前着

第一三六号

往電第一一〇号ニ関シ

安達理事ヨリ

其ノ後支那側ハ各方面ニ対シ理事再選方運動シ居ル模様ニ
テ「ベルトロウ」ノ談ニ依レハ仏国側ヘモ度々申出アリ右
ニ対シテハ其ノ困難ナルコトヲ指摘シタル上好意的ニ考量
スヘシト答ヘ置キタル由又「ドラモンド」ハ二十二日杉村
次長ニ対シ英国政府ハ内心支那ノ再選ヲ希望セサルモ其ノ
落選ノ責任ヲ負フ事ヲ避ケムトスル態度ヲ執リ居リ他方小

国側カ支那カ分担金滞納等国際義務履行ニ忠実ナラサルニ
拘ラス再選ノ特權ヲ得ムトスルニ反対多キモ支那ニ於テ愈
立候補ノ場合ニハ波斯又ハ暹羅ニ対スルヨリモ支那ニ対シ
好意的態度ヲ執ル積リナリト語り二十四日朝面会ノ筈ナル
支那理事王景岐ニ対シテハ右ノ非難アル旨ヲ告ケ若シ支那
カ再選ヲ申出ツルナラハ確タル約束ヲ為ササルヘカラスト
云フ積リナリト述ヘタル趣ナルカ王ハ二十三日日本使ヲ来訪
シ支那ハ今回成否ハ別トシ再選ヲ求メサルヘカラサル立場
ニアリト述ヘ支持ヲ求メタルニ付本使ヨリ右ノ至難ナル事
情ヲ詳細ニ説示シ然ルニ拘ラス支那カ自ラ候補ニ立ツ事ト
決スル場合ニ我方トシテハ好意的考慮ヲ加フヘキ旨然ルヘ
ク応酬シ置キタリ右ハ永井大使トモ協議ノ結果ニシテ本省
ノ御方針ニ合スル儀ト思考シタルニ依リ特ニ請訓セサリシ
次第ナリ
英、米、仏、独、白、伊、杉村次長ヘ転電セリ

(付 記)

「ドラモンド」総長ノ支那問題ニ関スル内話
去ル八月二十二日「ドラモンド」英国ヨリ歸リ支那問題ニ

関シ内話スル所次ノ如シ

一、濟南問題ヲ支那カ總會又ハ理事会ニ提起スルヤモ知レ
ストノ風評ニ対シテハ彼曰ク

「山東撤兵期ニツキ何等ノ保障モ与ヘラレサルヲ見テ平
和主義者タル米人等ノ間ニハ支那側ヲ煽テ問題ヲ提起セ
シメントスルモノアリ『スキツアノ』如キ全然善意公平
ナル見地ヨリシキリト之ヲ為ス總會ニハ例ヘハ一般討議
ノ際支那代表其他ニ於テ之ニ言及スルコトアルヤモ測ラ
レサレ共理事会ニハソノ事ナシト信ス日本政府ノ連盟宛
覚書ニテソノ公正ナル態度カ十二分ニ保障セラレタル今
日事件ハ既ニ片付キタルモノト認ム」ト

二、之ニ反シ滿州問題ハ由々シキ發展ヲ為スモノナルカニ
憂慮セラル英國外務省及ヒ各方面ニ於テ承知シタル所ニ
依レハ日本ハ滿州ニ対シ政治的ニ種々ノ計画ヲ懷キ機ヲ
見テ之ヲ斷行セントスルモノノ如シ之レ「チエンバレー
ン」カ止ムヲ得ス下院ニ於テ滿州ハ支那ノ一部ナリト認
ムトノ声明ヲ為シタル所以ナル由右ニ対シテハ余ハソノ
斷シテ誤解ナル旨ヲ極力弁明シ当方手許ニアル政府ノ情
報ヲ然ル可ク敷衍シソノ了解ヲ求ムルト共ニ万々一「フ

ラレサルモ数年来ニ於ケル対外政策ニ対スル日本輿論ノ
勢力増加ハ真ニ著シキモノアリ右ハ古垣氏カ平生翻訳ス
ル我新聞論調ニ照スモ明ナラムト説キタルニ能ク了解シ
タルカ如シナホ支那人殊ニ南方派ノ人物ハ宣伝ニ巧者ナ
ルコト二十一ヶ条「シベリア」出兵時代ヨリ排日的色彩
ヲ以テ極東問題ヲ觀察スル英米人等ノ間ニハ日本カソロ
ソロ化ノ皮ヲ現ハシ始ムル頃ナリトノ感情一般ナルコト
帝國外交ノ実権カ霞ケ関ヨリ首相ノ昵懇者ノ手ニ移リタ
ルコト林男ト云フカ如キ有力ナル外交家カ態々奉天ニ赴
キ我對滿政策ニツキ策動セラルル事ハ帝國政府ノ公正ナ
ル對支政策ニ種々ノ陰影ヲ投スルモノト認メラル之ニ對
シ微力ナカラ我方態度ノ公正ナルコトニツキ機會アル毎
ニ説明及宣伝ヲ為スモ我外相ニ於テ英米仏伊独各大使ニ
對支方針ニツキ声明セラルルカ如キ場合之ヲ正式ニ連盟
ニモ通告セラレ置クコト然ル可キカト存セラル連盟外交
ハ公開ヲ旨トシ英國ノ如キ上海出兵「ケロツグ」案ニ對
スル自由行動ノ留保等ソノ執リタル措置カ英國自身ニ於
テハ連盟規約ノ精神ニ合スルト考フルモ之ニ對シ何等非
難又ハ誤解ヲ受クル虞レアルトキ直チニソノ顛末ヲ連盟

オレン・オフィス」又ハ其他ノ方面ニ於テ今日モナホ日
本ノ滿州ニ對スル政治的野心ニ付キ誤解ヲ懷ク向ニ對シ
テハ然ル可ク説明ヲ与ヘラレタシト述ヘ更ニ在本邦英國
大使ニ對シテハ田中外相ヨリ屢々聲明スル所アリタルニ
拘ハラス我方ノ真意カ英國側ニ徹底シ居ラサルハ不審ナ
リ「ランプソン」公使ト雖モ日本ニ對シ充分理解ヲ有セ
ラルル事吾人ノ堅ク信スル所ナレハ不正確ナル情報ヲ
「ロンドン」ニ送ラルルコトアルヘシトモ思ハレス就テ
ハ如何ナル方面ヨリカカル情報カ英國側ニ達シタリヤ心
得ノ為メ内密ニ承知シタシト云ヘルニ「ドラモンド」ハ
明答ヲ避ケタタ「ロンドン」ニテ各方面ヨリ來ル種々ノ
情報ヲ綜合シテカク觀測シ居ルモノノ如シト答ヘタルニ
ツキ日本ト滿州トノ關係密接ナルカ為メ日本ニモ對滿問
題ニツキ種々ノ考ヘヲ懷ク人々ノアルハ敢テ否定セサル
モ之等ノ連中ノ意見ハ今日日本ノ進歩セル輿論ヲ動カス
ノ力ナク從ツテ之ヲ誇張過大視スルハ宜シカラス英國等
ニ於ケル支那通ト稱セラルル人々ハ嘗テ軍人又ハ支那浪
人等カ帝國外交ノ方針ヲ動カス一原動力タリシ時代ノ記
憶ニ囚ハレ田中内閣ニ於テモ然リト判斷セラルルヤモ測

ニ通告シ連盟国中之ニ對シ異議ヲ挟ムモノ無カリシ場合
ニハ連盟ノ默認ヲ得タルモノト為シ前記「ドラモンド」
ノ云ヘルカ如クソレニテ連盟ノ関スル限り事件解決ヲ告
ケタルモノト心得更ニ進ンテハ暗ニ之ヲ以テ將來ニ對シ
好個ノ先例ヲ為スモノト為シ今後同様ノ場合起キタル時
ニハ同様ノ措置ヲ取り得ヘキ自由ヲ許容セラレタルモノ
ト一般ニ考ヘラル

三、支那ノ理事再選問題ニツキ「ドラモンド」曰ク

小国ノ中ニハ理事国タルモノハソノ職分ノ重大ニシテ他
ノ連盟国ニ比シ優越ナル權利ヲ行使シ得ル反面連盟国タ
ル義務遂行ノ点ニツキ欠クル所アル支那ノ如キハ再選ノ
資格ナシト主張スルモノアレ共若シ亜細亞ヨリ理事ヲ出
ストセハ矢張支那ヲ以ツテ最モ有力ナル候補国トスヘク
又米國殊ニ「ロシア」ニ對スル關係上少クトモ當分ノ間
連盟ニ於テ支那ヲ抱キ込ミ置クコト有利ト考ヘラルル理
由アレハ支那ニ於テ滯納金支払義務ヲ成ル可ク速ニ履行
スヘシトノ確ナル誓約ヲ為スニ於テハソノ再選ヲ支持シ
テ可ナリトノ意見ナリ英國政府ハ内心必シモ支那ノ再選
ヲ悦ハスサリトテ英國ノ反對アリタルカ為メ落選セリト

ノ感想ヲ支那側ニ与フルハ大局上好マシカラサレハ決シテ再選ニ妨害ヲ加フル事ハ無カル可シナホ内密ナカラ一言シタキハ「フオレーン・オフィス」ニ於テハ南軍カ斯克早ク北京ヲ陥ルヘシトハ予期セサリシ次第ニテ（支那通ト称セラルル当局中ニハ南方ニ北方討伐ノ実力ナク当分南北対峙スルモノト予測セル者モアリシ由）ソノ後急転直下ノ勢ニテ事件シタルヲ以ツテ少ナカラスマコツキ居ル様子ナリ日本側ト雖モ恐ラク同様ニアラスヤト笑ヒ居レリ

八月二十三日

205 昭和3年9月5日 在ジュネーヴ連盟三全権より
田中外務大臣宛(電報)

連盟総会に対する中国の非常任理事国再選資格要求について

ジュネーヴ 9月5日後発
本 省 9月6日前着

第八号

支那全権ハ四日一昨年総会ノ際決セル非常任理事国選挙規

則第二条及第四条ニ基キ同国ニ対スル互選資格付与ノ要求ヲ正式ニ総会ニ提出シ次テ五日一般討議ノ劈頭演説ヲ為シ支那ノ特殊国際地位ヨリ生スル希望ヲ述ヘ統一セル新支那ノ国際連盟ニ対シ協力ヲ抽象的ニ叙述シタルモ日支問題ニハ何等言及セス要旨ハ「ボルドー」局「ラジオ」放送ニテ御了知相成度シ

206 昭和3年9月10日 在ジュネーヴ連盟三全権より
田中外務大臣宛(電報)

連盟総会における中国の非常任理事国再選資格要求否決について

ジュネーヴ 9月10日後発
本 省 9月11日前着

第一八号

一、九月十日総会ニテ投票ノ結果支那ノ理事再選資格要求ハ二十七票ヲ得タルモ必要数タル総投票数「五十」ノ三分ノ二ニ達セス失格ス

二、同日非常任理事国選挙ヲ行ヒ(投票数五十)支那、和蘭、「コロンビヤ」三國ノ後任トシテ西班牙四十六、波斯四

十及「ベネズエラ」三十六、当選ス

三、次テ西班牙ハ九月七日総会ニテ採択セラレタル再選資格予諾ニ関スル特別規定(総会議題二十四)ニ基キ要求ヲ為シ投票数四十七票ノ内三十七票ニテ三年後ノ再選資格ヲ得タリ

207 昭和3年9月13日 在ジュネーヴ連盟三全権より
田中外務大臣宛(電報)

中国の連盟理事国問題などに関する安達大使と王中国連盟代表との会談について

ジュネーヴ 9月13日後発
本 省 9月14日後着

第二〇号

九月十二日及十三日ノ両度ニ亘リ安達大使ト支那代表王景岐トノ間ニ為シタル談話要領左ノ通

一、王ヨリ支那ハ来年総会ニ常任理事国タラム事ノ要求ヲ為ス積リナリトテ好意的考慮ヲ求メタルニ依リ其ノ重大且困難ナル事ヲ説示シタルニ対シ独逸ニ与ヘタルモノヲ支那ニ与ヘラレサル理無シト応シ執レニスルモ来年ハ常

任理事又ハ非常任理事再選ニ関スル要求ヲ為スニ至ルヘキ旨ヲ述ヘタリ

二、王ヨリ済南事件満州問題及条約改訂問題ニ関スル現状並ニ日本ノ態度ヲ尋ネタルニ付累次御電報ノ趣旨ニ依リ可然説明シタルニ王ハ何分日支間ノ交渉捗々シカラス満州ノ状態明カナラサルニ於テハ自然支那政府ハ輿論ニ引摺ラレ何等カノ手段ヲ執ラサルヘカラサルニ至ルヘク憂慮ニ堪ヘスト繰返シ述ヘタリ

尚十二日会談ノ際王ハ理事問題ニ付述ヘタルノミナリシカ十三日朝ニ至リ至急面会ヲ求メ来リ理事問題ヲ再話シ直ニ転シテ日支問題ニ移リ多少急キ込ミタル態度ニテ熱心ニ本使ノ言ヲ傾聴シ居タルヨリ見レハ或ハ今朝アタリ本国政府ヨリ何等訓電ニ接セルモノカトモ推測セラルル節アリ英、米ニ転電シ仏、独、伊、白ニ暗送セリ

208 昭和3年9月25日 在ジュネーヴ連盟三全権より
田中外務大臣宛(電報)

王中国連盟代表とドラモンド連盟事務総長との会談の際中国援助問題に言及について

第四二号

ジュネーブ 9月25日後発
本 省 9月26日前着

王景岐ハ二十日再ヒ「ドラモンド」ヲ往訪シ支那ト連盟トノ關係ニ就キ熟考ノ結果

(一)支那ヨリ常任理事国ノ席ヲ要求スルコト

(二)西班牙ノ例ニ倣ヒ大国側ヨリ半常任理事国資格付与ノ約束ヲ取付クルコト

(三)一切ノ不平等条約改訂問題ヲ連盟ニ提出スルコト

ノ三案アリトノ結論ニ達シタルカ右ノ内(二)ニ就テハ大ナル困難アリ(三)ニ就テハ支那政府ノ政策カ各国別交渉ニアルノミナラス「ベルサイユ」条約トノ關係上規約第十九条ノ適用ニ付仏国側ニ反対アルヲ以テ望ナカルヘキモ(一)ハ比較的簡單ナリト思考スル旨述ヘタルニ対シ「ド」ハ

(一)一切ノ不平等条約改訂問題ヲ連盟ニ持出スハ不賢明且不可能ナルヘキモ或国ト長期ニ亘リ条約改訂ノ交渉ヲ行ヒ而カモ商議不調ニ終リタル場合ニハ之ヲ連盟ニ提出スルモ不可ナカルヘシト答ヘ

(二)最近当地新聞ノ報道セル支那連盟脱退説ニ言及シ連盟脱

ヘシトノ論説ヲ掲載シ居レリ

右ハ連盟ハ何等カノ形ニテ支那ニ助力ヲ与フヘシト為スノ空氣当地ニ於テ相当濃厚ナルヤノ一端ヲ示スモノトモ見受ケラル何等御參考迄

209 昭和3年9月27日

在ジュネーブ連盟ニ全權ヨリ
田中外務大臣宛(電報)

連盟事務局要人の訪中などに関する王中国連

盟代表の杉村次長に対する内話について

ジュネーブ 9月27日前発

本 省 9月28日前着

第四八号

二十五日王景岐ハ杉村公使ニ対シ大要左ノ通内話セル趣ナリ

(一)支那カ半常任理事国ノ資格ヲ得ル事ハ規則上今後三年間不可能ニシテ又常任理事国タル事ニ就テハ事務総長自身サヘ難色アリ加之規約第一九条ニ依リ不平等条約ノ撤廃ヲ計ラムトスルカ如キ手續キ方法ハ支那輿論ノ満足ヲ買ヒ得ヘキニ非ス故ニ矢張現在ノ如ク各国ト個々ニ交渉ス

退ニハ二年ノ予告ヲ要スル処此ノ二年間ニハ支那カ再選資格ヲ得ルコトモ可能ナルヘク又三年後ニハ再選セラルヘキコト殆ント確実ナルニ拘ラス今脱退ノ通告ヲ発スルコトハ賢明ナラサル所以ヲ説得シ

(二)支那政府トノ直接接觸ヲ計リ殊ニ支那カ規約第四条第五項ニ依リ受クヘキ利益ヲ充分ニ説明スルヲ為連盟事務局員(自ラ行キタキモ右ハ困難ナルヘク人選ハ未タ考ヘ居ラス)ヲ支那政府ニ派遣スルヲ有益ト考フル旨提言セル趣ナリ

右ハ杉村公使ヨリ得タル極秘内報ナルカ同公使ノ感想ニ依レハ最近連盟事務局内部ニ於テハ連盟ノ支那援助論盛ニ行ハレ居ル模様ニテ右「ド」ノ所言ノ如キハ其ノ一証左ト云フヘク大ニ注意ノ必要アリトノ事ニテ本官等カ各方面ノ人々ト会谈ノ際得タル印象モ同様ナリ

他方二十三日「ジュジュウナル・ド・ジュネーブ」ハ「吾人ハ何ヲ支那ニ提供シ得ヘキカ」ト題シ支那ハ政治的方面ニ於テハ規約第十九条ニ依リ条約改訂問題ヲ連盟ノ考慮ニ付スヘク技術的方面ニ於テハ財政、交通、保健ノ各問題ニ付経験アリ且何等ノ対価ヲ要求セサル連盟ノ助力ヲ求メ得

ルヲ最上ノ策トシ徒ニ連盟ニ望ミヲ繫クハ愚ナリ但連盟脱退ハ大ニ考ヘモノナルヘシ

(二)連盟事務局情報部長カ数日前「ジュルナル・ド・ジュネーブ」主筆ヲ動カシ支那ニ関スル社説ヲ出サシメタルカ如キ其ノ好意ハ多トスルモ果シテ如何ナル程度迄彼ヲ信頼シテ可ナルヤ昨今少シク疑ヒ始メタリ欧米人ハ兎角日支両国間ノ紛争ヲ面白カル風アリ惡ムヘシ(因ニ二十四日情報部次長「米人」ハ杉村ニ対シ同人及情報部長ハ山東派遣軍カ今尚現地占領ヲ続ケ居ルニ拘ラス支那カ進ンテ連盟ニ訴ヘサルハ要スルニ連盟ヲ信用セサル為ニシテ此ノ点ハ連盟各理事ニ於テモ大ニ反省ヲ要スヘシトテ支那側及事務総長ニ対シ種々意見ヲ具申セシモ目的ヲ達セス遺憾ナリト語レル由)ナリ

(三)事務総長又ハ事務局員支那行ノ件ハ何等支那側ヨリ申出タルモノニ非スシテ全然事務総長ノ発意ニ依リ話題ニ上リ総長ヨリ南京政府ノ内意確カメ方依頼アリタル次第ナリ惟フニ連盟ト支那トノ關係ヲ密接ニシタリトテ支那再建事業ニ何程ノ効果アルヤ疑問ニシテ新時代ノ支那人ハ寧ロ米又ハ露ニ近ツク傾向ヲ有ス連盟ノ対支借款論ノ如

キ眉唾物ニテ支那トシテハ国際共同管理ニ飽ク迄反対ノ
覚悟ナレハ連盟カ支那ヲ欧強国並ニ取扱ハムトスルハ大
ナル誤ナリ寧ロ先決問題ハ不平等条約撤廃ニアリ云々
尚右(三)ニ関シ最近杉村ヨリ得タル情報ニ依レハ王ハ南京政
府ヨリ「ドラモンド」自身渡支セハ大ニ歓迎スヘシトノ回
電ニ接セル趣ニテ又「ド」ハ杉村ニ対シ自分ハ南米及「ド
ミニオン」等ヨリ招待ヲ受ケ居リ渡支覚束無カルヘク其ノ
場合ニハ事務次長「アブノル」ニ出張ヲ請フ考ヘナリト語
レル趣ナリ
英、米、仏へ暗送セリ

210 昭和3年10月3日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

アブノル連盟事務次長の中国派遣に關シドラ
モンド連盟事務総長より杉村次長に内話につ
いて

第一四三号

パ リ 10月3日後発
本 省 10月4日前着

モ之ニ同意セル趣ニテ右会談後「ド」ヨリ王正廷宛電報ヲ
以テ右「ミツシヨン」派遣方ヲ正式ニ提議スルト共ニ「ア
ブノル」ヲ代理トシテ出張セシメ度キ旨及南京政府ニ於テ
主義上右ニ同意ナラハ出発ノ時期等ハ追テ提案スヘキ旨申
入レタル趣ナリ
尚右会談ノ際杉村ハ斯ル重大事ニ付初メヨリ自分ニ諮ラス
協議ヲ為セルニ対シ態ト不快ノ色ヲ見セタル処「ド」ハ総
会中日本ノ対支政策ニ対スル強キ反感各方面ニ伏在セルコ
トハ日本側ノ想像以上ニテ若シ此ノ協議ニ初メヨリ日本側
ヲ加フルトキハ万事打壊シトナル惧アリタルカ為ナリト弁
解シ寧ロ総長自身トシテハ我方ニ対シ好意的態度ヲ執レル
コトヲ仄カセル趣ナリ
英、米へ暗送セリ

211 昭和3年10月8日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

アブノルの中国派遣を中国側受諾との新聞報
道について

パ リ 10月8日後発

(1) 三全権発往電第四八号ニ関シ

杉村公使ノ内報ニ依レハ總會終了後「ドラモンド」ハ杉村
ニ対シ支那問題ニ付徐ニ懇談シタキコトアリト前提シ先ツ
總會中王景岐ノ執レル措置ハ全然自己本位ニシテ感服セス
ト批判シタル後支那ノ非常任理事落選ノ数日後彼カ南京政
府ニ対シ連盟脱退ヲ勧告セルコト明白ナレルヲ以テ急ニ
対策ヲ講スルノ必要起リ先ツ南京ト寿府トノ通信連絡カ彼
独リノ手ニ依リテ行ハルルノミニテハ徒ニ誤解ヲ招ク惧ア
ルニ依リ情報部長及支那人部員呉ト王寵恵トノ間ニ通信ヲ
行ハシメ(王ハ之ニ対シ大ニ不快ナルモノノ如シ)又当座
ノ措置トシテ南京ニ「ミツシヨン」派遣方ヲ提議シタルニ
王寵恵ヨリ大ニ歓迎スヘキ旨回電アリタリ然ルニ自分「ド
ラモンド」ノ出張ハ困難ナル事情アルニ付事務総長代理
「アブノル」ニ依頼シ其ノ同意ヲ得来年三月及六月理事会
ノ間ニ呉及一、二名ノ西洋人書記官随伴南京ニ赴クコトニ
内定セルカ

(2) 「ミツシヨン」ノ性質上東京立寄ハ差控ヘ度キ考ナリト語
レルニ付杉村ハ来年三月迄ニハ日支關係モ変化スヘキニ付
東京行ノ件ハ今直ニ決定ヲ急ク要モナカルヘシト述ヘ「ド」

本 省 10月9日前着

第一五一号

往電第一四三号ニ関シ

事務総長ヨリ支那政府ニ対シ「アブノル」派遣方申入レタ
ルニ対シ支那側ヨリ承諾アリタル旨寿府通信トシテ七日ノ
諸新聞ニ掲載セラル
英、米、仏へ転電セリ

212 昭和3年10月13日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

アブノル訪中の際の本邦立寄りにつき意見具申

パ リ 10月13日後発
本 省 10月14日前着

第一六〇号

往電第一四三号ニ関シ

杉村公使ハ「アブノル」カ東京行ヲ避クル考ナルハ恐ラク
情報部長等ノ小刀細工ニ出テタルモノナルヤノ印象ヲ有シ
「ア」ノ使命カ非常任理事選挙ニ失格セル支那ト連盟トノ
關係疎隔ヲ防クニアラハ該選挙ニ好意的態度ヲ執レル日本

ヲ疎ニスル理由ナク又支那ノ借款問題等ニ関スル瀬踏ニアリトセハ支那ニ対シ最も利害関係ヲ有スル日本ヲ度外視スルハ連盟自体トシテモ良策ニアラサルヲ以テ南京訪問後東京ニモ赴クヘキ旨勧告スルヲ適當トスルヤニ考ヘラルルモ他方彼ノ地位ハ事務総長代理ニシテ「ドラモンド」自身渡支ノ場合程重要ナラス又彼ヲ東京ニ招致スルハ偶々我ニ於テ連盟ノ対支事業ヲ重要視シ之ニ対シ何等具体的考慮ヲ払ハムトスルモノナルヤニモ解セラレ却テ面白カラサル結果トナルヤモ知レスト懸念シ当分ノ内何等本問題ニ触レサル方針ヲ取り居ル趣ニテ「ア」ノ東京行勧告ノ可否ニ対シ我方ノ意見ヲ徴シ来レルニ付テハ右ニ関スル御意向何分ノ儀御回電ヲ仰ク

米へ転電シ、英、仏へ暗送セリ

213 昭和3年10月14日

在英國佐分利(貞男)臨時代理大使より
田中(外務大臣宛(電報))

アヴノル中国派遣の意図に関する報道について

ロンドン

発

本省 10月14日前着

安達理事ヨリ

「ドラモンド」ハ帰英ノ途次二十二日本使ヲ来訪シ「アブノル」支那行ノ件ニ関シ總會中何等本使ニ諮ラサリシハ本件力極メテ機微且複雑ナルニ顧ミ自分一己ノ責任ニテ取扱得ヘキモノト認メタルカ為ニテ右ハ一九二一年第二總會ニテ採択サレタル「事務総長又ハ代理ハ適當ト認ムル場合ニハ特定国トノ接触ヲ保ツヘシ」トノ決議ニ基クモノナルコトヲ弁シタル後「ミツシヨン」派遣ノ事情ニ関シ總會ニテ支那ノ非常任理事再選失敗後王公使ヨリ南京政府ハ同公使ニ対シ常任理事席要求力連盟脱退カニ途ノ一ニ出ツヘキ旨電訓アリタリト通告シタルニ付常任理事ハ思ヒモ寄ラサルコト乍ラ連盟脱退ノ如キ不祥事ヲ見サル為「ミツシヨン」派遣案ヲ立テ王公使ヲ通シ南京政府ノ意見ヲ求メタル処王ハ本国政府ノ訓令ナリトテ事務総長自身出馬スルニ非サレハ不可ナリト告ケタルカ他方支那人情報部員ヲシテ直接南京ニ確メシメタルニ総長自身ニ非サルモ歓迎スヘキ旨回電アリタル旨説明シ

「ア」ノ使命ハ支那政府ト接触ヲ保チ連盟脱退ヲ防クコトノ外毫モ他意ナク從テ隨員モ「ア」ノ秘書官位ニ止メ他ニ

無号

十三日「テレグラフ」外交通信員ノ記事ハ「アブノル」ノ支那行ニ関シ連盟国多数カ未タ国民政府ニ法律上ノ承認ヲ与ヘ居ラサル此ノ際右ハ自然ナル好意ニ止マラサル事柄ト認メラルヘシ同氏派遣ノ事情ハ充分判明シ居ラサルモ支那ノ代リニ波斯ニ理事ノ議席ヲ与ヘタルニ対シ支那側ニ於テ連盟脱退ヲ以テ脅威セルコト其ノ主要動機ノ一タルカ如シ

尚多数ノ候補者中ヨリ財政ニ経験アル「アブノル」ヲ選定シタルコトハ興味アルコトナリ

214 昭和3年10月23日

在パリ佐藤連盟事務局長より
田中(外務大臣宛(電報))

アヴノル中国派遣の経緯に関する安達大使と ドラモンド事務総長との会談について

パ

10月23日前発

本

10月24日前着

第一七四号

往電第一六一号ニ関シ

何等ノ色彩ヲ帯ヒシメサル積リニテ来年始出発印度洋經由ノ予定ナルカ委細ハ二十七日英國ヨリノ帰途巴里ニテ王公使ト会见決定ノ筈ナリト語レリ尚往電第一六〇号「ア」ノ東京行ニ関シテハ未タ御回訓ニ接セサルニ付我方ノ立場ヲ「コミット」セス單ニ此ノコトニ言及シタル処「ド」ハ其ノ時ノ状況ニ依リ決スヘキモノト思考スト述ヘ「ア」出張ノ目的カ主トシテ支那ノ感情ヲ和ケントスルニアルニ鑑ミ余リ東京行ヲ希望シ居ラサルモノノ如ク見受ケラレタリ以上往電第一四三号杉村ニ対スル談話ト重複ノ点アルモ為念電報ス

英、米へ暗送シ、仏及杉村公使へ転報セリ

215 昭和3年10月26日

田中(外務大臣より)
在パリ佐藤連盟事務局長宛(電報)

アヴノルの本邦立寄りを通盟事務総長に要請

方訓令

本

10月26日後発

第一五一号

貴電第一七四号ニ関シ

「アブノル」カ支那迄来リ乍ラ全然本邦ニ立寄ラサルトキハ或ハ連盟カ特ニ支那鼻肩ナルカノ如キ印象ヲ一般輿論ニ与ヘ連盟ノ為ニモ反ツテ面白カラサル結果ヲ招ク惧アルニ付別ニ要談ハナキモ可成本邦ニ立寄ル様希望ス右ノ趣旨直接或ハ杉村ヲ通シ「ドラモンド」ニ御伝ヘアリ度シ英、米ヘ暗送セラレ度シ

216 昭和3年10月27日 在中国堀義貴(臨時代理公使より)
田中外務大臣宛(電報)

アヴノル中国派遣に関する英国側態度につき

英国公使の談話について

北 京 10月27日後発
本 省 10月27日後着

第一四八九号

貴電合第四一六号ニ関シ

同電報接到前二十五日英国公使ハ本官ニ対シ本国政府ニ尋ネタル処右ハ支那側ノ連盟脱退ヲ阻止スル為ナル旨ノ返電ニ接シタル旨語りタル事実アルニ付二十七日同公使ヲ往訪ノ際右貴電ニ依リ「ドラモンド」内話ノ要旨ヲ説明シタル

シ杉村公使ノ内報左ノ通

「ドラモンド」ヨリ「アブノル」ハ仏人秘書同伴十二月十四日頃出発仏国船ニテ一月中旬支那着ノ予定ナル旨告ケタルニ王ハ右ニテ結構ナリト述ヘ滞在期間ニ付「ド」ヨリ十日乃至二十一日ノ間ニテ支那政府ニ於テ定メラルヘキ旨答ヘタリ「ア」ハ支那ノ外暹羅、日本等ニモ立寄ルヘキヤトノ王ノ問ニ対シ「ド」ハ今回ノ「ミツシヨン」ハ夫レ自身ハ全然支那ヲ目的トスルモノナルモ「ア」ハ多分米国經由(加奈陀經由カ合衆国經由カ未定)帰任ノ筈ナレハ乗船日本寄港ノ際日本政府ニ敬意ヲ表スル事必要且望マシク右ハ又極メテ自然ニシテ礼讓ニ合スル儀ト思考スト述ヘタルニ王ハ何等異議ヲ唱ヘス承諾セリ王ヨリ連盟ノ支那援助論ニ関スル新聞記事及事務局内部ノ噂ニ付尋ネタルニ対シ「ド」ハ「ア」ノ使命カ単ニ第二回總會決議ノ趣旨ニ依リ支那政府トノ接触ヲ保ツニアルコト既ニ申述ヘタル通りナルモ支那側ヨリ連盟機關ノ仕事振又ハ其ノ利用方法等ニ関シ情報ヲ求メラレタル場合ニハ勿論之ニ答ヘ得ル準備アリ但シ「イニシアチブ」ハ必ス支那側ニテ取ラルヘキモノニシテ事務総長又ハ代表ニ

ニ英国公使ハ眉ヲ顰メテ連盟カ自己ノ useful ナルコトヲ証明スル為諸種ノ難問ニ手出シヲ為スハ其ノ動機ハ誠ニ結構ナルカ一度支那問題ニ手出シヲセハ手ヲ焼クノ危険アルヘシ依テ自分ハ支那側カ各種ノ問題ニ付連盟ヲ利用セントスル手ニ乗ルヘカラサルコトヲ再三本国ニ電報シ其ノ都度政府モ之ニ賛同シ居タル次第ナルカ故ニ支那側ニ利用セラハル虞アル本件「ミツシヨン」ニ付テハ英国政府ハ事前何等関知セサリシナラムト語りタリ
上海、南京、奉天、濟南、青島ヘ転電セリ

217 昭和3年11月(1)日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

アヴノル訪中の日程および経路などに関する

事務総長と王代表との会談について

パ リ 本 省 11月1日前着 発

第一八四号

往電第一八二号ニ関シ

一、本官トノ会談後事務総長カ王公使ト会见セル模様ニ関

テハ技術的「ミツシヨン」ヲ派遣シ又ハ連盟ニテ調査ヲ行フコトヲ取極ムル権限ナキ次第呉々モ御承知アリ度旨ヲ述ヘタリ

尚王ハ「ア」ノ渡支ト同時ニ自分モ帰朝スル必要アリヤニ関シ南京ニ電訓シタルモ未タ確答ヲ得サリシ趣ニテ右ニ関シ「ド」ノ意見ヲ求メタルニ付「ド」ハ「ア」ノ使命ニ顧ミ其ノ要無カルヘキコトヲ仄シタルカ王ハ更ニ請訓スヘシト語り帰朝ヲ希望スルモノノ如ク見受ケラレタル趣ナリ

二、「ア」渡支ニ関スル英国ノ態度ニ関シ「ド」ハ往電第一八二号会談ノ際本官ニ対シ英国側ハ政治上若ハ財政上等特殊ノ目的ヲ有セサル「ミツシヨン」ノ派遣ナレハ別段異議無ク寧ロ支那ヲ連盟ニ引止ムル為有益ナルヘシト認メ居レル旨ヲ語レルカ「ベルトロー」モ安達理事ニ対シ右ノ程度ノモノナラハ別ニ反対ニ非ストノ態度ヲ示シタル趣ナリ

三、尚「ド」ヨリ本官トノ会談ハ当分秘密ニ付セラレタシト申出タルニ付本邦ニテモ新聞ニ洩レサル様御配慮ヲ請フ

英、米へ暗送シ、仏へ転報セリ

218 昭和3年11月15日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛(電報)

アヴノルの本邦正式訪問に関しその接待につき意見具申

パ リ 11月15日後発
本 省 11月16日前着

第一八八号

往電⁽¹⁾第一八七号ニ関シ

本件ハ元来支那ヲ目的トシテ発案セラレタルモノニシテ当初ヨリ日本ニ敬意ヲ表スル為ニ計画セラレタル事情ヲ異ニシ又「ドラモンド」カ右支那訪問ヲ考案セル当初ニ於テ杉村公使ニモ相談セサリシ行懸アルモ貴電第一五一号ノ御趣旨ヲ通シタル結果トシテ連盟側ヲ経テ改メテ正式ニ日本訪問ノコトニ変更セル以上我方トシテハ総テノ行懸ヲ棄テテ相当ノ礼ヲ以テ右訪問ヲ受ケラルルコト可然キヤニ存セラルルニ付テハ帝国政府ヨリ更ニ「アブノル」来訪ヲ歓迎スル旨連盟側ニ通セラルル様御取計ヲ得ハ好都合ナリ(從

来ノ例ニ依レハ連盟代表者ノ各国訪問ハ該国ノ招待アリタル場合ニ限ル由ナレトモ今回ハ支那訪問後本邦立寄ノコトニ付多少趣ヲ異ニシ連盟側ヨリ申出テタル形トナレリ)依テ右ニ御決定ノ場合同人待遇振リニ関シ従前連盟代表者ノ欧州各国訪問ノ際受ケタル待遇ヲ参照シ杉村公使トモ協議ノ要アリ左ノ通卑見御参考迄ニ申進ス

(一)支那側ニテハ宣伝ノ意味ヲ以テ或ハ大袈裟ナル接待ヲ為スヤモ計リ難キ処本邦側トシテハ寧ロ地味ニシテ内容アル接待望マシク

(二)支那若ハ仏国等ニ其ノ類例ヲ見サル我皇室ノ尊嚴ヲ感得セシムル為出来得レハ両陛下ヨリ謁見仰セ付ケラルル様致シタク尚往年連盟本部御訪問遊ハサレタル秩父宮殿下、同妃殿下ニ拝謁相叶ハハ好都合ト存セラル

(三)其ノ他連盟成立即チ講和會議時代ノ我元老諸公並ニ連盟總會及理事会等ニ代表トシテ出席セラレタル諸先輩ト会谈ノ機ヲ与ヘラレ且連盟協會等ニ於テ相当ノ催シヲ為サルコトト致度シ

(四)尚「ア」本邦着ノ上ハ本省ヨリ相当ノ接待員ヲ派シ京都、奈良、日光等ヲ案内シ又欧州各国訪問ノ例ニ倣ヒ滞在中

一行ノ宿舍供与等各種便宜供与方御配慮願ヒ度シ

要スルニ連盟専門機關事業ヲ担任セル「ア」ノ来訪ヲ機トシ極東ニ於ケル日本ノ地位ヲ充分ニ諒解セシメ好感ヲ抱キテ帰任スル様御取計ヲ得タク将来連盟ニ於ケル本邦ノ立場ハ為ニ大ニ容易トナリ我方活動上ニモ多大ノ便宜ヲ受クヘシト信ス帝国政府ノ御接待振ニ関シテハ成ルヘク「ア」寿府出発前大要知ラセ置キタキニ付御決定ノ次第成ルヘク早目ニ御電訓相成様致度シ

右安達理事御承知済

英、米へ暗送シ、仏へ転報セリ

219 昭和3年11月24日 田中外務大臣より
在パリ佐藤連盟事務局長宛(電報)

アヴノルの本邦訪問を歓迎する旨連盟側に通

報方訓令

本 省 11月24日後発

第一六六号

貴電第一八七号ニ関シ

「アブノル」氏ノ本邦ヲ正式ニ訪問セラルルコトトナリタ

ルハ帝国政府ノ甚タ欣快トスル所ナリ政府ハ喜ンテ同氏ノ来着ヲ待受クル旨杉村ヲ経テ連盟側ニ通報セラレ度シ

英、米へ暗送シ、仏ニ転報アリ度シ

220 昭和3年12月6日 在パリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛

訪中に関する杉村次長とアヴノルとの会談について

機密連本公第七八三号 (昭和4年1月11日接受)

昭和三年十二月六日

在巴里

国際連盟帝国事務局長 佐藤 尚武(印)
外務大臣男爵 田中 義一殿

「アブノル」極東訪問ニ関スル杉村公使「ア」

会談要旨伝達ノ件

数日前連盟事務総長ト共ニ独逸波蘭訪問ヲ終ヘテ帰寿セル杉村公使ハ「アブノル」事務副総長日支両国訪問ノ件ニ関シ同氏ト意見ヲ交換セル趣ニテ其ノ要旨左記ノ通内報アリタル処右ハ特ニ御参考トモ相成ルヘシト存シ茲ニ伝達申進

左記

四日「アブノル」ニ対シ日本ノ現状殊ニ日支ノ関係ニ付長時間説明セル後種々意見交換ノ結果次ノ二点ニ付意見一致セリ

(一)支那問題中過去ニ起リタルモノノ解決例へハ濟南事件不對等条約改訂問題ノ処理等ニ付テハ連盟ニ於テ一切之ニ手ヲ出ササルコト

右ハ治外法権撤廃関税自主権回復等ニ付南京政府カ各国ト個々ニ交渉スルヲ利ナリト考ヘ連盟ヲ介シテノ談判ニ依リ諸外国間ノ協調ヲ見其ノ協同的圧迫ヲ受クルヲ好マサル風アルト關係諸国政府ノ支那ニ対スル意見現時ノ如ク区々タル間ハ連盟ニ於テ如何ニ骨折ルモ一定ノ方策ヲ樹立シ其ノ貫徹ヲ図ルコト困難ナルヘキカ為ナリ

(二)将来ニ於ケル支那再建ノ事業ニ付テモ例ヘハ単ニ技術的方面(交通衛生等)ニ於テ「アドバイザー」ヲ派遣スルカ如キハ別トシ海関ノ制度改革新借款ノ応募ノ如キ大問題ニ付テハ先ツ支那側ヨリ進テ之ヲ希望シ借款団及各国政府ニ於テモ連盟ニ依ルニアラサレハ問題ノ解決困難ナ

リト認ムルニ至ル迄自重シテ態度ヲ表明セサルコト

右ニ付「アブノル」ハ之ハ内々ナルカ塊太利匈牙利財政救済希臘勃牙利公債等ニ成功シタル連盟財政部長「サー・アーサー・ソルター」初メ同部員等ハ此ノ際速ニ支那借款問題ニ手ヲ付ケ新タナル功名ヲ立テムト焦ル風アリ支那ト欧州トハ事情ヲ異ニシ且支那借款ニ付テハ永キ歴史存スル次等ニモアリ過去ニ於ケル連盟ノ経験ハ支那問題ヲ料理スル上ニ左程役立ツヘシトモ思ハレス故ニ早速「ソルター」ト面談シ先ツ輕拳ヲ戒メ次テ支那新借款問題等ノ解決ニ付テハ米國ノ協力ヲ必要トスルハ勿論從來支那借款団ニ於テ働ケル支那通財政家ノ協力ヲ仰クコトヲ忘ルヘカラサル旨ヲ説得スル考ナリ尚「ウォール・ストリート」ノ連中ハ案外臆病ナレハ支那ニ於テ新タニ外債ヲ募集スルコトトナリテモ米國单独ニテ巨額ノ募集ヲ為スカ如キコト自分從來ノ經驗上殆トアリ得ヘカラスト付加セリ

尚「アブノル」渡日ノ期間道順等ニ付テハ決定次第支那滯在中成ルヘク早目ニ青木支局主任ニ電報スヘキコト若シ滿鮮經由ナラハ奉天迄青木主任出迎フルコト内地ニ入りテヨ

リ着京迄約十日間関西地方等ヲ觀光シ視察スルコト在京日

數ハ約十日間トシ其ノ間能フヘクムハ別ニ三日程ノ予定ニテ日光ニ往復スルコト等ヲ述ヘタルニ大イニ喜ヒ自分トシテハ成ル丈地味ニ本件ノ事情ヲ視察研究シ度キ希望ナレハ万事其ノ御含ニテ御取計ヲ受ケ度ク殊ニ政府要路ノ大官並外交、財政、經濟等ノ方面ニ於テ重要視セラルル幾人カノ日本名士ヲ往訪シ隔意ナキ談話ヲ為スヲ得ハ仕合セナリト申添ヘタリ

本信写送付先 英、米、仏各大使

221 昭和4年1月(29)日

在上海矢田(七太郎)総領事より
田中(外務大臣宛)(電報)

アブノルとの中国政局に関する会談について

上海 1月29日前着 発

第一〇五号

貴電合第三一〇号ニ関シ

二十六日「アブノル」来滬シ本官ニ面会ヲ求メタルモ折悪ク不在ナリシ為二十八日更メテ来訪セリ依テ一時間余ニ亘

リ談話ヲ交換シタルカ其ノ要旨左ノ如シ

先ツ「ア」ハ三十日南京ニ赴ク予定ナリトテ其ノ前ニ一応國民政府其ノ他支那政局ニ関スル本官ノ意見ヲ承知シ度シト述ヘタルニ付本官ハ自分ノ觀ルルニテハ世上南京政府ノ将来ニ関シ悲觀説ヲ唱フルモノノ根拠トスル処三点アリ則チ

第一ハ南京政府軍部首腦者間ノ確執ナルカ右ハ編遣會議カ兎ニ角円満ニ終了シタルニ鑑ミルモ將又目下本問題ニ付テハ輿論ノ力甚タ強ク從テ將領間ニ於テモ此ノ際輿論ニ反シ好ムテ疑惑ヲ招クカ如キ態度ニ出ツル程ノ無分別者モアラサルヘキニ鑑ミ結局馮ノ如キ最モ野心家ト称セラルルモノト雖本問題ニテ争ヲ起スコトハナカルヘシト思考セラル又第二ハ國民黨内左右兩派ノ争ナルカ之モ前々ヨリ唱ヘラルル処ニシテ尚右ニ関シテハ來ル三月十五日ノ會議ノ結果ニ付悲觀説ヲ為スモノモアルモ從來ヨリノ經驗ニ依レハ本問題ノ如キハ兎ニ角何トカ纏マリ行クモノト想像セラル更ニ第三ハ所謂旧軍閥殘党ノ陰謀ナルカ右ハ張宗昌ヲ始メ安福系其ノ他種々ノモノアル処之モ巴里辺ニ於ケル白系露人ノ「ソビエツト」転覆計画ヲ説クト均シク彼等一派ノモノ

ノ言ヲ聞ケハ相当有望ラシキ談ナルモ其ノ実現性ニ付テハ甚タ疑問ナリト言ハサルヲ得ス然ルニ他方国民政府ノ財政ハ新税率実施ト共ニ漸次改善ニ向フモノト予想セラルル点モアリ旁々目下ノ状況ニ於テハ同政府ノ前途ハ大体ニ於テ基礎ヲ固メツツアリト認メラルル次第ナリ但シ用心深キ米國ノ資本ヲ招致スルニハ更ニ兩三年継続シテ対外信用ヲ確実ニ樹立シタル後ナラサルヘカラスト述ヘ更ニ其ノ他ニモ種々「ア」ノ質問ニ答ヘ置キタル処「ア」ハ之ヲ謝シ然ラハ兎ニ角南京ニ赴キ一応ノ感想ヲ得タル上再ヒ来訪シ貴下ノ批評ヲ仰クコトトナシタシト述ヘテ辞去シタリ御参考迄北京、南京、漢口ヘ転電セリ

222 昭和4年1月(31)日 在南京岡本(二策)領事より
田中(外務大臣宛)(電報)

山東出兵などに関するアヴノルの中国紙記者との会見について

南京 1月31日後着

第一〇三号

223 昭和4年2月3日 在南京岡本領事より
田中(外務大臣宛)(電報)

アヴノルの蒋介石への謁見について

南京 2月3日後着
本省 2月3日後着

第一一五号
往電第一〇三号ニ関シ

其ノ後「アヴノル」ハ国民政府及党部要人ニ敬意ヲ表シ劉司長、宋子文、胡漢民中央党部等ヨリ連日招待セラレ居タルカ昨二日午前中正式ニ蒋介石ニ謁見シ同人ヨリ蔣ニ宛テタル謁見書ヲ提出シ蔣ヨリ答弁アリタル趣ナルカ新聞ニ発表セラレタル右謁見書ナルモノヲ見ルニ「ア」ハ国際連盟ノ宗旨ヲ敷衍シテ支那ノ貢献ヲ希望シ蔣ハ右答辭ニ於テ国際連盟力規約第二六条ニ依リ各国ノ独立ヲ保持シ弱小民族ヲ援助センコトヲ希望シ将来若シ連盟ノ主張ト国民党ノ平等自由ノ原則ト相合スルニ於テハ支那ハ連盟ノ為ニ重大ナル犠牲ヲ払ヒ共ニ努力スル旨述ヘタル趣ナリ委細郵報北京、上海ヘ転電セリ

往電第九六号ニ関シ

三十日来寧外交賓館ニ入レル「アヴノル」ハ警報記者ノ質問ニ対シ支那ハ世界ニ向テ貢献スル処ナカルヘカラサルコト支那ヲ理事会ニ加フルコトハ手續上困難ナルノミナラス非常任理事国ハ理事国ノ増加ヲ欲セサルコト米國ハ事実上連盟ニ参加シ居ルコト並ニ連盟力國際平和ノ維持ニ努力シツツアル旨一々答ヘタル後記者カ日本軍ノ山東占領ニ関シ連盟ハ何等為ス所ナキニ非サト言ヘルニ対シ「ア」ハ言下ニ君(記者)此ノ点ヲ持出スコトハ自分ノ予期セル処ナリト擲諭シタル後日本カ山東ニ出兵セル当時支那ハ南北政府ニ分レ居リ国民政府ヨリ連盟ニ電報ヲ寄セタルモ何等責任者ノ署名ナカリシコトヲ知ラサルヤ当時日本モ「ジエネヴァ」ニ於テ弁明書ヲ發シタルカ連盟ハ支那側ノ電報ヲ各理事ニ配付スル等本件ニ関シ注意セサリシニ非スト答ヘタル趣ナリ

尚「ア」ハ当地二三、四日滞在ノ上漢口ニ赴キ北平、奉天ヲ經テ本邦ニ立寄り加奈陀經由帰欧スル由漢口、北京ヘ転電セリ

224 昭和4年2月13日 在ソ連邦酒勾臨時代理大使より
田中(外務大臣宛)

アヴノル訪中に関するイズヴェスチアの論調について

公第五一号 (3月4日接受)

昭和四年二月十三日

在「ソヴィエト」連邦

臨時代理大使 酒勾 秀一(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

「アヴノール」氏ノ渡支ニ関スル新聞記事ノ件
本月三日ノ「イズヴェスチヤ」ハ「支那ト國際連盟」ナル見出ノ下ニ國際連盟次長「アヴノール」氏ノ南京到着ニ関連シ益世報カ國際連盟ニ於テ支那ノ發展ヲ念トスルカ如キ「アヴノール」氏ノ談ハ總テ取ルニ足ラス國際連盟ハ何一ツ支那ノ要求ヲ容レタルコトナシ英國ノ帝國主義ヲ盟主トシ之ヲ援クルニ日本ノ若キ帝國主義ヲ以テスル連盟ハ惡魔ノ寄合ニ外ナラス國際連盟ハ日本ノ山東占領ニ対スル支那ノ抗議ニ付テハ何等ノ注意ヲモ払ハサルモノニシテ支那ハ決シテ之ヲ忘ルルモノニアラス又理事会ニハ支那ノ代リニ

波斯ニ議席ヲ与ヘ將又最近阿片問題ニ関シテハ支那ノ損失ニ於テ日本ノ提議ヲ支持セリ支那カ連盟ニ加入シテ得ルモノハ唯害アルノミ支那ハ速ニ連盟ヨリ脱退セサルヘカラス「アヴノール」氏ノ到着ニ付テハ支那ノ民衆ハ全然無関心ニシテ同氏ヲ訪問スルモノハ役人ノミナリ其ノ談話ノ如キハ何等価値アルモノニアラサル旨ノ二日北平発「タツス」電報ヲ掲載シタル後一般のニ謂ヘハ特ニ過激のモノニアラサル支那新聞ヨリ國際連盟カ其ノ代表者「アヴノール」氏ヲ通シ受ケタル截然タル応酬ハ支那カ國際連盟ト關係ヲ維持シ参加セルコトヨリ得タル經驗ノ無駄ナラサリシコトヲ示スモノナリ帝國主義の大強國ノ圧迫ヲ體驗セル諸國ト同様支那ハ連盟ノ規約ノ莊嚴ナル言辞及嚴肅ナル宣言ハ實際上何等ノ意義ヲ有セサルコトヲ一再ナラス確信スルノ機會ヲ有セリ

帝國主義者ノ圧迫侵略の行為ニ対シ連盟ニ訴ヘタルニ付テハ何等ノ結果ヲモ齎サス連盟ハ常ニ紛争ノ高見ノ見物者タル以上ニ出テス這般ノ事實ハ昨春ノ日本ノ干渉及濟南事件ノ發生後ニ於テ特ニ顯著ナリ理事会ニ議席ヲ与ヘサリシ問題及阿片問題ニ関シ支那ニ最小限度ノ満足ヲモ与ヘサリシ

について

機密第一八五号

(3月13日接受)

昭和四年二月二十八日

在漢口

総領事 桑島 主計(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

國際連盟副秘書長「アブノール」氏一行ニ付

スル支那側ノ応酬振ニ関シ報告ノ件

國際連盟副秘書長「アブノール」氏一行二月二十三日当地來着四日間滞在ノ上二十六日北京ニ赴キタル次第及当地滞在中ハ支那側各方面ノ歡迎ヲ受ケ武漢衛戍司令胡宗鐸ノ如キハ「アブノール」氏ニ対シ水杏林車夫事件及当地第一、二特別区併合事件ニ付我田引水ノ答弁ヲ為シタル次第ハ往電第一四〇号ヲ以テ概要不取敢及報告置キタル通りナル処二月二十三日午前十時前記一行呉淞号ニテ來着スルヤ湖北交渉員甘介侯ハ科長劉明鈞ヲ隨ヘ船迄之ヲ迎ヘテ当地仏租界「ターミナス・ホテル」ニ案内セリ翌二十四日午前「アブノール」ハ秘書呉、彭二名ヲ隨ヘ胡宗鐸ヲ私邸ニ訪ヒ嗣テ甘介侯ノ主催ニ係ル午餐會ニ列席シタル後湖北省政府委

カ如キハ叙上ノ問題ニ比較スレハ第二義的意義ヲ有スルニ過キス國際連盟カ支那ノ輿論ヨリ同情ヲ得サルハ明ナリ然レトモ「アヴノール」氏ノ支那來遊ハ單純ナル國際連盟ノ所謂人道的行為ヲ宣伝スル以外ニ一層重大ナル政治目的ヲ有スルモノナリ新聞紙上ニハ同氏ノ到着ハ連盟ノ仲介ヲ經テ國際的支那復興借款ヲ起サントスル考案ト關連スル旨ノ報道現ハレ居ル処同氏ノ使命ハ結局米國ノ資本カ支那ノ財政經濟上ノ管理ヲ獲得セントスル地盤ヲ得シカ為ニ近ク支那ニ到着スル「カメレル」氏ノ有スル米國ノ財政上ノ使命ト競争スルニ至ルヘシ本件ハ目下ノ処單ニ噲ニ過キサレトモ果シテ然リトセハ近ク「アヴノール」氏ノ背後ニ英國ノ競争者タル米國ニ対シ連盟ヲ頡頏セシメントスル英國ノ外交ヲ見ルコト困難ニアラサルヘシトノ短評ヲ付加セリ

右何等御參考迄ニ報告ス

写送付先 國際連盟事務局長

225 昭和4年2月28日

在漢口桑島(主計)総領事より
田中外務大臣宛

アヴノールに対する当地中国側要人の対応振り

員但齋案内ノ下ニ武昌ニ赴キ省政府ヲ訪ヒ夜間胡宗鐸ノ招宴ニ出席シ翌二十五日ハ午前中ニ目下開會中ノ國貨展覽會ヲ參觀シ仏蘭西領事ノ主催ニ係ル午餐會ニ臨ミ夜間ハ武漢政治分会湖北省政府ノ連合歡迎會ニ列席シ二十六日武漢市長潘宜之ノ招待午餐宴ニ出席シタル後汽車ニテ北京ニ赴キタルカ右各種會合ニ於テハ主客共常套的外交辭例ヲ交換シタルモ特ニ目立タル交換意見左ノ如シ

一、胡宗鐸トノ談話要領

胡宗鐸ハ「アブノール」氏ノ水杏林車夫事件ノ真相及第一、二特別区併合事件並國民黨三民主義ト宗教トノ關係等ノ質問ニ対シテ答ヘテ曰(一)這次漢口ニ於テ水杏林車夫事件ノ發生シタルハ全ク日本帝國主義者ノ計畫の行動及野蠻的の行為ノ表現ニシテ而モ此ノ種事例ハ決シテ乏シカラス即チ支那ヲ目シテ經濟的落伍ノ無抵抗國家ト為スモノナリ日本ノ斯卡ル野蠻的の行為ニ対シテハ國際的ニ正義ヲ支持セラレンコトヲ望ム(二)支那政府ハ法理ノ指示スルトコロニ從ヒ前第一、二特別区ヲ武漢市政府ニ併合シタルモノニシテ如何ナル國家若クハ國民モ濫リニ之ニ干渉スヘキ筋合ノモノニ非ス而モ第一、二特別区ハ元來独露

両租界ヲ無条件ニテ回収シタルモノニシテ唯タ回収當時ハ外国人居住者ノ多キニ鑑ミ特區管理局ヲ設置シ当該管理局ヲシテ租界内外国人ノ生命財産ノ保護ニ任セシメタル迄ニシテ現ニ武漢ノ秩序回復シ市政府又正式ニ成立シタルヲ以テ市政統一ノ為メ右兩特區ヲ市ニ合併シタルハ法理上寧ろ当然ナリ

(三)国民党ノ主義ハ専ラ支那ノ政治問題ヲ解決セントスルモノニシテ政治ヲ輕視シタル羅馬法王ノ宗教偏重主義トハ全然撰ヲ異ニスルモノナリ云々

二、中山日報記者トノ談話要領

「アブノール」氏ハ中山日報記者ノ各種質問ニ対シ余ノ来支ハ一面國際連盟ヲ代表シ貴国政府ニ対シ連盟ノ今日迄取り来レル態度ヲ報告シ他面建設過程ニアル貴国ノ現状ヲ視察セントスルモノナリ革新前ノ貴国ハ國際間ニ何等ノ地位無カリシモ現下貴国ハ既ニ統一シタルヲ以テ國際連盟トシテハ貴国側ノ協力合作ヲ切望シ斯クテ一面貴国ノ國際地位ヲ向上シ他面世界平和ノ確立ニ貢獻セントスルモノナリ貴国南方諸省ノ政治的施設ヲ實地ニ見テ大ニ満足スルモノナリ唯表現的施設ハ何等人ヲ驚カスニ足

ルヘキモノ無キモ右ハ改革勿々經濟力不十分ノ結果ニシテ止ムヲ得サルヘシ但シ坦々タル馬路ノ建設ハ貴國建設精神ノ宏大ヲ想ハシムルニ足ルヘシ國際連盟ニ加入シタルモノハ北京政府ニシテ濟南事件ノ發生ハ北京政府ノ存在セル時代ナリ貴國ハ本件ニ付國際間ニ何等宣伝ヲ試ミサリシニ反シ日本方面ハ専ラ宣伝ニ努力シタル結果列國ハ寧ろ貴國ヲ非ニ解シ日本ニ同情ヲ表スルモノ多シ嗣テ貴國政府譚主席本件發生顛末ヲ國際連盟ニ報告スルニ至レルヤ連盟ハ速ニ之ヲ列國ニ轉知シ各國新聞又競ツテ之ヲ掲載セリ右ハ確カニ有力ナル宣伝方法ニシテ為之列國ノ濟南事件ニ対スル批評ハ漸ク轉換シツツアルモ要ハ貴國政府ニ於テ日本ト公平ナル解決ヲ図ルヘキナリ日支交渉ハ貴國ト日本トノ國交ニ関スルノミナラス世界ノ平和ニ又關係多シ貴國政府ニ於テ日本ト最短期間ニ之ヲ完全ニ解決スルコト最望マシキ事ナリト語り尚水杏林車夫事件ニ関シテハ「ゼネバ」帰還後個人的意見ヲ發表スル考ナリ云々

右報告ス
本信写送付先 北京、上海、南京、奉天

226 昭和4年3月(1)日

在パリ佐藤連盟事務局局長より
田中外務大臣宛(電報)

ライヒマン連盟保健部長の中国医事顧問就任 内諾について

パ リ 発
本 省 3月1日前着

第二二号

寿府杉村公使ヨリノ内報ニ依レハ支那政府ハ「ライヒマン」(事務局保健部長) Newsholme (英國衛生省局長) 及 Xictor Heiser (「ロックフェラー」財団支部派遣員) ニ対シ医事顧問受諾方申入事務総長ハ「ラ」ニ関スル限り頗ル好キコトト思ヒ内諾ヲ与ヘタル由ナリ
英、米へ転電シ独、伊、白、露、仏へ暗送セリ

227 昭和4年3月11日

在奉天林(久治郎) 総領事より
田中外務大臣宛

アヴノルの奉天における動向について

機密公第二五二号

(3月15日接受)

昭和四年三月十一日
在奉天
総領事 林 久治郎(印)
外務大臣男爵 田中 義一殿
國際連盟事務局副総長「アブノール」一行来
奉ノ件

往電第一九三号ニ関シ國際連盟事務局副総長「アブノール」一行三名ハ予定通り本月七日正午平奉線列車ニテ来奉瀋陽駅頭ニ於テ支那側ノ賓客トシテ張学良代理陳文学以下接待員及軍樂隊並駐奉仏國領事等ノ盛大ナル出迎ヲ受ケタル後支那側差廻シノ自動車ニテ特ニ旅館ニ充テラレタル城内同澤俱樂部ニ入り宮殿、東北大学、兵工廠、無電台等觀覽七日ハ張学良、八日ハ翟文選ノ各招宴ニ莅ミタル後八日午後十時四十五分奉天駅発南行列車ニテ大連ニ向ヘリ因ニ同行接待ノタメ来奉セル関東庁三浦外事課長及滿鉄外事課員武田胤雄ノ両氏案内ノ為メ旅大及安東迄随伴ノ筈
右報告ス

本信写送付先 在支公使

昭和4年3月31日

アヴノルの訪日誌

付記一 昭和四年三月一九日アヴノルの田中外務大臣

との会見録

二 昭和四年三月二日アヴノルの石井枢密顧問
官との会談摘要

国際連盟事務局副事務総長「アヴノル」氏来朝日誌

(昭和四年三月三十一日誌)

三月十三日(休)

午前七時関釜連絡船ニテ下関着外務省ヨリ派遣ノ佐藤外務事務官及青木連盟東京支局長ノ出迎ヲ受ケ山陽「ホテル」ニ入り新聞記者ト会見ス

午前八時四十分下関発午後十時京都着都「ホテル」ニ投宿ス

三月十四日(休)

午前中ハ桂離宮、二条離宮ヲ拝観、午後京都御所、修学院離宮ヲ拝観ノ後、智恩院、丸山公園、清水等ヲ見物ス

三月十五日(金)

一時外務省ヲ訪問吉田外務次官ト会談ス

正午半国際連盟協会主催午餐会(銀行倶楽部)ニ出席、同二時ヨリ同協会主催ノ談話会(中央亭)ニ臨ミ一場ノ講演ヲ為シ次ニ連盟協会及連盟事務局東京支局ヲ訪問、午後七時二十五分東京中央放送局ヨリ全国中継ニ依リ「ラヂオ」講演ヲ為ス

(青木支局主任通訳)

三月十九日(火)

午前ハ接客往訪、正午日本経済連盟会及工業倶楽部合同主催ノ午餐会(工業倶楽部)ニ出席、午後ハ時事、朝日、日日、報知、国民、都、「アドヴァイザー」、「タイムス」、連合ノ各新聞通信社ヲ歴訪、午後四時半、秩父宮殿下ニ拝謁、茶菓ヲ賜リ、更ニ午後八時外務大臣主催晩餐会ニ出席ス

三月二十日(休)

午前十時宮中鳳凰ノ間ニ於テ天皇陛下ニ拝謁仰付ケラレ正午半日仏会館ニ於テ日仏会館及日仏協会連合ノ午餐会ニ出席、午後四時連盟協会外人部ノ会合ニ出席講演ヲ為シ、更ニ午後八時仏国大使館ニ於テ大使主催ノ晩餐会ニ

午前九時十分京都駅発午前十時三十三分奈良駅着、県当局ノ案内ニテ奈良公会堂ニテ「鹿寄せ」ニ興シタル後奈良公園、春日神社、二月堂、三月堂、大仏殿及博物館ヲ見物、奈良「ホテル」ニ於テ県当局ヨリ午餐ノ饗応ヲ受ケ午後ハ法隆寺ニ至リ古代建築ヲ賞シタル後春日山内ヲ「ドライブ」シ晩餐後電車ニテ京都ニ帰ル

三月十六日(土)

午後二時京都駅発同三時大阪駅着、府当局ノ出迎ヲ受ケ大阪城ヲ見物シタル後大阪毎日、大阪朝日ノ両新聞社ヲ往訪シ、尋テ午後六時今橋灘万ニ於ケル大阪商工会議所会頭稲畑勝太郎氏ノ招宴ニ臨ミ同八時辞去、更ニ府庁ノ招待ニテ道頓堀弁天座ニ於テ文楽人形芝居ヲ見物、午後九時半電車ニテ京都ニ帰ル

三月十七日(日)

午前十時十五分京都駅発午後八時二十分東京駅着帝國「ホテル」ニ入ル

三月十八日(月)

午前九時半明治神宮参拝、玉串ヲ捧ケ、秩父宮御殿ニ参上来朝ノ挨拶ヲ言上シ、首相官邸ニ敬意ヲ表シ、尋テ十

出席ス

三月二十一日(休)

午前ハ市内遊覧、午後一時ヨリ日本倶楽部ニ於テ新聞記者ノ団体タル木曜会主催ノ午餐会ニ列シ連盟及支部ノ問題ニ関スル質問ニ答ヘ午後三時藤田平太郎男ノ椿山荘ノ庭園ヲ賞シ同六時半添田博士邸ニ招カレテ日本料理ノ晩餐ヲ共ニシ更ニ八時ヨリ歌舞伎座ヲ見物ス

三月二十二日(金)

午前ハ接客往訪、正午半三井八郎右衛門男邸ニ於ケル午餐会ニ招カレ午後三時澁澤子爵主催ノ茶会(銀行家実業家ノ懇談会)ニ出席意見ノ交換ヲ為ス(但澁澤子爵所勞ノ為阪谷男主宰)、午後六時半華族会館ニ於ケル石井子爵ノ晩餐会ニ出席ス

三月二十三日(土)

午前外務省ヲ訪問、吉田外務次官及有田亜細亜局長ト会談、午後一時新渡戸博士邸ニ於ケル同博士ノ招宴ニ列シ食後邸内茶室ニ茶ノ湯ノ饗ヲ受ケ午後四時帝國「ホテル」ニ於テ井上準之助、安川雄之助、門野重九郎三氏ノ訪問ヲ受ケテ意見ノ交換ヲ行ヒ、午後六時半築地新喜楽ニ於

ケル日本銀行總裁土方久徴氏ノ宴会ニ列席ス

三月二十四日(日)

午前九時三十分東京駅発同十時五十三分国府津着、自動車ニテ宮ノ下富士屋「ホテル」着、午後八長尾峠及蘆ノ湖畔ニ「ドライブ」シ箱根「ホテル」ニ小憩ノ後宮ノ下ニ帰り一泊ス

三月二十五日(月)

午前九時半宮ノ下発、同十時三十三分国府津発、午後零時二十三分東京着、更ニ午後二時十分上野駅発午後六時二十二分日光着、金谷「ホテル」ニ投宿ス

三月二十六日(火)

午前八日光東照宮、二荒山神社及大猷院廟ヲ見物、午後八自動車ニテ中禅寺湖方面ニ遊フ

三月二十七日(水)

午前九時金谷「ホテル」発今市駅迄自動車ヲ駆リテ老杉ノ並木路ヲ賞シ同九時五十二分今市駅発午後一時半上野駅着、同夕ハ日本来遊ニ際シ特ニ配慮ト好意ヲ寄セラレタル各方面ノ人士ヲ約二十名帝國「ホテル」ニ招待シ晚餐会ヲ催ス

共榮ノ為或ハ人道上ノ問題ノ為將又大戦ニ依リ疲弊困憊セル二三小国ノ財政救済ノ為拳ケタル功績ハ自分等ノ推奨措ク能ハサル処テアル兵力ト財力トヲ以テ居ナイ連盟カスル功績ヲ拳ケ得タル裏面ニハ必スヤ連盟ノ指導者ノ間ニ非常ナル忍耐ト賢明ナル判断ト充分ナル「タクト」ト而シテ言フニ言ハレヌ苦心ノ存シタコトト信スル而シテ此等ノ用意ハ自分ノ信スル処ニ依レハ今後モ連盟ノ權威ヲ保持シ其ノ業績ヲ拳クル上ニ於テ欠ク可カラサルモノト思フ今回幸ヒニ貴下ノ如キ連盟ノ指導部ニ於ケル有力ナル方ヲ迎ヘ極東ノ事情ヲ親シク見学シテ戴ク事ト成ツタノハ自分ノ喜ヒニ堪ヘナイ処テアル何卒各方面ト出来得ル限り接触サレ東洋殊ニ日本及支那ノ真相ヲ捕捉スルニ努メラレンコトヲ希望スル之カ為ニハ自分トシテハ出来得ル限りノ御便宜ヲ計リ度イト考ヘテ居ル

支那ニ対スル見方ニ付テハ色々ノ説カアリマセウ自分ノ如キモ必スシモ一部樂觀論者ノ見解ヲ分ツモノテハナイカ政府ノ見解殊ニ日本ト支那トノ關係ニ付テハ亜細亜局長ニ御尋ネ願ヒタイ只自分ハ外務大臣トシテ目下日本ノ對外關係中最モ重要ヲ告ケツツアル日支ノ關係ニ付一言

三月二十八日(木)

午前十時東京駅発同十一時横浜着、「ニューグランドホテル」ニテ午餐ノ後午後三時解纜ノ「エンプレス・オブ・エシア」号ニテ加奈陀ニ向ケ出發ス

(付記一)

大臣会見録

昭和四年三月十九日

三月十九日田中大臣ハ國際連盟次長「アヴノル」氏ヲ大臣官邸ノ晚餐会ニ招カレタルカ食後大臣ハ同氏ヲ側ニ招キ大要左記要領ノ談話ヲセラレタリ

「國際連盟カ年ト共ニ發達シ当初一部論者ノ悲觀の予断ヲ裏切り既ニ世界平和ノ為有力ナル保障ト成ルニ至ツタコトハ人類福祉ノ為慶賀ニ堪ヘヌ処テアル日本ハ連盟ニ於ケル其ノ重要ナル地位ニ鑑ミ連盟ノ創業時代ヨリ理事會總會ハ勿論其ノ他各種ノ委員會等ニ常ニ有力ナル代表者ヲ派遣シ誠心誠意連盟ノ事業ノ發達ニ協力シ来ツタ關係上連盟ノ業績ニ付テハ國民一般ニ相当ノ理解ヲ有スルモノテアルカ連盟カ從來國際紛争解決ノ為世界列国共存

申上ケテ置キタイノハ日本ノ支那ニ対スル方針ニ付テハ世上区々ノ説カアルカ実ハ一定不動ノモノテアル即チ約言スレハ極東ノ平和ヲ確保シ日支共榮ノ実ヲ拳ケ以テ相共ニ世界ノ進歩發達ニ貢獻スルト言フコトニアル只支那ノ現状ハ御承知ノ通未タ政情安定セス右ノ如キ理想ヲ實現スルニハ程遠イモノカアルカ吾人ハ所有忍耐ヲ以テ支那ニ望ムヲ要スルト思フ日本トシテハ支那ノ國民の要望ニシテ道理アル限り列国ト協力シテ之カ達成ニ努メ来ツタコトハ既ニ御承知ノ通りテアル然シ乍ラ支那政情ノ不安定ノ為同国中央政府ノ威令カ充分行ハレサル場合(例ヘハ南京事件濟南事件等)支那ニ於テ重大ナル權益ト居留民トヲ有スル外国カ右保護ノ為緊急自衛ノ措置ニ出ツルコトアルハ当該国政府当然ノ職責テアツテ日本ノ如ク支那ト隣接シ居留民ノ数ヨリ言フモ重大ナル權益ノ關係ヨリ言フモ他国ニ卓越セル国ニ於テハ之等保護ノ為多大ノ苦心ヲ有スル次第ハ御想像ニ難カラヌト思フ就中滿州ニ至ツテハ地理のニモ歴史のニモ經濟的のニモ將タ國防のニモ從ツテ政治上支那ノ他ノ部分ト異リ日本ニトリ特殊重大ナル利害關係アル故ニ滿州方面ニ於ケル治安カ乱ルル

コトハ日本国民ノ到底容認シ難イ処テアル從ツテ日本政府トシテハ此ノ方面ノ秩序カ乱レヌ様百万努力スル必要アルカ去リトテ日本ハ累次声明シ居ル通り此ノ方面ニ対シテモ支那ノ他ノ方面ニ対スルト同様何等領土の野心ヲ有スルモノテナイ又門戸解放機會均等ノ主義ヲ尊重スルハ勿論テアル要ハ滿州ノ治安カ完全ニ維持セラレ同地方カ支那主權ノ下ニ内外人安住活動ノ天地トナルコトヲ切望スルモノテアル」

之ニ対シ「アヴノル」氏ハ親シク外務大臣ヨリ簡單ニシテ要ヲ得タル日本ノ対支態度ヲ聞キタルハ自分ノ最モ感謝スル所ナリ日本カ歴史人文ノ關係ニ於テモ將又貿易關係ニ於テモ支那ニ於テ第一等ノ地位ヲ有スルコトハ自分ノ今回具サニ感得シタル所ニシテ滿州開發ノ実情ヲ見ルニ及ンテ益々其感ヲ深カラシメタリ從ツテ唯今承リタル滿州ニ対スル御苦心ハ自分ノ容易ニ諒解スル所ナリ更ニ此機會ニ於テ自分ノ支那全体ニ対スル印象ヲ申上度シトテ左記要領ノ談話ヲナシタリ

「南京政府ハ精神のニハ強固ナルモノナルモ之ヲ行政上ヨリ見レハ其ノ基礎未タ薄弱ナルヲ免レス其ノ原因ノ主

スル反発ノ輿論ヲ醸成シ遂ニ国民全体ヲシテ不平等条約廢棄ヲ叫ハシメツツアリ彼等ハ支那今日ノ混沌トシテ統一ヲ達成シ得サル責任ハ一ニ諸列國カ支那ヲ劣等視シテ各種ノ特權ヲ搾取シ来リタルニ帰セサルヘカラストナセリ其ノ所論ノ当否ハ別トシ支那人心ハ翕然トシテ此ノ確信ノ下ニ排外熱ニ風靡セラレツツアル実情ナリ

而シテ今後若シ中央政府カ其ノ威令ヲ全支那ニ及ホスコトニ成功シ得サルニ於テハ（而シテ今日ノ情勢ヨリ判斷スレハ不成功ニ終ルノ懸念甚タ多キ次第ナルカ）右外國ヲ敵視シ外國人及外國貨ヲ排斥スルノ氣風ハ益々募リ行クノミナルヘク從來ノ例ヨリ推論セハ宣傳ヲ生命トセル国民党要路者モ自己ノ地位擁護ノ為進テ右人心ノ排外熱ヲ扇動シテ之ヲ利用スルノ策ニ出ツルコトアルヘク旁以テ支那ノ排外氣風ハ今後益々旺盛トナル可能性多キコトヲ予想セサルヲ得ス

然ラハ此ノ際列國ヨリ進テ財力援助ヲ提供シ以テ其ノ建設の事業ノ遂行ニ資スルコトヲ得ルヤヲ觀ルニ列國トシテハ該借款ニ対シテハ確實ナル担保ヲ要求セサルヘカラス而シテ今如何ナル担保ニ確實性アリヤヲ検討セントセ

タルモノハ各省ノ自治ト財力ノ窮乏ノ二点ヲ挙クルコトヲ得ヘク即チ中央政府ノ威令行ハルハ僅ニ二省若ハ強ヒテ言ヘハ數省ニ過キスシテ其他ノ各省ハ兵馬並稅制ノ權ヲ壟斷シテ今尚半獨立ノ姿ヲナシ居レリ而シテ今後中央政府カ其ノ威令ヲ之等各省ニ認メシムル為ニハ先ツ道路ヲ開設シ鐵道ヲ建設シテ先ツ交通ノ便ヲ開キ更ニ國民教育ノ制度ヲ普及確立セシメテ精神的ニ統一ノ実ヲ挙クルコト急務ナルモ之カ為最モ必要ナルハ財力ニシテ而モ之今日ノ南京政府ノ最モ窮乏ヲ告ケ居ル所ナリ

精神的ニ鞏固ナリト言フ所以ハ即チ同政府ハ孫逸仙ノ遺囑ヲ基礎トシ一定ノ主義ヲ有スル國民黨ニヨリテ擁立セラレ居ルコトニシテ其ノ主義ノ是非ハ兎モ角トシ將又國民黨内ニモ種々ノ勢力爭ヒノ存在スルコトハ事實ナルカ如キモ兎モ角モ孫ノ遺囑ハ宛然一ノ宗教乃至信條ノ如ク人心ヲ支配シ輿論ハ常ニ之ヲ基調トシテ展開シ居ルコトハ看過スヘカラサル所ナリ而カモ右信仰ハ對外關係ニ重大ナル影響ヲ及ホシツツアル点ニ於テ列強トシテモ之ニ充分ナル注意ヲ払フコトヲ要ス即チ國民黨ノ指揮者ハ從來列國カ支那人ヲ劣等民族視シタリト稱シ巧ミニ之ニ対

ハ支那人ハ之ヲ以テ更ニ支那ノ利權ヲ漁ルモノトナシ不平等約定ノ再現ナリトシテ排外熱ヲ煽ル為ニ之ヲ逆用スルニ至ルヘシ故ニ自分ノ觀ル所ヲ以テセハ此ノ際ハ先ツ支那自身ヲシテ十二分ニ其ノ建國ノ苦難ヲ味ハシメ其ノ苦難ノ性質及範圍ヲ自ラ弁ヘ從テ外國ニ依頼スヘキ援助ノ性質等ヲモ明ニセシメタル上ニテ支那ヨリ進テ援助ヲ求メシムルコト最モ肝要ニシテ其ノ間列國トシテハ支那ニ貸スニ忍耐ト寛容ト時トヲ以テシ唯支那政府存立ニ必要ナル合理的の最低ノ援助ハ時折之ヲ与フル必要アルヘキモ俄ニ進テ大借款ニ応スルカ如キハ慎ムヘキ所ナリト信ス

最後ニ自分ノ一言付ケ加ヘ度キハ今日支那人ハ到ル処日本人ヲ敵ト考ヘ居ルコトナルカ支那人カ二年前ニ於テハ同シク敵視シタル英國人ヲ今日ニ於テハ之ヲ好朋友ト稱シ居ルニ鑑ミ特ニ人文ノ關係將又貿易關係ニ於テ日支ノ間ハ列國ニ比シテ緊密ナルモノアルニ鑑ミ必スヤ遠カラサル將來ニ於テ支那人ハ日本ヲ德トシ日本人ヲ好朋友ト稱スルノ日來ルヘキヲ確信ス而シテ今後國際連盟トシテ支那ニ対シ又支那ニ於テ何等カ行動スルヲ必要トスル場

合アリトスルモ右支那善隣ノ朋友タル日本ノ援助若ハ助言ニ依ルニアラサレハ着手スヘカラス又着手スルモ何等効果ヲ齎ラシ得ストハ自分ノ深ク信シ居ル所ナリ」

右ニ対シ大臣ハ支那ニ付頗ル正鵠ヲ得タル觀察ヲ遂ケラレタルハ甚欣幸ニ堪ヘス斯カル觀察ハ單純ナル旅行者ノ到底為シ得サル所ニシテ流石ハ連盟ノ中心ニアリテ常ニ各方面ノ情報ニ接シ居ラルルカ故ニ右穩当ナル結論ニ達セラレタルモノト信ス而シテ列國トシテハ進テ支那ニ利益ヲ提供シ以テ恩惠ヲ売ラムトスルカ如キ態度ヲ慎ミ隱忍シテ事態ノ發展ヲ注視スルヲ要ストハ自分ノ持論ニシテ從テ貴下觀察ノ結論ニハ全然賛成ナリト述ヘラレタリ

(昭和四年三月二十日、澤田電信課長口述)

(付記二)

石井「アウノル」小談話摘要

昭和四年三月二十二日於華族會館

石井 今回支那御視察ノ御感想ハ未タ承知セサルカ余ハ此機會ニ於テ胸中ヲ披瀝シ貴君及「ドラモンド」君ノ参考ニ供スルヲ以テ余カ連盟ニ対スル義務ノ如ク感ス、但余

ハ歸朝以來現内閣ト没交渉ノ地位ニ在ルカ故ニ我当局カ連盟對支那問題ニツキ如何ナル方針ヲ採ルヤヲ知ラス、余カ此ヨリ述ヘムトスル所ハ余一個ノ意見ニ過キス、連盟ノ忠誠ナル友人ノ私説トシテ聴取ラレタシ

現今ノ支那ハ多年ノ内乱ヨリ脱シテ小康ノ途ニ就キタル觀アレトモ其内幕ヲ窺フ時ハ仲々ニ樂觀ヲ許ササルモノアリ、由來支那ニ於テ一タヒ内乱起ルトキハ数十年間継続スルコトハ珍シカラサルハ歴史ノ証明スル所ナリ、今回ノ内乱ハ一九一一年勃発以來已ニ十八年ヲ経タレトモ低氣圧ハ猶ホ所在ニ潜伏シ何時疾風迅雷トナリテ現ハルルナキヲ保セス、昨今ノ入電ニ依レハ長江方面ニ於テ復モ干戈ヲ見ントスル有様ナリ、其内情ハ頗々吾人ニ伝ハルモ今其詳細ヲ御話スルノ暇ナシ、要スルニ支那カ真ノ平靜ニ復歸スルマデニハ前途猶幾多ノ動乱ヲ繰返スモノト視サルヲ得ス、現今ニ於ケル小康ノ外觀ニ魅セラレ支那ヲ料理セントセハ意外ノ謬算ヲ來スヲ免レサルヘシ連盟事務局内ニ塊、洪両國救済ノ例ヲ追ヒ支那ヲ財政的二救済セントスル意圖ヲ有スルモノアルハ往年余カ連盟ニ出入セル際已ニ聞及ヒタル所ナルカ今回貴君カ支那視

察ヨリ御歸リノ上ハ定メシ右意圖ノ實現ニ向ツテ運動スルモノアルヘシ、而モ卑見ニ依レハ支那ノ現狀ニ於テ連盟カ輕々シク手出セハ砂上ノ樓閣ニ終ルヘク随ツテ連盟ハ始メテ失敗ノ汚名ヲ流シ塊、洪等ニ於ケル既往ノ成功ヨリ獲タル權威ヲモ併セテ失フニ至ルヲ恐ル、連盟事務局ハ歐洲ノ事情ニ精通スルカ故ニ塊、洪等ノ救済事業ニ於テ見事ナル成功ヲ収メ得タルモ支那ノ事情ハ歐洲ノ夫ト全然趣ヲ異ニシ且其變転極リナキ所ニ予測ヲ許ササルモノナリ、万一連盟カ時機ヲ見誤リテ支那問題ニ触レ失敗ヲ招キタリトセハ將來ノ發達ニ大ナル障礙トナルヘク此点余ノ憂慮ニ耐ヘサル所ナリ

「アウノル」氏 只今承リタル御高見ハ自分ニ於テ全然御同感ナリ、随テ御憂慮ノ点ハ御安心ヲ請フ。貴言ノ如ク從來事務局一部ニ於テハ支那財政整理ヲ連盟ニ於テ担当セントノ意圖ヲ有スルモノアリ夫レハ主トシテ經濟部「ソルター」氏及其部下若手連ノ活動心ヨリ起リタルモノナルカ、「ドラモンド」氏ト自分トハ深ク責任ノ重大ナルヲ痛感スルカ故ニ輕々シク斯ル意圖ニ賛成ヲ表シタルコトナシ、自分カ寿府出發ノ際ニ於テモ右等連中ハ是非専門

家一名ヲ帶同セヨト主張シタリシモ自分ハ此際支那財政ヲ整理セントスル案ヲ突飛ナリト考ヘ居タリシコトトテ、断然之ヲ斥ケテ態ト官房秘書ノミヲ連レ來レリ、又長江方面滞在中モ自分ハ取り分ケ財政問題ヲ調査セントモ企テス、財政長官トハ遂ニ一回タモ面会セサリシ位ナリ

諸支那ニ來テ見レハ總テカ案外ナル事ハカリニテ万事カ予想以上ナリ、所謂不平等條約撤廃ヲ絶叫スル連中ハ年少ノ學生ニシテ彼等ハ果シテ一定確信ノ下ニ運動シツツアルモノナルヤ否ヤサヘ疑ハサルヲ得ス、当路ノ人ト雖モ悉ク若輩無經驗ニシテ斯ル輩カ四億民衆ノ安寧ト幸福トヲ切り盛リシ得ルトハ何トシテモ考ヘラレサリキ、彼等ノ多クハ米國留學生上リノ由ニテ悉ク米國中中毒セリ彼等ハ米國ノ歎心ト好意トサヘ握リ置ケハ天下為シ克ハサルモノナシトノ妄想ニ囚ハル、加フルニ在支米國人ノ動作モ亦輕拳不謹慎驚クハカリナリ、且下上海ニ在ル「ケムレル」氏一行ノ如キハ熾シニ米國ノ財力ヲ吹聴シ、支那ノ請求次第何時テモ、幾何テモ借款ニ応スルカノ如キ感ヲ与ヘツツアリ、左ナキタニ米國中中毒ノ連中ハ一行ノ

言ヲ過信シ、金策ハ支那ノ申出次第調達易々タルモノト真ニ思ヒ込ミ居ルカ如シ、焉ンソ知ラン米国人ト雖トモ流石ニ金融界ハ冷静ニシテ妄動セス、行政腐敗、軍閥横行ノ無政府国ニ一文タリトモ融通ヲ諾スルモノニ非ス、又今朝ノ「ヂャパン・アドバタイザー」紙ニ依レハ米国内院ニ於テ御互ノ友人タル例ノPorter氏ハ支那新政府ヲ激賞シテ治外法權撤廃ノ速行ヲ諾スヘシト云ヘルカ如シ、米國ハ斯ク外ニ無責任ナル視察団ヲ派シ、内ニハ元老院ニ於テマテ無責任ナル言論ヲ敢テスルアリ、内外相俟ツテ支那若年為政家ヲ惑ハシメツツアリ、一口ニ言ハハ目下ノ支那ニ對シテハ殆ント手ノ付ケ様モナキ有様ト我目ニ映シタリ

石井 御感想ヲ伺ヒ、此上冗言ノ要ナシ、思慮アル米国人殊ニ財政家カ今日ノ支那ニ對シ金融ニ応スルモノニ非ルコトハ折角余カ貴君ノ御注意ヲ喚起セントセル所ナリキ、第一ニ連盟カ支那財政ヲ料理センカタメ支那借款ヲ起サシメムトスルモ、米國ハ連盟ノ「イニシアチブ」ノ下ニ快ク援助スルヤ疑ハシ、第二ニ米國財閥カ此際支那借款ニ応スルカ如キ意向露ホトモナキコトハ過日紐育

友人ヨリ余ニ送り來レル「ラモント」氏ノ演說ニ徴シテ明ナリ、同氏ハ紐育支那協會ニ於テ支那公使其他著名支那人ノ面前ヲ憚ラス「支那カ財政援助ヲ外國ヨリ求メムトセハ先以テ統一セル政府ヲ樹立シ百般行政ヲ改革シテ其ノ好成績ヲ世界ニ実証セサルヘカラス、其ノ実証ヲ示ササル間ハ外國借款ハ問題トナラス」ト言明セリ、其全文ハ長キカ故ニ船中ニテ緩々御一讀アレ（写一通ヲ手交ス）

「アヴノル」氏 御懸念ノ「イニシアチブ」ニ對スル米國ノ共力ハ近來大ニ改良セリ、然シ何ハ兎モアレ支那借款其ノモノカ到底連盟ノ支持ヲ受ケ得ルモノニ非ス、昨年「スウィツア」氏ノ後任者カ婦米ノタメ寿府ヲ出發セルトキ自分ハ「ラモント」氏ニ伝言ヲ托セルコトアリ、伝言中ニハ連盟ハ鮮クモ当分支那財政問題ナトニ関スル意向ナシトノ一項ヲ含ミタリ、就テハ「ラ」氏ノ演說ハ大ナル興味ヲ以テ船中ニテ熟読セン

前述ノ如ク支那人ハ只管米國ニ信賴スル模様ニテ未タ曾テ連盟ニ對シ財政整理ニ援助ヲ求メタルコトナシ、縦シ之ヲ求メタリトスルモ、又縦シ連盟力之ヲ諾シタリト仮

定スルモ、連盟カ塊、洪ノ前例ニ依リ或種ノ管理Control

ヲ申出ル時ハ支那政府カ不平等條約論ノ手前即座ニ反對スヘキハ分リ切ツタル所ナリ、若シ將來連盟カ支那ニ對シ援助ヲ供与スルコト何時カアリトセハ自分ノ考ニテハ（一）夫ハ支那人カ日本ヲ最善ノ友 meilauramiト視ルニ至リタル時ナラサル可ラス

（二）其ノ時ニ至ルモ連盟ノ援助ハ単ニ「支那ノ幣制改革ハ斯ラスヘシ、支那ノ税制ハ而カタマスヘシ」等ノ財政委員會ノ決議案ヲ取次クニ止ムヘシ、其取次ヲ以テ援助ノ最大限ト為スニ非サレハ前述ノ如ク管理問題ニツキ連盟ハ支那ト正面衝突ヲ來スコト明カナリ

229 昭和4年4月5日

在バリ佐藤連盟事務局長より
田中外務大臣宛

訪中途次におけるアヴノルの連盟事務総長宛
書簡について

機密連本公第二四一号

昭和四年四月五日

在巴里

（5月11日接受）

國際連盟帝國事務局長 佐藤 尚武（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

國際連盟事務總長代理「アヴノル」氏ノ支那

訪問ニ関スル報告書送付ノ件

本件ニ関シ「アヴノル」氏ヨリ事務總長ニ宛テタル書翰要約極秘トシテ杉村次長ヨリ入手致セルニ付別紙ノ通り進達ス御査閱相成度

本信写送付先 在英米仏大使

（別紙）

一九二九年二月二十三日漢口「アヴノル」ヨリ

事務總長宛書信

一九二九年二月二十三日 漢口

上海出發ヲ以テ余カ「ミツシヨ」ノ最重要ナル部分ハ終局ヲ遂ク何トナレハ余カ敬意ヲ表スヘク來リシトコロノ支那政府トノ直接ノ關係ハ今ヤ終リタレハナリ

茲ニ於テ余ハ支那ノ現狀ニ関シ余ノ得タル感想及觀察ヲ能フ限り詳細ニ綴ランコトヲ期スルモ

本日ハ余カ「ミツシヨ」ノ主要点ニ関シテ不取敢聊カ報告セントス余等ノ為シタル訪問集会演說等ニ付テハ付記ノ

表ヲ見ラレタシ（略ス）余等ノ公式ノ行動遂行ニ當ツテ支那新聞紙ノ援助ヲ受ケタルコト甚タ大ナリキ新聞ハ余ノ演説乃至ハ会見等ヲ逐一報道セリ二月十九日上海ヲ去ルニ際シテ余カ受ケタル質問ニ照ラシ連盟ニ對スル支那人士ノ考方ニ方向転換ノ生シタルコトヲ觀察シテ大ニ欣快トス即チ当初余ニ向ツテ為サレタル「支那ハ何故ニ理事会ノ一席ヲ得サルヤ」ノ如キ質問ニ代フルニ今ヤ余ニ訊ヌル所ハ「如何ニセハ國際連盟ニ對スル支那ノ貢獻最大ナルヲ得ヘキヤ」「總會ニ對スル支那代表團ノ構成如何」トナレリ

一、理事當選——同封付録九（略ス）ハ余カ二月九日南京ヨリ歸リ口述セル「ノート」ニシテ王正廷胡漢民其他國民黨ノ最有力ナル要人等ト会见シテ交換セル論旨ヲ要録セルモノナリ右「ノート」中余ノ論旨ハ最重キヲ成ス何トナレハ余ノ会见セル要人等ハ彼等ノ質問ニ對シテ余カ為セル答弁ノ趣旨ヲ殆ト何等ノ討論ヲ交フルコトナク傾聴シタレハナリ彼等ハ理事会ニ關スル選舉規則再選規定其他ヲ知ラサリキ（当地ニ於テハ尚連盟全般ニ關シテモ同斷）昨年ノ落選ヲ以テ皆ハ支那ニ對シテ加ヘラレタル新ナル侮辱ト取レリ（旧支那ニ加ヘラレタル侮辱ニ對ス

任命等ノ如キ active ナル連盟協力ノ政策ヲ実行スルノ困難ナルハ明白ナリト茲ニ於テ分担金問題ノ解決ハ最望マシキコトヲ述ヘ適當ナル実行方法ニ付示シ置ケリ王正廷ハ本件ヲ提ケテ本週中閣議ニ掛ケントスル意向ナリ右成功ノ曉ハ余ノ見ル所ヲ以テスレハ單ニ財政の解決タルニ止マラス連盟ニ對スル支那ノ active ナル協力政策ノ端緒ヲ開クモノナリ

三、二月十七日王正廷トノ会见ニ際シ王正廷自身ヨリ余カ到着以來為シタル会见ノ効果カ実ヲ結ヒ始メタルヲ報セラレ欣快ニ堪エス即チ彼ハ余ノ為シタル婉曲ナル忠告カ支那ニトリ又彼自身ニトリ利益多カルヘキコトニ氣付ケリ彼ハ極メテ明白ニ「ジュネーヴ」ニ赴キタキ意向ヲ述フル所アリキ彼ノ此意向ニシテ實現センカ彼カ「ジュネーヴ」ニ於テ充分重シタルヘキハ余ノ疑ハサル所ナリ頭腦明晰直截寡言ニシテ公私ノ会合ニ於テ見事ナル英語ヲ使用スル彼ハ支那ヲ知ラサル者ニ對シテ新シキ支那ヲ知ラシムルヲ得ン輓近ノ條約締結ニ依リテ第一歩ヲ進メタル支那問題ノ進展上這ハ最重要事タリ

四、其他王正廷ハ連盟ニ對スル代表者全部ヲ更迭ノ意向ヲ

ル反動作用力彼等ノ最重要視セル所ニシテ此理ヲ看過シテハ彼等ノ心理ヲ理解スルコト不可能ナリ「不平等條約」ハ各般ノ事物ニ關連シテ彼等ノ念頭ニ執キ纏ヘリ）余カ為シタル詳細ノ説明モ若シ余ニシテ「支那ハ既ニ二回理事會員タリシカ如ク將來必ス理事会ノ一員タルヘシ」トノ点ニ重キヲ置カサリシナランニハ不充分ナリシナルヘシ余更ニ語ヲ続ケテ曰ク然レトモ國民政府ニトリ重要ナル点ハ國際連盟ニ對スル活動ニ依リ新ニ打建テタル彼等ノ國際政策（通商條約）ノ發展ヲ期スルニアリ連盟ニ對スル彼等ノ活動即チ總會ニ對スル支那代表ノ活動ニ依リ又ハ歐洲政治家トノ直接連絡ニ依リ或ハ委員會ニ於ケル支那委員ヲ通シ更ニ支那ニ於ケル外交團ヲ一途ニ介スルコトナリ其對外交渉處理ノ可能性等凡ユル手段ヲ利用スルニアリト此等ノ論旨ハ相當傾聴ヲ博シタリ

二、分担金——当初余ハ本件ニ付交渉スルノ意思全然ナカリシモ前述論旨ノ成功ニ依リ遂ニ分担金ノ問題ヲモ議スルニ至レリ先ツ余ハ次ノ如ク答ヘタリ即チ本件解決カ支那政府ニトリテ有利ナリヤ否ヤハ支那政府ノ決ムヘキ所ナリ然レトモ費用分担中断ノ事情ノ下ニ於テハ支那委員

有ス余ハ阿片委員會ニ於ケル王景岐ノ声明ニ關連シテ此機會ニ於テ説明スル所アリ國際連盟ノ組織上専門技術上ノ問題ト政治問題トハ委員會及理事会ニ於テ別々ニ討議セラルヘキモノナルコトヲ告ケ又本國多難ノ秋ニ際シ支那外交官ノ連盟ニ於ケル困難ナル役割ニ付テ批評スル所アリタリ然レトモ今日彼等ハ政府ヨリ訓令ヲ受クルコトヲ得ヘキニ依リ一方訓令ノ實施ト他方全然個人的態度ノ繼續トノ間ニ何等ノ混同ナカラシメンコトヲ期スヘキナリト述ヘタリ王正廷ハ余ノ云フ所ヲ諒トシ「ベルン」ニ有能ナル公使ヲ派遣シ連盟ニ對スル支那代表トシテ良好ノ關係ヲ確保セシメントノ意向アルコトヲ告ケタリ

五、同様ノ目的ヲ以テ常設事務局ヲ「ジュネーヴ」ニ設ケ連盟事務局トノ連絡ヲ期ス右事務局ニハ目下上海ニ於テ弁護士ヲ開業セル外交部法律顧問 James Woo 氏ヲ起用スルコトトシ之ヲ補佐スルニ Kwong 氏ヲ以テセントス一ハ仏語ニ堪能他ハ英語ニ通スルヲ以テ兩者協力ハ申分ナカラン此情報ハ（後ニ至リ補足サレタルモ）簡單ニ失スルノ嫌アリタレハ其間多少ノ違誤ナカリシヤヲ案スル次第ナリ

余ノ見ル所ヲ以テスレハ連盟トノ常置の連絡ハ必要ニシテ此処ニ一個ノ人物又ハ事務所ヲ常置シテ本国ニ詳細ノ情報ヲ送り外交部ノ注意ヲ絶エス喚起シ南京政府ノ希望ニ副ヒ誤解ヲ未然ニ防クヲ要ス当地ノ政府ノ組織ニ見ルモ此ハ必須事ナリ

六、連盟事務局情報部上海支局ノ設置ニ関シテハ余ノ帰任ノ上情報部長「コメール」ト会谈スル所アルヘシ之モ亦必要ナリ即チ今日ヨリ右ノ為メ必要額ヲ一九三〇年ノ予算中ニ組ミ置カレタシ

七、此連盟トノ支那協力ノ政策ハ連盟委員会中ノ或モノニ支那委員ノ任命ヲ予想サレトモ其任命ニ当ツテ国民党關係者ノ適当人物中ヨリ支那在住ノ支那人ヲ以テセサレハ無益ナリ此ヲ通シテノミ始メテ輿論ニ訴フルヲ得ヘク彼等ヲ外ニシテハ総テノ活動無益ナリ衛生及学芸協力ニ関シテハ「ライヒマン」及「オプレスコ」両氏ニ於テ既ニ支那トノ協力問題ヲ研究シツツアリ阿片ニ関シテハ支那ヨリ一名ノ専門委員ヲ派遣シテ外交官ニ代ラシムルコトトナルヲシ

最後ニ經濟諮問委員会ニ一名ノ支那委員ヲ任命スルカ如

コト連盟トシテ期シ難キハ自明ノ理ナリ支那ノ右ノ協力ヲ得ルハ左シテ困難ニハ非ス唯新シキ事態ニ照応合致スルヲ要スルナリ

「ジュネーヴ」出発ニ際シテ余ハ阿片部ニ於テ支那人ヲ求メツツアルヲ聞及ヘリ何人カ其依頼ヲ受ケタルヤ余ハ之ヲ審ニセス然レトモ余モ亦一名ノ候補者ヲ求ムルノ任ヲ引受クルヲ辞セサリシナルヘシ實ニ国民党及阿片協會ト連絡ナキ人物ヲ選択スルコトハ無益ノ事ナルヘシ

九、以上論スル所之ヲ要スルニ一般政策ニ関シテハ即チ輿論ニ対スル行動ニ付テハ成績ノ見ルヘキモノヲ挙ケ得タリ此実績ヲシテ開花結実セシメン為メニハ更ニ遂行ノ勞ヲ吝ムヘカラス此点ニ関シテハ吾人樂觀シテ可ナリ然レトモ今日ヨリ専門技術ノ行動ヲ企画セントスルカ如キハ反之時機尚早ナルヘシ輿論ノ指導機關ハ強力且完備シ居レリ之レ實ニ国民党組織ノ成果ナリトス然レトモ国民党政府ノ技術の方面ニ至リテハ其発達極メテ徐々ナリ之一面手段ヲ欠キ經驗ニ乏シキト同時ニ他面政府ノ行政区域カ支那ノ一区画ニ限ラルルヲ以テナリ彼等ハ万事ニ手ヲ付ケ多数ノ計画ヲ為スト雖モ其實現ハ全然之ニ伴ハス又

キ場合ニハ總商会ノ会頭乃至其前任者ヲ以テスルコト適當ナルヘシ

支那ヨリ來テ再ヒ支那ニ帰ル人士ハ輿論ニ対スル最有力ナル連絡者タリ各人ハ連盟ニ対シ又彼ノ演スル役割ニ対シテ相当ノ重大性ヲ与フルハ必セリコハ延テ一國ノ声望ヲ高ムル所以ナルヘシ

八、連盟事務局ニ関シテハ一刻モ早ク阿片部ニ一名ノ支那人「メンバー」ヲ任命スヘキナリ本件ニ関シ貴下ニ打電シタル後余ハ王景岐聲明ノ惹起セル騒キハ余ノ発案ニ付テ多少ノ混乱ヲ惹起シ得ヘキヲ看取セリ然ルニ此事件自身吾人ヲシテ現状維持ニ停止スヘカラサルノ要ヲ示ス當時支那ニ在リタル余ハ若干ノ明確ナル説明ヲ為シテ行動シ得タリ此等ノ説明ハ大成功ヲ博シタリ然レトモ若シ阿片部ニ支那人ヲ置キ国民党及反阿片協會 (Association anti-Opium) ト連絡ヲ保タシメンニハ此種ノ誤解ヲ容易ニ防止シ得ヘキハ明カナリ然ル処阿片ノ問題ハ中毒狀態ニアリ本問題ニシテ何等カノ新方法ヲ以テ取扱ハレサル限り支那トノ良好ナル關係ヲ保持シ難シ又支那ノ充分ナル協力ヲ得ルニ非サレハ阿片調査委員会ノ設置ヲ企ツル

其然ルヲ得サルナリ即チ財源極メテ制限サレ居レリ財政部長宋子文氏ニ依リテ最詳細ニシテ偽ラサル説明ノ為サレシ所ナリ但シ宋子文氏ハ稍々希望ニ逆上セ居ル嫌アリ彼ハ多数ノ Kammerer 団ニ盛大ナル歡迎ヲ為シ此賓客來訪ノ結果ハ必ス米ノ借款トナルヘキヲ信スルモノノ如シ余ヲ以テスレハ之ハ一ノ幻影ニ見ユルナリ財政組織ハ甚タ旧式ノモノナレトモ尚實際家ノ手ニアリ旧式辞柄ニ囚ハレ其上ニ出ツル力ナシ彼等ハ殆ト全部其收入ヲ關稅行政ヨリ得此關稅ハ同時ニ沿岸並大河川ノ港湾浮標及照燈施設ヲモ掌リ更ニ海上衛生警察ノ任ニ当ル通信事務モ亦同種ノ組織ヲ有ス此等ヲ外ニシテハ専門施設中彪大ナル計画或ハ地方的急務ヘヲ見ルノミ職員モ技術モ例之土木衛生組織ノ如キ全部新設セサルヘカラス余ハ「ライヒマン」博士ヲ衛生部ノ技術顧問ニ任命スヘキ由ヲ聞ケリ(余ハ右ノ要求カ事務總長ニ向テ為サルヘキコト而シテ事務總長ハ原則上斯ル任命ヲ多分受諾シ得サルヲ以テ即チ連盟保健機關ノ名ヲ以テ「ライヒマン」博士カ其協力ヲ与フルコトヲ許スコトトナルヘシト述ヘ置ケリ)彼カ与ヘ得ル最有効ナル助言一而シテ此ハ恐ラク至難ノモノ

「ハ実ニ隠忍自重ノ夫ナルヘシ人ニモ非ス財ニモ非ス然ルヲ彼等ハ宛ラ英吉利ノ「Health Ministry」ノ如キモノヲ設ケントスルモノノ如シ加之外国育チノ支那人ハ（其大多數ハ粗末ナル教育ニ依リ其本来ノ徳質ヲ失ヒ傲慢皮相ノ教養ヲ有ス）地位ヲ求ムルニ汲々トシ且未タ困難ノ経験ヲ知ラサルカ為メ外国人カ彼等ヨリモ一日ノ長ナルコトヲ解シ得サルナリ夫レ宜シク機ノ熟スルヲ待ツヘキナリ若シ多種多様ノ諸關係ヲ通シテ輿論ニ訴ヘ支那ニ国際連盟ニ対スル信賴ノ氣運ヲ助成セシムルヲ得ハ之ニ費ス時間ハ無益ニ非サルヘシ若シ国際連盟カ「帝国主義列国」ノ手ニ委ネラレタル機関ニ非サルコト又連盟カ「不平等条約」ト何等共通点ナキコト夫ノミカ此ハ実ニ支那ニトリテハ其連盟員タル權利ノ單ナル行使ニ依リテ支那ノ對外平等新政策ヲ進展セシムル最適ノ進路ナルコト明白トナルニ於テハ此仕事ハ案外早く進ムナラン

數週間ノ後南京ニ於テ第三回全国代表大会開催セラルヘシ其重要視セラルハコトノ当然ナリ同党内ニ於ケル各派間ノ争ハ相当熾烈ヲ呈スルニモ至リ得ヘシ夫ハ未知數ニ属ス若シ現在政権ヲ握レル党人ノ党派ニシテ確認セ

ラレンカ現在ノ国政ノ継続及政治上ノ安定ノ可能性極メテ多シ然レトモ若シ所謂左派ノ勢力ニシテ優勢ヲ占メンカ（但シコノ予想ハ実現ノ可能性目下ノ処少ケレトモ）総テハ再ヒ未知數ニシテ不安定ニ委セラレン支那ニ於テハ政治的難局ハ常ニ其帰結トシテ排外思想ノ發動ヲ生シ得而シテ国際連盟カ支那ニ於テ何人ニヨリテモ「帝国主義的列国」ノ団体ナルカ如クニ看做サレサルニ至リ且連盟ヲシテ完全ニ彼等ノ排外思想ノ埒外ニ置カンカ為ニハ宜シク藉スニ時ヲ以テシ策ヲ誤ルヘカラス

230 昭和4年9月25日 在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より
幣原外務大臣宛（電報）

ライヒマン連盟保健部長の本邦立寄りにつき
便宜供与方依頼

ジュネーヴ 9月25日前發
本 省 9月25日後着

第八八号
連盟医務部長「ライヒマン」氏ハ部員「ブードロー」氏同伴十月四日発加奈陀經由渡支ノ途上二十八日横浜着ノ由ニ

テ東京、京都間ニ約一週間滞在ノ予定尚在京中ハ連盟保健機關ノ事業ニ関シ本邦当局ト会见ヲ希望シ居ル趣ナルニ付滞在中ノ便宜供与方御配慮ヲ請フ

231 昭和5年2月26日 在パリ伊藤連盟事務局長代理より
幣原外務大臣宛

ライヒマン連盟保健部長の中国視察報告につ
いて

機密連本公第一二二号 (3月17日接受)

昭和五年二月二十六日
在巴里

国際連盟帝国事務局長代理 伊藤 述史（印）
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
連盟事務局保健部医務部長ノ支那視察報告送
付ノ件

昨年十月支那政府ノ招聘ニ応シ本邦ヲ経テ支那ニ到リ同国ニ於ケル保健施設改善ニ関シ視察打合ヲ了シ本年一月末帰寿セル事務局医務部長「ライヒマン」博士ヨリ事務総長ニ提出セル報告書内密入手シタル処同報告書ハ支那ニ於ケル

衛生施設改善ノ急務ナルコト並此ノ方面ニ於ケル連盟ノ協力ノ可能及永續性ヲ論スル外支那ノ政局觀等ヲ含ミ居ルニ付何等御参考迄右写一部送付ス尤本報告書ハ事務局部内ヲ限り極秘回覧セラレタルモノナル上同博士ヨリ入手シタル次等ニモアラサルヲ以テ外部ニ洩ルル等ノコトモアラハ遺憾ニ付右御含ノ上取扱方特ニ御注意相成様致度為念申添フ

232 昭和5年4月18日 在パリ伊藤連盟事務局長代理より
幣原外務大臣宛

中国の連盟理事問題に関する杉村次長の内話
について

機密連本公第二〇一号 (5月12日接受)

昭和五年四月十八日
在巴里

国際連盟帝国事務局長代理 伊藤 述史（印）
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
理事席獲得ニ付支那側策動等杉村公使内報ノ件

杉村公使ヨリノ内報ニ依レハ昨年連盟総会ニ代表トシテ出席セル駐米支那公使（海牙国際法典編纂會議ニ出席中）並

駐仏支那公使ハ本年ノ連盟總會ニ於テハ昨年事務総長ノ内約ニ基キ加奈陀ノ後任トシテ理事ヲ立候補シ若シ成功セサルニ於テハ常任理事国制度廃止ノ提議ヲ為シ其提議容レラレサルニ於テハ支那ハ連盟ヨリ脱退スルノ外無キ旨ヲ唱ヘ近々昨年總會ニ於ケル第三代表タリシ駐独支那公使ト伯林ニ会合ノ上本年總會ニ於ケル理事選挙問題ニ関スル態度ヲ決定シ南京政府ニ上スルコトトナスヘキ趣ナリ

右ニ関シ事務総長ハ該内約ナルモノノ解釈ハ誤解ニシテ本年支那カ理事ニ当選セントスルニ於テハ支那ノ国内政情安定確保セラレ且從來未払ノ連盟分担金支払方法ニ関スル適確ナル協定ヲナスコトヲ必要条件トスル旨述ヘ置キタルモ新聞情報ニ依レハ政情ノ安定ハ不可能ナルノミナラス分担金支払問題ハ今猶ホ何等纏リ居ラス右ニモ拘ラス連盟事務局側トシテハ支那ニ好意ヲ表スル為メ重要ナル委員会(「ケログ・パクト」連盟規約調和委員会)等ニ支那側ノ委員ヲ推薦シタルノミナラス「アヴノル」二次キ「ライヒマン」ノ支那出張事務局ニ於ケル情報部並阿片部ニ支那人ノ入局ヲ認メタル等多大ノ分担金ヲ支払ヒ居ル印度ニ比較シ支那ニ対シ好意の待遇ヲ与ヘ居ル次第ニテ支那ハ分担金ヲ支払

ヲ支那ニ押付クルノミニテ毫モ支那側ノ事情又ハ希望ヲ顧慮セス支那ニシテ若シ外国ノ援助ヲ乞フ場合ニハ支那ニ対シ理解ト同情トヲ有スルモノノミニ対シ之ヲ求ムヘシトハ支那ノ各方面ニテ聞キタル所ナリ

米人ニ反シ露人及独人ハ極メテ好評ナリ例ヘハ南京ニ在ル独逸ノ医学校ノ如キ一九二四年ニ之ヲ国立トナシ經費ハ總テ支那側ノ負担トシ其面目ヲ立ツル反面教員及教授法ハ總テ独逸人又ハ独逸式ニシテ内実ハ独逸ノ学校ナルニ形式ノミ支那ノ学校トナシ巧ミニ支那人ノ自尊心ニ満足ヲ与フルカ如キ其一ナリ

二、国際連盟カ支那ノ保健事業ニ援助ヲ与フル場合ニモ事業其モノハ飽ク迄支那本位トシ支那政府ノ責任ニ於テ之ヲ遂行シ連盟ハ唯技術ノミヲ貸与スルニ止メサルヘカラス宋子文ハ直ニ百万元ヲ支出シ其後モ必要ナル經費ヲ追加スヘキヲ約シ南京ノ要人等ハ斯クシテ内ニハ国民政府ノ御利益ヲ廣ク人民ニ知ラシメ外ニハ海港檢疫ニ関シ日英米等ヨリ支那側ノ発給スル検証ノ承認ヲ求メ以テ其国家の地位ノ向上ヲ計ラント期ス

三、連盟ノ対支事業ハ飽ク迄中立性ヲ帯ヒサルヘカラス從

ハスシテ右ノ如キ特權ヲ享有シ居ル次第ナリ從テ支那カ本年理事選挙ニ於テ立候補ヲ為シ成功セサルニ於テハ連盟脱退ヲ為スト云フカ如キハ公平ナル立場ヨリ見テ支那ノ為メニ採ラサル所ナリトノ意見ヲ洩セル趣ナリ何等御参考迄

233 昭和5年4月18日 在パリ伊藤連盟事務局長代理より
松永(直吉)条約局長宛

連盟の对中国援助などに関する杉村次長とライヒマン保健部長との会談について

機密連本公第二〇三号

昭和五年四月十八日

在巴里

国際連盟帝国事務局長代理 伊藤 述史(印)

外務省条約局長 松永 直吉殿

杉村公使カ連盟事務局保健部長「ライヒマン」ト会谈セル筆記要領別添ノ通り何等御参考迄ニ送付ス

(別添)

十四日午後「ライヒマン」ト長時間話話ス要領次ノ如シ

一、支那人ハ昨今米国人ヲ毛嫌シ始メ彼等ハ自分ノ思フ所

テ今回派遣スル委員モ「オーストリア」「セルビア」及「スカンジナビア」国ノ者トナシ日英仏ノ如キハ能フ限り避ケタキ希望ナリ

四、支那ノ国土茫大ナルニ加ヘ国制整ハス防疫事業モ防疫官ノ養成ヨリ着手セサルヘカラサル実情ナレハ海港檢疫事業ノ前途モ頗ル遼遠ナリト云ハサルヘカラス

五、支那ト連盟トノ関係ヲ密接ナラシムル為メニハ支那ヲ理事会ニ入ルコト必要ナルカ此問題昨今行悩ミ始メタルコト痛心ノ至リナリ(「ドラモンド」ハ昨年小官帰朝ノ前本年ハ加奈陀ノ後ニ支那ヲ理事会ニ提出スルノ可ナル旨ヲ告ケタルコトアリタルカ先般帰任後事態一変セルニ一驚ヲ喫セリ即チ愛蘭ヨリ加奈陀ノ後任タラントノ希望出テタルニ対シ白耳義モ亦候補ニ立タントシ英國政府ハ愛蘭ノ立候補ニ対シテハ毫モ同情セサルカ属領タル愛蘭ヲ捨テテ白耳義ヲ支持スルハ大局上其ヨクセサル所ニテ「イマンス」外相ニ対シ白国ヲ支持シ得サル旨ヲ内話シタルニ拘ラス「イ」ハ未タ其初志ヲ翻サス他方支那ハ来年トモナラハ波斯ノ退任後ヲ襲ヒ得ル便宜ハアルモ土耳其カ理事会参加ヲ条件トシテ連盟ニ加入シ支那ノ内乱ニ

乗シテ其希望ヲ達シ得ル可能性アリ「支那ノ国情安定スル場合此虞ナキハ勿論ナリ」サラハトテ本年選挙ヲ争フカ為メニハ規定上三分ノ二ノ多数ヲ収メサルヘカラサルノ困難アリ其立場愛又ハ白ニ比シ甚タ困難ナルハ言ヲ俟タス

六、保健委員会ニハ日本ヨリ宮島、長與ノ如キ他国並ニ第一流ノ代表者ヲ出サレタク鶴見氏又ハ其後任ニ擬セラルル高野氏ノ如キハ失礼ナカラ日本ノ代表者タルニ充分ノ資格ナシ（之ニ対シ其不謹慎ナル言分ヲ十二分ニ詰リ置ケリ）若シ第一流ノ代表者カ毎年渡欧スルコト困難ナレハ隔年交代ニテモ苦シカラス此場合新進ノ代表者ヲ出サハ足ル右ノ案ニシテ猶且困難ナリトセハ更ニ代表者ノ数ヲ増シ三年又ハ四年交代ニ出席スルコトトナスモ可ナラシ本件五月理事会前ニ決定シタク宮島博士トモ篤ト熟議スヘキヲ以テ同博士ヨリ更ニ話ヲ聞カレタシ

七、日本ト連盟トノ間ニ保健事務ニ関スル連絡ヲ計ル為メ東京支局ニ医事ニ明ルキ吏員一名ヲ任命シ經常ノ事務ヲ処理セシメタシ

八、日本ニ於テ目下ノ急務トスル所ハ從來余リニ警察的ナ

リシ防疫制度ノ運用ヲ社会化スルニアリ此点ニ付連盟ハ能フ限りノ援助ヲ与ヘ得ヘシ

（昭和五年四月十四日）

234

昭和5年5月2日

幣原外務大臣より
在パリ佐藤連盟事務局長宛（電報）

中国の連盟非常任理事国当選のための援助方

駐日中国公使より要請について

本省 5月2日前発

第六三号

在本邦支那公使ヨリ来ル九月ノ連盟總會ニ於ケル非常任理事国改選ニ際シ支那ノ当選ヲ見ル様何分ノ援助アリタキ旨申出アリタルニ付帝国トシテハ支那ノ当選ニ関シテハ從來常ニ努力シ来レル次第ハ御承知ノ通りナリ来ル總會ニ於テモ我代表ニ於テ同様ノ措置ヲ執ルコトト思ハルル処御申出ノ次第ハ我代表ニ伝達スヘシト答ヘ置キタリ就テハ右尽力方可然御取計アリタシ

上海南京及北平ニ転電セリ

235

昭和5年9月15日

在ジュネーヴ連盟三全権より
幣原外務大臣宛（電報）

連盟理事国改選に関する我が方の方針につき

請訓

ジュネーヴ 9月15日後発

本省 9月16日前着

第一五号（至急）

理事会非常任理事国タル加奈陀、玖馬及芬蘭ノ任期満了ニ伴ヒ十七日總會ニ於テ其ノ後任選挙行ハルヘキ処我方トシテハ先ツ支那再選資格要求（往電第一三三号）ニ賛成ノ投票ヲナシ若シ同国ニシテ再選資格ヲ得タル場合ニハ非常任理事トシテ支那、愛蘭及葡萄牙ニ又若シ支那カ右資格ヲ得サル場合ニハ愛蘭、葡萄牙及諾威ノ三国ニ投票スルコトト致シタシ尤モ右ハ從來羅典亞米利加ヨリ理事会ニ三国ヲ出セシ慣例ヲ固守セス主トシテ我方ノ立場ヨリ考慮セル結果ナリ何等意見モアラハ折返シ御回電ヲ請フ

236

昭和5年9月17日

在ジュネーヴ連盟三全権より
幣原外務大臣宛（電報）

連盟總會における中国の連盟理事国再選資格
要求否決について

ジュネーヴ 9月17日後発

本省 9月18日前着

第二二二号

往電第一三三号ニ関シ

十七日午前ノ總會ニテ支那ノ理事再選資格要求ハ有効投票四十八票中二十七票ヲ得タルモ三分ノ二ノ所要数ニ達セス否決セラレ次テ投票ノ結果「グアテマラ」、諾威、愛蘭ノ三国当選セリ

237

昭和5年10月3日

在中国重光（葵）臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

ソルター連盟経済部長の訪中に関する情報に

ついて

上海 10月3日後発

本省 10月4日前着

公第九六三号

来年十月支那ニ於テ開催セラルヘキ大会準備ノ為目下当地

滞在中ノ「ホノルル」太平洋問題調査会本部事務総長代理「ルーミス」カ内密ニ乾ニ語リタル所左ノ通

国際連盟カ欧州ノ或ル国ノ財政復興ヲ援助シタル例ニ倣ヒ江蘇省ハ単独ニテ連盟事務局経済部長「サー・アーサー・ソルター」ニ電報シ本問題研究ノ為渡支センコトヲ依頼シ「ソ」ハ之ヲ快諾シタル趣ノ処此ノ事ヲ聞知シタル南京政府カ横合ヨリ右ノ如キ救済ハ全国ニ亘リ為スヘキモノト言ヒタル為「ソ」ノ渡支ハ目下沙汰止ノ態ナリ但当地英國側ヘノ情報ニ依レハ「ソ」ハ支那側ノ依頼サヘアレハ喜ンテ之ニ応スル意向ナルカ如シ

北平ニ転電シ南京ヘ暗送セリ

238 昭和6年1月14日 在ジュネーヴ佐藤連盟事務局長より 幣原外務大臣宛(電報)

蔣介石によるソルター連盟経済部長およびハース連盟交通部長の中国派遣要請について

ジュネーヴ 1月14日後発
本 省 1月14日後着

第一号

トシテ考ヘレハ来ル三月限り連盟ヲ辞職スル「ソルター」ヲシテ斯ノ如キ重要ノ調査ニ当ラシムルハ連盟内部ノ問題トシテ多少賛成ニ躊躇セサルヲ得ス又支那經濟問題ノ如キ大問題ニ対シ短時日間支那ニ滞在意見ヲ立ツルハ事実不可能ノコトナリトノ意見ヲ洩シタルニ対シ「アブノル」ハ一々尤ノ次第ナルモ本件ノ如キ調査ニ対シテハ「ソルター」ハ最モ適任ニシテ又連盟辞任後モ必要ノ場合彼ヲ招致シ其ノ該博ノ知識ヲ利用スルコト不可能ナラサルヘシト答ヘタル由將又内水航行問題ニ関シテハ杉村次長ヨリ特ニ日英ノ既得権及資本ニ重大ナル関係ヲ有シ決シテ輕視スヘカラサル所以ヲ説明シタル処「アブノル」ハ連盟ヨリ派遣スル調査員カ各国ノ権利若ハ資本ニ不利益ナル影響ヲ及ホス如キ意見ヲ立ツルコトアリ得ヘカラスト述ヘ結局前記ノ趣旨ニテ返電ヲ発スルコトナリタル次第ナリト云フ

本件ニ関シテハ其ノ中芳澤大使トモ篤ト相談ノ上更ニ何分ノ儀申進ムヘキモ不取敢右電報ス

英、米、仏ニ転電シ独、伊、白ニ暗送セリ

本使七日寿府来着ノ処八日杉村事務次長ヨリ左ノ通内報アリ

本日蔣介石ヨリ連盟事務総長宛電報ニテ左記二件ノ申入アリ(一)先ツ連盟保健部長ノ派遣ヲ謝シタル後現下ノ世界的不況カ支那ノ經濟界ニ及ホセル影響ニ関シ連盟經濟部長「サー・アーサー・ソルター」ノ意見ヲ徴シタキニ付同部長印度出張(十二月二十五日倫敦ヲ出発セル筈)ノ序テヲ以テ支那訪問ヲ希望ス(二)内水航行等ノ問題ニ付調査報告ヲ依頼シ度ク連盟交通部長ノ支那派遣ヲ希望ス

尚蔣介石ノ電報中ニハ今後各種ノ問題ニ付連盟ノ助力ヲ得度ク先ツ不取敢右両件ヲ委嘱スル次第付記アリタリトノ事ナリ

右蔣ノ來電ニ関シ事務総長代理「アブノル」ヨリ杉村次長ニ相談アリ種々意見ノ交換ノ結果兎ニ角本件ハ理事会ニテ決定スヘキ問題ニシテ事務総長トシテハ理事会ノ承諾ヲ条件トシ両部長ノ支那派遣ニ異存ナキ旨返電スルコトナリタル由ナリ

本件ニ関シ杉村次長ハ事務総長代理ノ相談ヲ受ケタル際正面ヨリ反対スヘキ筋合ニ非スト思考シ唯事務局幹部ノ一員

239 昭和6年1月20日 在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より 幣原外務大臣宛(電報)

連盟理事会による連盟経済部長および交通部長の中国訪問承認について

付記 第六二回連盟理事会経過報告書抜粋
連盟事務局経済財政部長および交通部長の中国訪問

ジュネーヴ 1月20日前発
本 省 1月20日後着

第八号

芳澤理事ヨリ

十九日理事会ニ於テ

(一)蔣介石ノ招請ニ基キ連盟經濟部長及交通部長支那訪問ノ件ヲ承認シ之カ費用トシテ十萬「スイス」法支出方ヲ可決セリ

(二)阿片中央委員會ノ事業報告審査ノ際同委員會議長ハ亜細亞、亜米利加及欧州ニ於ケル麻薬不正取引ノ数量莫大ナル事実ヲ指摘シ将来同委員會トシテ寿府阿片協約第二十四条所定ノ権限ニ依リ或ル国ノ同条約違反ヲ摘発シ理事

会ノ裁断ヲ仰クノ已ムナキニ至ルコトアルヘキ旨警告セ
リ

(付記)

連盟事務局経済財政部長及交通部長ノ支那訪問

一月七日付電報ヲ以テ南京政府ヨリ事務総長ニ対シ事務局
経済部長「サー・アーサー・ソルター」(当時印度訪問ノ途
ニ在リ)及交通部長「ロベール・アース」両氏ノ同国訪問
ヲ求メ前者ヨリハ現下ノ世界的不況カ同国ノ経済界ニ及ホ
セル影響ニ関スル意見ヲ徴シ度ク又後者ニハ内水航行等ノ
問題ニ付調査報告ヲ依頼シ度キ旨申越スト共ニ右来訪ニ引
続キ今後共連盟各種ノ機関及専門家ト同国トノ間ニ実際の
連絡ヲ確保シ得ルニ至ラムコトヲ希望スル旨付言シ来レル
ニ対シ事務総長ハ右申入ヲ次回理事会ニ上程シ其ノ同意ヲ
得タル上ハ旅行日程其ノ他ニ関シ更ニ打合スヘキ旨回電セ
リ(C. 49) 理事会ハ事務総長ノ覚書(C. 79)ニ基キ右
両部長及各部ヨリ夫々一名ノ事務官ノ支那訪問ヲ承認シ之
カ経費トシテ金十萬瑞西法ノ支出ヲ認メタリ右可決ノ後芳
澤理事ハ両部長ニ対シ我国ト友好関係ニ在ル支那政府トノ

於テ之カ処理ノ第一歩ヲ誤マランカ将来ニ由タシキ禍ヲ貽
スヘキヲ以テ今回ハ成ルヘク単ナル技術上ノ視察ニ止メ政
治法律等ノ方面ニ関シテハ一切意見ヲ述フルヲ避クルハ勿
論技術上ノ問題ニ付テモ能フ限り意見ノ開陳ヲ避ケタキ意
向ニテ現ニ「ライヒマン」ヨリ専門技術家ヲ帶同スヘキ旨
申越タルカ故意ニ交通部ノ「セルビア」人 Lukac ノミヲ同
伴スルコトト為シタル次第ナリ尚支那問題ノ処理ニ当リ日
本ノ協力ナクシテハ何事モ為シ得サル点ハ充分諒解シ居レ
リ云々ト述ヘタリ本件青木ニ御通知アリタシ

241 昭和6年3月7日

在パリ澤田連盟事務局局長より
幣原外務大臣宛(電報)

ソルターの本邦立寄りにつき意見具申

付記

昭和六年三月一日付在ジュネーヴ杉村連盟
事務局事務次長より青木連盟東京支局主任宛
書簡

ソルターの訪中および訪日の内情について

パ リ 3月7日後発
本 省 3月8日前着

間ニ充分ナル協力ヲ遂ケムコトヲ祈ル旨又英国理事ハ支那
政府カ連盟ノ同国ニ対シ与ヘ得ヘキ貴重ナル助力ヲ了解セ
ルコトヲ欣フ旨夫々述ヘタリ

240 昭和6年2月2日

在パリ澤田連盟事務局局長より
幣原外務大臣宛(電報)

ハース訪中の際本邦立寄り希望について

第一三号

パ リ 2月2日後発
本 省 2月3日前着

杉村公使ヨリ

連盟交通部長「ハース」ハ二月三日当地発陸路奉天ニ向ヒ
同地ニテ「ライヒマン」ト落合ヒ夫レヨリ南京ニ赴ク予定
ナルカ同人ハ一応支那各地ノ視察ヲ終リタル後三月末又ハ
四月初頃東京ニ赴キタキ希望ヲ洩シタレハ右ハ早速当局ニ
伝達シ置クヘキ旨ヲ答ヘ尚東京着ノ日取り決定次第成ルヘ
ク「ハース」ヨリ直接青木ニ電報方依頼シ置ケリ

「ハース」ハ支那内水航行及沿岸航行等ノ問題ニ関スル本
官ノ説明ヲ聴取リタル後支那問題ハ複雑且困難ニテ連盟ニ

第二八号

連盟側ニ於テ「ソルター」ノ渡支ヲ重要視シ居ルコトハ既
ニ電報セル通ナルカ右ニ関シ最近「リベリア」問題委員會
出席ノ為渡英セル杉村カ英蘭銀行筋ヨリ聞込タル処ナリト
テ内話スル所ニ依レハ対支借款問題ニ関シ「ソルター」帰
英スル迄ハ何等ノ措置ヲモ執ラサル意向ニテ同人ノ報告ニ
頗ル重キヲ置キ只管其帰來ヲ待チ居ル由ナリトコトナル
ニ付テハ本邦トシテモ同人滞支中又ハ其帰途何等適當ノ機
会ヲ捉ヘ貴電合第八四号等対支借款ニ関スル政府ノ御意向
ヲ御差支ナキ限り充分同人ニ吹キ込ミ併セテ同人支那視察
ノ結果ヲ聴取シ置カルコトヲ得ハ将来本問題カ連盟ニ於
テ取上ケラルルカ如キコトアリタル場合等便宜少ナカラサ
ルヘシト思考セラルル処同人ノ渡支ニ就テハ御承知ノ如キ
行懸モアリ旁政府筋ヨリ彼此スルコトハ多少機微ニ亘ルヘ
キモ幸森賢吾氏ハ予テ同人ト頗ル昵懇ノ間柄ナル由ニ付他
ニ適當ノ御考案ナキニ於テハ同氏辺ヨリ「ソ」帰英ノ途次
本邦立寄方懇懇セシメ両人間ノ話トシテ隔意ナク意見ヲ交
換セシムルコトトシテハ如何ト思考ス右差出カマシキコト
乍ラ芳澤理事杉村公使トモ話合ノ上思付ノ儘申進ス

(付記)

三月十四日

寿府 杉村陽太郎

東京支局 青木節一殿

拝啓 陳者「ソルター」ノ渡支及訪日ノ内情左ニ申進候

一、「ソルター」カ印度ニ出発スル以前事務局内ニ於テハ勿論一般ニモ其渡支計画伝ヘラレス唯「ソルター」寿府出發ノ際「ドラモンド」ニ対シ自分ハ他ニ仕事アレハ迷惑ヲ感スルモ或ハ支那ニ赴カサルヲ得サル事情トナルヤモ計ラレスト内話シタルコトアル由ナリ

察スルニ「ソルター」自身モ夙ニ支那問題ニ興味ヲ持チ渡支ヲ希望シ現ニ一昨年ノ太平洋會議ニ出席ノ希望ヲ間接ニ示シ小生カ「ソルター」ノ渡支ハ借款問題カ現実ノ問題トシテ取扱ハルルニ至ル際ナラサルヘカラス故ニ未タ時機尚早ナリトテ反対シタルコトアリ其後帰朝中朝野ノ識者ニ於テ寧ロ「ソルター」ノ渡支及ヒ渡日ヲ歓迎スルノ意見ヲ有スルヲ知りタレハ帰任後「ドラモンド」ニ対シ曩ノ反対ヲ撤回スル旨述ヘタルコトアリ従ツテ

「ラモンド」ニ依リ内話セラレ且ツ先般倫敦滞在中諸方面トノ接触ニテ確認セラレタレハ今ハ一刻モ猶予スヘキニアラスト信シ松平、芳澤両大使ト御協議ノ上澤田局長ニ「ソルター」帰任ノ途次我ニ招請方請電取計ヒヲ依頼シタル次第ナリ而シテ政府ノ招待ハ種々ノ点ヨリ好マシカラスト認メタレハ永年「ソルター」ト親交アル森賢吾氏ニ之ヲ依頼スルコトトシ右ニ付テハ「ドラモンド」モ至極適當ノ取計ヒナリト言ヘリ

三、支那人カ欧米人ニ対シ毎々日本ヲ悪様ニ言フコト及ヒ事務局内ニ盲目的親支論者アルコトハ連盟カ支那ニ進出シ事業ヲ企ツルニ当リ我ニ取り大ナル障害トナルモ「ドラモンド」ノ如キハ極東ノコトハ日本ノ協力アルニアラサレハ何事モ満足ニ遂行シ得サルヲ熟知スルノミナラス何人モ一度極東ヲ視察セハ直チニ此理ヲ解スヘキヲ以テ今後共連盟当事者カ渡支スル場合帰途必ス本邦ニ立寄ラシムルコトニ取計ハムトス

以上ハ極メテ「デリケート」ナル問題ナレハ其御含ニテ極ク内密ニ永井次官又ハ松田局長及ヒ森賢吾氏ノ御耳ニ入ラレ度此段御依頼申上候

敬具

「ドラモンド」ニ於テハ昨年秋渡米前支那側サヘ希望スルナラハ「ソルター」ノ渡支ニ対シ異議ヲ挿マサル位ノ考ヲ持ツニ至リタルモノカト思ハル

「アヴノル」ハ先年支那滞在中偶々排日運動ノ熾烈ナルヲ目撃シ且ツ支那人カ事々ニ我ヲ誹謗スルカ為メ支那ニ関スル連盟ノ問題ニ小生カ深入リシテ種々策動スルハ徒ニ支那側ヲシテ疑惑ヲ挿マシメ却テ好マシカラサル結果ヲ齎ラスト思惟スル様子ニテ愈愈「ソルター」ノ渡支ヲ決定スル際必要上不得已小生ニ諮リタルコトアルモ夫レ迄ハ何等小生ニ対シ意見ヲ求メタルコトナシ察スルニ本件ハ近來熱狂的ニ支那問題ニ趣味ヲ有スル「ライヒマン」及從來支那ノ友人ヲ以テ自任スル「コメール」等カ夙ニ内々計画シ南京ニ於テ「ライヒマン」ヨリ内密ニ支那側ニ申入レ蔣介石ノ招電トナリタルモノナルヘク是レ小生カ極メテ不快ニ感シタルコロニテ此点ニ付テハ将来彼等ヲ反省セシメ事務局内ニ於テ支那ニ関スル重要問題ヲ協議スル場合日本人ヲ度外視セハ結局事ノ成功ニ禍スヘキ所以ヲ理解セシメムトス

二、「ソルター」渡支ノ重要性カ南米ヨリ帰任後直チニ「ド

242

昭和6年3月11日

在南京上村(伸)領事より
幣原外務大臣宛

ハースおよびソルターの動静について

普通送第一八九号

(3月20日接受)

昭和六年三月十一日

在南京

領事 上村 伸一(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「ハース」及「ソルター」ノ動静報告ノ件

今般国民政府ノ招請ニ依リ来京シタル国際連盟交通部長「ハース」及同経済部長「ソルター」ノ当地ニ於ケル動静大要左ノ通

一、「ハース」

二月二十七日シベリヤ經由来京シ数日ニ亘リ蔣主席、宋子文、王伯群等中央要人ト屢々会見シ中国ノ交通発展計画、国際金借款問題等ニ付実情ヲ聴取シタル外交交通部ニ於テ

(イ)電信関係事項ニ関スル現在ノ施設及将来ノ計画並ニ租

第八四号

密電情報

一、十二日王家楨發張學良宛電報

十一日国民政府ハ法權交渉ニ関シ外交部ニ対シ法權回収ハ素ヨリ急務ナルモ各国協調シテ之ニ抗議セントシツツアルニ鑑ミ列國トノ友好改善ノ為新ニ緩和的交渉方針ヲ立ツヘキコト及今後外交部ハ重大交渉事件ニ対シテハ充分ナル成算ナキ限り輕率ニ意見ヲ發表セサルヘキコトヲ訓令シ又中央政治會議外交組ニ対シテモ本件ノ進行ニ便スル為速ニ外交部ト協議ノ上新ニ第二段ノ交渉方針ヲ研究スルコトヲ訓令セリ

二、十二日王家楨發張學良宛電報

我国ノ政府經濟狀態ノ調査及連盟ノ対支借款問題ニ関シ重大使命ヲ帯ヒテ來華セル連盟三部長「ソルター」「ハース」「ライヒマン」等ハ連日各要人ヲ訪問シ我国内政狀及政治思想等ヲ探訪中ナルカ其印象ハ芳シカラサルカ如ク近ク出發帰國ノ筈ニテ「ソルター」ハ連盟トシテハ支那ニ積極的ニ借款スルノ意ナク若シ単独対支借款ヲ為サントスル國アラハ連盟トシテハ中立ノ態度ヲ執ルヘキ旨並

界内ニ於テ外国側ノ設置スル無電台及在華外国軍艦ノ發受スル無線電信ニ依リ中国側ノ受クル影響ニ関スル交通部側ノ説明ヲ聴取シタル上本年末竣工スヘキ國際連盟無線電台ト真茹無線電台トノ通信交換方ニ関スル打合せヲナシ各電信機關等ヲ視察シタルカ

(四)更ニ交通部當局ハ内河航行權問題ニ付彼ニ対シ中国現在ノ航運業不振ハ全ク外国船舶ノ圧迫ニ依ルモノナルヲ以テ國際平等ノ原則ニ基キ航行權回収ノ必要ナル所以ヲ説明シ其回收方法トシテ

1、中国ノ領海又ハ内河ニ於テ經營スル外国汽船会社ハ中国ヨリ買収シ其代価ハ一定ノ期間内ニ分期支払ヲナスカ

2、外商經營ノ汽船会社ハ中国ノ出資ニ依リ暫時合併トシテ中国政府ノ支配下ニ置キ外国資本ハ漸次償還ヲナス事ノ

二案ヲ示シテ連盟ノ諒解ニ付彼ノ尽力方ヲ依頼シタリ
(ハ)尚彼ハ水利事業ヲ重要視シ導淮委員會ニ赴キ導淮工事ノ経過及現狀並其実施後ノ利益ニ付詳細ナル説明ヲ聴取シ該工事ハ中国現下ノ重要建設事業ニシテ国民利福

ニ甚大ナル影響アル所以ヲ説明シ其至急完成方ヲ建築シタル結果国民政府ニ於テモ其必要ヲ認メ右進行ヲ計ル事トナリタル趣ナリ

二、「ソルター」

三月五日上海ヨリ來京シ目下在京中ノ英國公使「ランプソン」及宋子文等ト接触シ居レルカ(宋子文米國留學時代ヨリ知人ナル由)主トシテ中国ノ經濟狀態及財政整理問題ニ付詳細ナル考察ヲナス模様ニシテ國際連盟金借款問題ニ付何ノ程度ノ使命ヲ有スルヤ不明ナリ
右御参考迄報告ス

本信写送付先 公使 上海 北平 奉天

243

昭和6年3月13日

在北平矢野(眞)參事官より
幣原外務大臣宛(電報)

ソルター、ハースおよびライヒマンの動靜に
関する王外交部常務次長より張學良宛電報に
ついて

北 平 3月13日後發
本 省 3月14日前着

ニ支那ノ建設事業ニ対シテハ極力援助スヘキ旨表示セリ
尚欧米各国カ「ソルター」ニ対シ調査依頼中ノ主ナル事項ハ(一)胡漢民事件ト政府トノ關係(二)東北西北ト南京トノ關係(三)日支交渉模様及兩國間最近ノ感情(四)露國ニ対スル政策等ナリ

支、南京、奉天へ転電セリ

244

昭和6年3月21日

在南京上村領事より
幣原外務大臣宛

ハースの動靜について

普通送第二〇八号

(4月1日接受)

昭和六年三月二十一日

在南京

領事 上村 伸一(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「ロバート・ハース」ノ動靜ニ関スル件

三月十一日付普通送第一八九号拙信ニ関シ

「ハース」ハ導淮委員會ノ依頼ニ依リ國際連盟ヨリ同伴セル技術家一名及導淮委員會技師三名ヲ帶同シ十五日南京發

蚌埠ニ至リ淮河ノ上流懷遠ヨリ下流臨淮関、五河一帯ヲ視察シ十八日帰京シタルカ更ニ北方黄河其他ノ治水事業視察ノ為二十日離京北平ニ赴キタリ
尚同人ハ三月二十六日頃帰寧ノ上四月一日上海発ノ長崎丸ニテ渡日ノ予定ナル趣ナリ
右何等御参考迄報告ス
本信写送付先 公使 上海 北平

245 昭和6年4月13日 幣原外務大臣より
在バリ澤田連盟事務局局長宛

ハースの本邦における動向について

条三第七三号

昭和六年四月十三日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 (印)

在巴里

國際連盟帝國事務局長 澤田 節藏殿

國際連盟事務局交通部長「ハース」氏来朝ニ

関スル件

國際連盟事務局交通部長「ハース」氏秘書「ルカツチ」氏

午後七時太平洋問題調査会主催ノ晚餐会(星ヶ岡茶寮)ニ出席

四月五日(日)

休養

四月六日(月)

午前十時通信省往訪、次官、管船局長、電務局長其他ト会談

午前十一時日本無線電信株式会社往訪

午後零時半國際連盟協会主催午餐会(工業倶楽部)ニ出席

席

午後三時帝室博物館見物

午後四時半鉄道次官招待ノ觀劇会(東京劇場)ニ列席、

七時半ヨリ八時半迄ノ間帝國「ホテル」ニテ同次官ノ晚餐会アリ後更ニ劇場ニ赴ク

四月七日(火)

午前八時二十分上野発十時五十分日光着金谷「ホテル」

ニ入ル(門脇事務官同行ス)

東照宮、二荒山神社ヲ見物、後自動車ニテ中禅寺湖方面

ニ遊フ

ヲ伴ヒ去ル四月二日上海ヨリ長崎ニ来着關西方面觀光ノ後同月四日東京着公私各方面ノ招待ニ応シ日光遊覽ノ上同九日横浜解纜ノ浅間丸ニテ桑港ニ向ケ出發セル処同部長本邦滞在中ノ日程御参考迄別紙ノ通り送付スルニ付御査閱相成度

尚別紙日程一部参考トシテ在寿府杉村公使ニ送付アリ度シ(別紙)

國際連盟事務局交通部長「ハース」氏来朝日誌

(昭和六年四月十日誌)

四月二日(木)

上海ヨリ長崎丸ニテ長崎ニ来着直チニ京都ニ向フ

四月三日(金)

午前京都着、青木連盟東京支局長ノ出迎ヲ受ケ京都「ホテル」ニ入ル、御所、二条離宮、丸山公園、智恩院等ヲ見物ス、午後十時京都発

四月四日(土)

午前九時東京駅着直チニ帝國「ホテル」ニ入ル

午前十一時半外務省ヲ訪問シ松田条約局長ト会談、午後

一時外務大臣招待午餐会(大臣官邸)ニ出席

午後七時五十二分日光発十一時十五分東京着帝國「ホテル」ニ入ル

四月八日(水)

午前十一時在本邦仏國大使ヲ往訪

午後零時半右仏國大使招待午餐会(大使官邸)ニ出席

午後三時帝國大学付属航空研究所見学

午後五時國際連盟協会外人部主催ノ講演会(國際連盟協会)ニ出席シ講演ス

午後七時通信次官招待晚餐会(芝紅葉館)ニ出席(晚餐会後秘書「ルカツチ」氏ハ午後十時五十五分東京発神戸

ニ向ヒ九日午後三時神戸解纜ノ宮崎丸ニ乗船渡欧ノ途ニ就ク)

四月九日(木)

午前十時外務省ヲ往訪シ永井外務次官ニ暇乞ス

午前十時半新渡部博士ヲ自宅ニ往訪

午後零時十五分東京駅発同零時四十五分横浜着、「ニューグランドホテル」ニテ午餐ノ後午後三時半解纜ノ浅間丸ニテ桑港ニ向ケ出發ス

246

昭和6年4月30日

在パリ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

中国に対する連盟諸機関の援助を要請する宋
子文より連盟事務総長宛電報について

第六六号

パ リ 4月30日後発
本 省 5月1日前着

蔣介石ノ命ニ依ル趣ヲ以テ宋子文ヨリ二十五日付連盟事務
総長宛左記要領ノ電報アリタル旨杉村ヨリ内報アリ本件ノ
処理方ニ関シテハ追テ稟申致スヘキモ不取敢

先般南京来訪ノ連盟事務局三部長ト会谈ノ結果民国政府ハ
国民経済委員会ヲ設置シ左記ノ案ニ依リ連盟専門諸機関カ
同委員会ノ顧問トシテ民国ノ再建計画ヲ援助センコトヲ要
請ス

一、先ツ連盟ハ既ニ保健問題ニ付実行セルカ如ク一定期間
ヲ限リ再建計画ノ樹立及之カ為連盟ノ援助シ得ル方法ニ
付諮問ニ応シ得ル適當ナル人ヲ派遣スルコト
二、各種具体的計画ノ実行ニ付テハ民国政府ノ要求ニ依リ
連盟ヨリ当該専門機関ニ関係アル職員又ハ専門家ヲ派遣

英米ニ転電シ、独、伊、露ニ暗送、仏ニ転報ス

247

昭和6年5月1日

在パリ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

国民経済委員会ノ設置に関する宋子文覚書ノ

要旨報告

付記 右宋子文覚書

パ リ 5月1日後発
本 省 5月2日前着

第六九号

往電第六六号末段宋子文覚書ノ要旨左ノ通

一、経済委員会ノ設置

民国経済再建ノ為ニハ多数欧米諸国ニ於ケル如ク中央政
府ニ付属スル経済委員会ヲ設置シ経済政策ノ立案統一ヲ
計ルコト望マシ右委員会ハ英国ノ例ニ倣ヒ行政院長以下
中央政府ノ要人ト民間有力者トヲ以テ組織シ之ニ各種專
門家ヲ混フル充実セル事務局ヲ付属セシメ右ヲシテ単ニ
計画ノ樹立ノミナラス其ノ実施ノ責ニ当ラシムルコト必
要ナリ

又ハ推薦スルコト

三、特殊ノ問題ニ付テハ民国政府ノ要求ニ依リ連盟ノ常設
委員会又ハ特ニ設置セラルヘキ委員会ヲシテ具体案ノ作
成又ハ改善ヲ援助セシムルコト

四、将来ノ事業拡張ニ必要ナル民国官吏ノ養成ニ付連盟ヨ
リ種々ノ援助ヲ与フルコト

五、中国ノ教育制度ヲ改善シ中国ト外国トノ学芸協力ヲ容
易ナラシムル為顧問備入方連盟ヨリ援助スルコト

六、民国発展ノ障害ヲ除去スル為国際協力又ハ数国ノ国策
統制ヲ必要トスヘキ問題ニ付民国ハ随時連盟ノ活動ヲ要
望スルコトモアルヘシ

七、一般ニ連盟専門諸機関ハ民国ノ再建計画ニ関シ常ニ同
国ノ政府及経済委員会ノ諮問ニ応スルコト

尚同日付宋子文ヨリ事務総長ニ宛テタル別電ニ依レハ民国
政府ハ本件援助請求ニ付テノ細目ニ関シテハ三月九日宋カ
「ライヒマン」ニ提出セル覚書所載ノ諸方法ヲ其儘提議ス
トアリ右覚書杉村ヨリ内密入手ノ上通読スルニ前記民国提
案ナルモノハ畢竟右覚書結論ト同様ノモノナリ宋来電及覚
書全文郵送ス

二、委員会ノ事業

最初数年間ハ財政ノ許ス範囲内ニ於テ限定セル方面ニ於
ケル緊急ナル改革事業乃至建設ニ当ラシメ其ノ結果ヲ待
チ将来広汎ナル一般的再建計画ヲ樹立セシムヘシ例ヘハ
既ニ計画済ノ鉄道建設改良事業ノ例ニ倣ヒ主要道路ノ開
鑿河川ノ保存工業土地ノ開拓専門技術家ノ養成ノ如キヲ
其ノ事業ノ第一歩トスヘシ

三、連盟ト委員会トノ関係

本委員会ハ純然タル国内機関ナルモ其ノ事業達成ノ為ニ
ハ国際的協力ヲ得ルヲ要スヘク之カ為連盟ノ助力ヲ待ツ
コト多シ即チ連盟各種委員会ニ対シテハ一層民国委員ヲ
派遣スルト共ニ之等委員ヲ前記国内機関ニ参加セシメ両
者ノ連絡ヲ計ラシムルカ如キハ其ノ一法タリ而シテ再建
計画ノ為民国カ連盟ヨリ期待シ得ル協力ハ各種アルヘシ
以上ノ結論トシテ往電第六六号宋子文提案ト殆ト同様ナ
ル援助案ヲ掲ケ居レリ

(付記)

Secretary General

Nations

Geneva.

Referring our telegram January seventh and resulting conversations with your three directors in China instructed by Chairman Chiang Kai Shek to state Chinese Government having set up National Economic Council for planning reconstruction requests collaboration League. For this purpose asks that Leagues Technical Organisations assist as advisers above Council for framing carrying out reconstruction plans as follows first, in the stage of first planning and organisation the League might be able to send someone as it has already done in the special domain of health work for such limited period as might be practicable and convenient to the Government in order to help with his advice both as to the plan itself and as to any subsequent methods by which the League could assist it. Secondly in the execution of particular projects the League might at the request of the Government send or propose officers

representatives or experts who apart from their own competence could be in contact with the relevant Technical Organisation at Geneva. Thirdly in appropriate special cases a League Committee whether a standing committee or one appointed ad hoc might at the request of the Government help to frame or improve some particular scheme. Fourthly the League might in several ways help in the training of Chinas own officers who will be required for the more extended work of later years. In the domain of health the League has already been able to arrange for technical education in practical work in other countries sometimes with the aid of Fellowships. And in addition the League might help the Government to find advisers to assist the development of the Chinese educational system and facilitate the intercourse between the centres of intellectual activity in China and abroad. Lastly China might sometimes desire to initiate League action in some sphere in which international cooperation or the

coordination of the policy of a number of countries might be required in order to remove some obstacle to Chinas development. In general the Technical Organisations of the League would in this way be continuously available for advice to the Government and the national development Council in connection with its plan of reconstruction.

TVSOONG Vice Chairman Executive Yuan.

248 昭和6年5月4日 在パリ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

宋子文提案に関する杉村次長とドラモンド、
アヴノルおよびライヒマンとの会談について

別電 昭和六年五月四日付在パリ澤田連盟事務局長

より幣原外務大臣宛第七三号

宋子文提案に関するライヒマンの談話

パ リ 5月4日後発
本 省 5月5日前着

第七二号

往電第六六号ニ関シ

杉村ヨリ本月一日「ドラモンド」「アヴノル」及「ライヒマン」ト懇談シタル次第内報アリ其要旨左ノ通

(甲)「レ」談話

一、連盟ノ対支援助ハ当分ノ中(イ)官吏ノ養成(ロ)教育制度ノ改正(ハ)衛生(ニ)交通及土地問題ノ四項目ニ限定スルヲ可トセン

二、宋ノ電報第六項ノ如キ問題ヲ顧問ニ取扱ハシムルハ元ヨリ不当ナリ

三、宋電文字句余リニ漠然タリ此儘ニテ理事会ニ問題ヲ提起スルハ困難ナランモ兎ニ角「アヴノル」及「ライヒマン」トモ意見ヲ交換事務局態度ノ決定ニ資センコトヲ希望ス

四、本件ニ付テハ日本側ノ立場及見解ヲ尊重セサルヘカラス

(乙)「アヴノル」談話

一、連盟ヨリ派遣ノ顧問ノ職責ハ技術上ノ助言ヲ与フル事ニ限り政治問題ニ容喙セシムヘカラス「ライヒマン」ハ(イ)此等顧問ニシテ背後ニ大国ノ存在スルコトヲ厭カスニ

於テハ必ス失敗ニ歸スヘク此趣旨ニテ数日前英國首相ト
會談連盟ノ支那援助問題ニ付英國カ全然無関心ノ態度ヲ
執ランコトヲ懇請シ置ケリ(○)連盟ノ對支借款問題ヲ急ニ
進メントスルコトハ不可ニテ寧ロ差当リ支那ニ技術的の援
助ヲ与ヘ其信用ヲ高メ他日有利ナル条件ニテ借款ニ応シ
得ル様仕向クルコト然ルヘシト語リ居リタルカ右ハ至極
尤ナル意見ト認ム

二、對支援助問題ニ関シ来ル五日自分議長ノ下ニ交通保險
財政及經濟部長等ヨリナル委員會ト杉村ヲ議長トスル太
平洋問題委員會ノ連合會ヲ開キ「ライヒマン」ヨリ本件
ニ関スル説明ヲ聴取スルコトトセン

「ライヒマン」談話ハ別電第七三號ニ譲ル

轉電先往電第六六號ト同シ

(別電)

パリ 5月4日後発
本省 5月5日前着

第七三號

(1)「ラ」談話

一方飽迄日本人ヲ排シ他方英仏人主義ニテ進マントスル
口吻ヲ漏シ居リタル趣ナリ)

四、第六項ハ銀價鈞上ノ為國際會議ノ召集ヲ支那ニ於テ提
議スルコトアルヤモ計ラレサル旨ヲ示シタルニ止マリ何
等他意ナシ支那ノ國權回復問題ヲ連盟ニ提起スルハ却テ
支那ニ不利ノ結果ヲ招クヘキコトハ南京主腦部ニ於テモ
ヨク之ヲ理解シ居レリ(之ニ對シ杉村ハ同項ハ文面上
「ラ」ノ説明セル事項ノミヲ意味スルモノト思ヘス從テ
之ヲ訂正セシムハ誤解ヲ招クヘシト述ヘタル処宋ノ電文
ハ實ハ「ラ」ノ起草シタルモノナル趣ニテ「ラ」ハ之ニ
對シ大イニ興奮シ種々論弁セル由)

五、連盟ノ對支技術的の援助ニ對シ最不快ヲ感スルハ米國ナ
ルヘキヲ以テ連盟ノ技術機關ニ成ルヘク多ク米人ヲ参加
セシメ以テ連絡ヲ計ルコトトシタシ

六、日本ハ常任理事國タルハ勿論各種委員會ノ全部ニ代表
者ヲ出シ事アル機會ニ各種問題ヲ討議シ得レハ本件企画
ニ對シ苦情アル筈ナシト存ス(此点ニ関シ杉村カ本件ハ
總テ事務局内ニ於テ計画セラレ居ルニ拘ラス常ニ其議ニ
参与セシメ居ラサル事實ヲ指摘シタルニ對シ「ラ」ハ過

一、宋電文第一項ハ事務局員ヲ支那ニ派遣シ(任期十二ヶ
月更新ヲ許ス)支那ト連盟トノ連絡職務ヲ行ハシメント
スルニアリ

二、第二項ニ付テハ既ニ巴里學院「ボンネ」ニ顧問ノ人選
ヲ依頼シ置ケリ(此点ニ付「デュフール」次長ハ支那ヨ
リ英文学地理地質ノ專門家ヲ招聘シタキ旨申込アリ前者
ハ当然英人中ヨリ後二者ニ付テハ独逸、瑞典、瑞西、澳
太利人中ヨリ選定セラレタキ旨支那側ヨリ注文アル旨杉
村ニ話シタル由ナリ)

三、吏員ノ任命ハ当分第一項ノ連絡係及第五項ノ教育並衛
生專門家ニ止メタキ考ナルカ日本側ヨリ日本人顧問採用
方申出ラルルコトハ差控ヘラレタシ(此点ニ関シ杉村ヨ
リ對支顧問ヲ小國人ニ限ラントスルコトハ好マシキコト
ナルモ若シ歐洲大國中ヨリモ採用スル場合独リ日本人
ヲ除外スルカ如キコトアルヘカラスト述ヘタルニ對シ
「ラ」ハ從來米國カ支那ニ有力ナル專門家ヲ派遣シ相当
ノ事績ヲ挙げ来レルニ顧ミ連盟ニ於テモ之ニ匹敵スルモ
ノヲ送ラサルヘカラス而シテ若シ小國中ニ適材ナキト
キハ大國中ヨリ採用スルモ致シ方ナキニアラスヤトテ

去ノ仕打ヲ謝シ将来杉村ト連絡ヲ取ルコトニカムヘシト
答ヘタルノミニテ敢テ本問題關係ノ事務局委員會ニ杉村
ヲ参加セシムルコトニ付テハ何等言及セサリシ由)

前電ト同様轉電ス

249 昭和6年5月4日 在パリ澤田連盟事務局局長より
幣原外務大臣宛(電報)

宋子文提案に対する我が方対応につき請訓

パリ 5月4日後発
本省 5月5日前着

第七四號

往電第七二號及往電第七三號杉村ノ内報ニ依レハ連盟事務
局幹部ニ於テモ本件對支援助問題ヲ技術的問題ニ局限セン
トノ意向ナルヤニ認メラルルモ支那ニ於テハ所謂技術問題
ノ為紛糾セル涉外問題ヲ惹起セル事例鮮カラス殊ニ今回宋
ノ提案タル畢竟スルニ「ライヒマン」カ先般訪支ノ際兩人
ニ於テ馴レ合ヒ練リ上ケタルモノノ如ク其動機ニ於テ何ト
無ク純ナラサルモノアルヤノ懸念無キ能ハス依テ連盟ニ
於テ技術的の二支那ヲ援助スル事ト決定スルモ其「モダリテ」

ニ付テハ慎重綿密ナル研究ヲ遂ケ禍根ヲ将来ニ貽ス事無キ様仕組ム事絶対ニ肝要ナリ杉村ニ於テモ本件ニ付テハ鮮カラス焦慮シ事務局内空気指導上心得方ニ付当方ハ協議ノ次第モアリ殊ニ宋電文第六項ハ眉唾物ニ付出来得ヘクハ結局之ヲ削除セシメ連盟トシテハ他ノ項目ニ付テノミ考慮スルコトノ可否等ニ付意見ヲ求メ来レルニ付芳澤理事ト篤ト協議ヲ重ネタル上差当リ当方限リノ意見トシテ大体往電第七一号ノ趣旨ヲ伝ヘ右第六項ニ関シテハ此際強ヒテ之ノミ削除セシメ得タリトセンカ他ノ各項ニ関シテハ内々之ヲ認容スル形トナリ而カモ之等各項ニ付テモ其立案ノ経緯等ニ鑑ミ第六項ノ精神伏在セルヤモ知ルヘカラス

⁽²⁾而シテ他方愈本件カ理事會ニ提出セラレタル場合ニハ第六項ハ勿論他ノ技術的事項ノ裏面ニモ伏在スル事アルヘキ政治的意味ニ関シ注意ヲ喚起シ連盟ヨリノ援助ヲ技術問題ニ限局スルトスルモ其「モダリテ」ニ付テハ之ヲ充分明確ニシタル上ニ非サレハ組織的ノ実行ニ取掛ルヘカサル所以ヲ切言シ得ルニ非サトモ存セラルルニ付杉村ニ於テハ同項ニ付テハ従来通り之ニ反対ノ態度ヲ持シツツ差当リ此際ハ強テ之カ削除ヲ交渉スル事ナク善処シ他方「アブノール」

談話第二項ノ相談會ニハ勿論何トカ適當ノ方法モアラハ事務局内ニ本件委員會設置ノ際ニハ之ニモ参加シ局内空氣ノ善導ニ努メ若シ大國ヨリ顧問派遣ノ場合ニハ少クトモ日本國ヨリモ採用ノ余地ヲ存セシムル様精々努力アリタキ旨依頼スルト共ニ本件ニ関スル的確ナル意見ハ何レ政府ニ経伺ノ上更ニ申伝フヘキ旨回答シ置キタルカ右ニテ差支ナキヤ往電第七一号稟申ノ件ト併セ御詮議ノ上至急何分ノ儀御垂示ヲ請フ

英米ニ転電シ仏、独、伊、露ニ暗送セリ

250 昭和6年5月5日 在パリ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

宋子文提案を次回理事會討論に付すとの宋宛
連盟事務総長の回電について

第七八号
往電第六六号ニ関シ
「ドラモンド」ハ一日付宋子文ニ対シ大要「貴電拝誦御来

示ノ次第八次回理事會ノ議ニ付スヘシ理事會ハ既ニ本年一月貴國政府ノ招請ヲ受諾スルニ当リ貴國政府ニ対シ能フ限リノ援助ヲ与フヘキ事ヲ全會一致決定スルト共ニ貴國政府カ現状ニ於テ連盟ノ支那ニ与ヘ得ヘキ援助ヲ充分認賞セラレタ事ニ対シ感謝ノ意ヲ表明セリ次回理事會ニ於テ本件討議ノ場合ニハ貴國政府ヨリモ代表者ヲ出席セシメラルル事ト予想ス」トノ趣旨ノ回電ヲ發シタル趣並「ド」ヨリ杉村ニ対シ本件宋ノ来電公表ヲ次回理事會直前迄見合方ニ関シ目下宋ニ照會中ナルニ付日本側ニ於テモ右御含ニテ処理アリタキ旨ノ希望申出アリタル趣四日杉村ヨリ内報越セリ

英米へ転電シ仏伊へ暗送セリ

251 昭和6年5月6日 在パリ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

連盟の对中国援助問題審議から我が方排斥傾向に
関し杉村次長より連盟事務総長への抗議
について

パリ 5月6日後発
本省 5月7日後着

第八一号
往電第六六号ニ関シ
五日杉村ヨリノ内報要旨左ノ通
四日杉村「ドラモンド」ニ面會南京ヘノ回電方ニ付予メ協議ヲ受ケサリシハ日本人事務次長トシテ遺憾ニ堪ヘス抑々本件ニ関スル事務局内ニ於ケル計画南京ニテノ交渉事務局内委員會設置等過去ニ於テ日本側カ全然遠サケラレタルノミナラス将来ニ於テモ顧問ノ任命等ニ付少クトモ「ライヒマン」ノ如キハ日本人採用ヲ考慮シ居ラサルカ如ク(往電第七三号ノ三)即チ本件ハ總テ日本排斥色彩ノ下ニ進行セシメ居ラルル如ク右ハ単ニ連盟ノ見地ノミヨリスルモ殆ト諒解ニ苦シム所ナリト述ヘタルニ対シ「ド」ハ之迄ノ手落ヲ謝シ自分ノ関スル限リ将来何事モ通報協力スヘク又局内委員會ハ技術問題ノミヲ討議スル建前ナルニ付杉村ノ参加ヲ不可トスル説ニハ反対シ難キモ同委員會ノ模様ハ一切杉村ニ通報スル様委員長タル「アブノール」ニ命令スル旨約束セリ

尚「ド」ハ対支援助ト云フモ自分トシテハ外國ノ条約上ノ權利又ハ重要ナル利益ヲ害スル懼アル方面ハ嚴ニ之ヲ避ケ

ントスル意見ナルカ從來ノ保健事業並ニ(一)官史ノ養成(二)土地改良問題(先ツ沼地ノ乾水)(三)教育ノ如キハ純然タル技術問題ト看做スモ可ナルヘク支那ノ要求ニ対シ連盟ニテ躊躇セハ米國又ハ「ソビエツト」ヨリ顧問ヲ出スコトトナラシコトヲ恐ルル次第ナリト説明シ且「ソルター」及「ハース」ハ東京ニ於テ本件ノ内容ニ付必ス何等カ説明セリト察スルニ付日本政府側ニモ大ナル誤解ナカルヘキカト思ハルト述ヘタリ

英、米、仏、独、伊、露ニ暗送セリ

252

昭和6年5月10日

在パリ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

連盟の对中国援助問題に関する我が方対処方

針につき請訓

パ　　リ　　5月10日後発
本　　省　　5月11日後着

第八五号

芳澤理事ヨリ

八日杉村次長連盟ノ対支援助問題ニ関シ本使及澤田局長ト

面談ノ為特ニ来巴シ三人篤ト協議ヲ遂ケタル結果本使ノ意見左ノ通申進ス尤モ本件ニ付テハ局長累次ノ電報ニ依リ目下御考中ノコトト存セラルルモ次回理事会モ数日内ニ迫レルコトニモアリ聊カ重複ヲ顧ミス茲ニ稟請スル次第ナリ抑々帝國政府ニ於テハ從來ヨリ支那ノ復興ニ対シテハ同情的態度ヲ執ラルル御方針ナリト承知シ居リ一月理事会ニ於テ支那政府ノ招請ニ応シ財政交通兩部長ノ派遣ヲ決定セル際ニモ本使ヨリ之ニ賛意ヲ表シタル次第ナルヲ以テ今次支那側申出ニ対シテモ原則トシテハ右態度ヲ維持スルコトト致シタク唯援助ノ具体的方策ニ関シテハ日支ノ特殊關係及我方ノ立場ニ顧ミ輕々ニ賛意ヲ表シ難キモノアルヘキヲ予想セラルル次第ナリ

即チ支那申出ハ之ヲ大別シテ政治的事項及技術的事項ト為スヲ得ヘク政治的事項ニ付テハ杉村ノ談ニ依ルニ「ドラモンド」ニ於テハ絶対ニ之ヲ避クヘシトノ意見ナルカ如キモ理事会ニハ支那代表モ参列スヘキヲ以テ今日ヨリ之ヲ確言シ得ス惟フニ現在ノ如キ不安定ナル支那政情ノ下ニ連盟カ支那政治事項ニ手ヲ染ムル事ハ連盟トシテモ至大ノ危険ヲ冒スモノナルノミナラス列強間ニ各種ノ紛糾ヲ生スル虞アリ

ルヲ以テ連盟及列強何レノ見地ヨリスルモ絶対之ニ応セサルヲ得策トスヘシ所謂政治事項ナルモノニ付テハ素ヨリ具體的の説明ヲ必要トスルモ果シテ右カ治外法權撤廃居留地撤廃租借地問題鐵道問題乃至ハ滿蒙問題ノ如キヲ意味スルモノナリトセハ此種申出ハ之ヲ流産ニ帰セシムヘキ事当然ノ儀ナリト存ス

次ニ技術的事項例ヘハ鐵道電信教育保險等ニ就テ考察スルニ支那ノ事項タルヤ技術問題ト言フモ政治的意味ヲ包含スル事多アルハ申迄モ無ク又日本トシテハ支那ノ隣国タル關係上遠隔ノ欧米諸国ト異ナリ必スシモ無関心タルヲ得サル場合アルヘキノミナラス技術顧問ノ人選ニ付テモ初ヨリ日本人ヲ排斥スルカ如キハ之亦一種ノ政治的結果ヲ招来スルノ虞アルモノト云ハサルヘカラス從テ技術問題ニ関シ援助スルト言フモ我方トシテハ漫然之ヲ鵜呑トナスヲ得ス其性質及範圍ニ付充分考査ノ上何等決定スルヲ要ス

殊ニ連盟事務局内部ノ事情ヲ聞クニ「ライヒマン」ハ杉村ニ対シ日本人顧問ヲ固執セサランコトヲ勸奨シ「ドラモンド」自身モ杉村ヲ本件事務局内委員會ニ参加セシムルコトニモ飽迄反対ナル趣ナルヲ以テ右ノ空氣ニ徴スルモ我方ト

シテハ本件今後ノ処理方ニ付頗ル慎重ノ考慮ヲ要スル儀ニシテ対支援助ノ具体的方策ニ関シ場合ニ依リ或ハ留保シ或ハ反対セサルヘカサル立場ニ立ツコトヲ予想セサルヲ得ス尤モ理事会ノ席上ニ於テ支那代表ノ感情ヲ顧ミス反対ノ態度ヲ表明シ徒ニ事ヲ構フル如キコトハ出来得ル限り之ヲ避ケルコト賢明ノ策ナルヘク從テ今後事態推移如何ニ依リ理事会外ニ於テ例ヘハ英仏側ノ諒解ヲ取付クルトカ或ハ事務局幹部ト交渉シテ我方ノ希望ヲ實現スルニ努力スル積リナルモ右ノ如キ極端ナル場合ヲモ予想シ置クコト無益ニ非スト存セラル

就テハ澤田局長累次ノ電稟及前記ノ次第御考察ノ上政府何分ノ御方針折返シ御回示相仰キ度シ

英、米、仏、伊、独、露ヘ暗送セリ

253

昭和6年5月10日

在パリ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

連盟の对中国援助問題に関する事務総長ノ一

トの指示に際し我が方対処方につき請訓

パ　　リ　　5月10日後発
本　　省　　5月11日後着

第八六号

往電第八一号二関シ

杉村次長ハ予テ当方トノ打合ニ基キ事務局内空氣善導方努力シ来レル次第ナルカ八日当地ニ於テ協議ノ際杉村ハ事務総長殊ニ「ライヒマン」ハ本件ニ関シ理事会ノ席上ニ於テ喧シク議論セラルル事ヲ好マス依テ事務総長ヨリ本件援助ノ性質及範圍等ヲ説明セル「ノート」ヲ理事会ニ提出シ同會ハ単ニ之ヲ了承成ルヘク速ニ実行ニ取掛リ得ル様仕組ミ度キ考ナルカ日本側ノ満足ヲ買フ為右「ノート」ハ予メ杉村ヲ経テ当方ニ内示シ必要ノ場合ハ本省ニ経伺ノ上適宜訂正ヲ加フル事トシ然ルヘシト存シ居ル旨ヲ語リ右ニ関スル当方ノ意見ヲ求メタルニ付本省ヨリ何等訓令ニ接セサル今日確カナル事ハ言ヒ難キモ当方トシテモ徒ニ理事会ニ於テ事ヲ構フル事ヲ好ム次第第二非ス

右「ドラモンド」ノ提案タル本件今後ノ処置方トシテ一案タルヲ失ハスト認ムルニ付杉村ニ対シテハ差当リ其方針ニテ進ミ若シ右「ノート」ノ内容カ全然当方ノ意ニ反スルモノアリタル場合又ハ本省ヨリ反対ノ訓令アリタル場合ニハ已ムヲ得ス理事会席上ニ於テ相当議論スル事モ之有ルヘキ

第六九号(至急)

本省 5月11日後発

貴電第七一号及第七四号ニ関シ

本件措置振ニ対スル貴見大体同感ナル処此際連盟ノ対支進出ニ関スル当方ノ所見為念左ニ申進ス

一、当方ニ於テハ連盟ノ対支進出ヲ以テ大勢止ムヲ得サルモノト認メ寧ロ之ヲ善導スルノ得策ナルヲ思フト共ニ我対支方針ニシテ公正ナル限り右連盟ノ進出モ敢テ介意スルニ足ラスト思考シ居レル次第ナリ抑モ帝国政府ノ支那現政局ニ対スル態度ハ本大臣カ過般議會演說中ニモ述ヘタル通り滿蒙ニ於ケル特殊權益殊ニ旅大滿鉄等ノ如ク我カ国民の生存ノ必要上事態ノ変改ヲ許ササルモノハ毅然トシテ之ヲ擁護スルノ覚悟ヲ有スル一方(滿鉄交渉ニ関スル当方方針ハ客年末並一機密合第一六二五号公信ヲ以テ申進セル通り)所謂対支不对等關係中治外法權問題等ノ如ク世界ノ變遷殊ニ日支間ノ新事態ニ応シ適宜整理シ得ヘキモノハ合法的の順序方法ニ依リ之カ調整ヲ行ヒ以テ支那ノ國權回復運動ニ応スルノ用意アリ之ト共ニ支那ノ政治上經濟上其他諸般ノ方面ニ於ケル建設の努力ニ対シ

旨語り置キタル処九日夜杉村帰京「ドラモンド」ト会谈ノ上「ライヒマン」ヲシテ早速右「ノート」ヲ起草セシメ来ル十一日事務局内本件委員会ニ之ヲ諮リタル上不取敢其草案ヲ杉村ニ内示スルコトニ取計ヒタル趣ニテ来週早々右「ノート」ノ内容ニ付杉村ヨリ当方ニ協議シ来ルコトニ取計ヒ置ケリ其際ニ当リ政府ノ御意向ヲ明カニセス杉村ニ対シ何等的確ナル回答シ得サルコトアリテハ頗ル遺憾ニ付本件累次ノ稟申ニ対シ何分ノ儀至急御垂訓ヲ請フ

尚杉村「ドラモンド」会谈ノ際杉村ハ八日当方ト協議ノ結果ニ基キ局内委員会ニ杉村参加ノ件及日本人顧問招聘ノ件ニ付再応申入レタルニ対シ「ド」ハ前者ニ付テハ依然絶對反対ノ意ヲ表シ後者ニ付テハ渋々年ヲ更ニ考慮スヘシト言ヒ居タル趣ナリ

英、米、仏、伊、独、露へ転電セリ

254

昭和6年5月11日

幣原外務大臣より
在パリ澤田連盟事務局長宛(電報)

連盟の对中国援助問題に関する我が方方針訓令

テハ政府ハ国民政府ノ依頼ニ応シ現ニ出来得ル限りノ便宜ヲ供与シツツアリ

二、故ニ今次連盟ノ計画ハ右我方ノ支那建設援助ノ方針ト相一致スルモノニシテ該計画ニシテ連盟ノ真精神ヲ發揮シ且其ノ実行方法ニシテ誤リナクハ我方ノ大ニ歡迎スル所ナリ然ルニ貴電ニ依ルニ連盟幹部内ニハ日本ノ対支方針並ニ東洋ニ於ケル地位ヲ正解セス故サラ我方ヲ疏ンセントスルモノアルヤノ趣ナル処右ハ支那人カ故サラニ誇張セル排日の言說ヲ欧米人ニ宣伝シ夷ヲ以テ夷ヲ制セムトスル心理情態ヲ解セサルニ由ルモノト思ハル今連盟ニシテ是等ノ宣伝ニ迷ハサレ今次計画ノ如キニモ日本側ヲ参与セシムルニ於テハ連盟ト支那トノ關係ヲ悪化セシムヘシト杞憂スルカ如キコトアランカ連盟トシテハ其ノ東洋ニ於ケル發展上極メテ不見識ナル態度ニ出ツルモノト謂ハサルヘカラス斯クノ如キハ却テ支那識者ノ疑惑ヲ醸スヘキノミナラス日本國論ニ対シテハ連盟カ故サラ日支ノ關係ヲ紛糾セシムルモノナルヤノ感触ヲ与ヘ世界ノ平和ニ貢獻スヘキ連盟カ東洋ニ於テハ波瀾ヲ起スモノナリトノ誤解ヲ生セシムヘシ

三、將又本件計画実行ノ方面ヨリ謂フモ支那ノ事態ノ複雑機微ナルニ顧ミサル表裏両面ノ実情ヲ察シテ之ヲ考慮ニ加フルニ非サレハ一切ノ計画ハ一片ノ空論ニ帰スヘシ若シ連盟ニシテ此ノ点ニ深く留意セス早急支那關係事業ニ手ヲ下スコトアランカ其ノ結果連盟ノ威信ニ関スルカ如キ事態ニ立到ルノ惧レアルノミナラス却テ東洋ノ和局ヲ紛糾セシムルニ至ルヘシ斯ル危険ハ連盟力支那ノ政治的方面ニ干渉スル場合ニ於テ特ニ然リトス故ニ貴方ニ於テ連盟ヲシテ先ツ以テ技術的の方面ニ手ヲ染ムル様誘導セントセラルルハ之ニ依リ連盟幹部力漸次支那ノ実情ヲ知ルノ機会トモナルヘク連盟ノ為メ図リテ忠ナル所以ニシテ当方ノ意向トモ合致スル次第ナルカ連盟ノ対支技術的進出ニ付テモ事態ノ現状ニ即スルコトヲ要ス日本ハ從來常任理事国トシテ連盟各般ノ事業ニ参与シ来レル処事欧州問題ニ関スル場合ト異リ支那問題ニ関シテハ現実ノ知識ト協力ノ便宜トニ於テ長所ヲ有スルコト云フヲ俟タサル所ニシテ連盟力此方面ニ活動ヲ開始スルニ当リ日本ノ長所ヲ利用セサルハ甚タ謂ハレナキコトナリ此ノ点ヨリスレハ他ノ大國力顧問等ノ選任ニ漏ルル場合ニ於テモ日本

右ニ付テハ追報ノ筈）本件ニ付テハ本大臣トノ面会ニ於テモ何等話無ク其ノ他ノ方面ニ対シテモ別段言及スル所ナカリシ模様ナリ只七日同人暇乞ノ為永井次官ヲ来訪セルカ其ノ際貴電第六六号宋子文電報写及「ソ」等ノ渡支ニ関スル支那政府ノ「コンミニユニケ」写ヲ單ニ参考トシテ同次官ニ手交シ本件ニ付テハ「ハース」「ライヒマン」トモ話合ヒタル旨付言セル趣ナルモ別段我方ニ対シ説明ヲ与フルカ如キ態度ニハアラサリシ由ナリ又「ハース」「ライヒマン」来朝ノ節モ次官ヨリ多少探リヲ試ミタルモ本件ニ関シ同人等ヨリ何等言及シタルコトナシ

尚右「ソ」来訪ノ際永井次官ヨリ同人ニ対シ支那ノ事態ハ甚タ複雑機微ナルモノアルヲ以テ連盟ニ於テ同國ノ事業ニ携ハル場合ニハ特ニ充分慎重ナル態度ヲ以テ之ニ臨ムコト連盟自身ノ威信且利益ノ為ニモ必要ナル所以ヲ説示シ且日本ハ支那ニ於テ最も緊密ナル利害關係ヲ有シ從テ同國ノ実情ニ最も善ク通曉シ居ルモノナルト共ニ連盟ノ事業ニ対シテハ衷心共鳴シ全力ヲ挙ケテ之ニ協力シ来レル次第ハ過去ノ事例ノ示ス如クナルカ連盟ニシテ支那ノ事業ニ携ハルニ當リテハ特ニ日本ノ輿論ニ及ホス影響ヲ考慮ニ入ルルコト

ヨリハ之ヲ参加セシムルコト本事業ノ目的ヲ達成シ得ヘキ所以ト思考ス

就テハ叙上ノ趣旨御含ノ上此上共芳澤理事杉村公使ト連絡シ連盟側ニ於テ今次計画ニ関シテモ絶エス日本側ト連絡ヲ取り其ノ意見ヲ求ムルト共ニ顧問等ノ選定ニ付テモ進ンテ日本人ヲ採用スル如キ態度ニ出ツル様善導方精々御努力アリタシ

訓令トシテ仏ニ転報アリタシ

英米ニ転電シ、独伊露ニ暗送シ杉村公使ニ転報アリタシ

255 昭和6年5月12日

幣原外務大臣より
在パリ澤田連盟事務局長宛(電報)

ソルターと外務大臣などとの会談について

本省 5月12日後発

第七〇号

貴電第八一号末段ニ関シ

「ソルター」ハ過般来朝中晚餐等ノ機会ニ於テ本大臣、大藏大臣、民間有力者等ト面会シタルカ(支那財政建直シ問題ニ関シテハ民間有力者ヲシテ「ソ」ト会談セシメタルカ

肝要ナルヘク万一日本ヲ疎外スルカ如キ形跡ニテモ示スカ如キコトアランカ日本国民ハ連盟ニ対シ痛ク失望スヘシトノ趣旨ヲ述ヘ置キタル趣ナリ

英、米、仏、独、伊、露ニ暗送シ杉村公使ニ転報アリタシ

256 昭和6年5月12日

幣原外務大臣より
在パリ澤田連盟事務局長宛

ソルターの本邦における動向について

条三第九四号

昭和六年五月十二日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎(印)

在巴里

國際連盟帝國事務局長 澤田 節藏殿

國際連盟事務局前經濟財政部長「サー・アー

サー・ソルター」来朝ノ件

國際連盟事務局前經濟財政部長「サー・アーサー・ソルター」氏ハ「モーリス・フレール」(Maurice Friere)以前賠償委員會ニ出席シ居リシ白耳義人ニテ目下財務官トシテ在柏林白耳義大使館付)及秘書「キューウェル」両氏ヲ伴ヒ去

ル四月三十日上海ヨリ神戸ニ来着、関西ニ於ケル講演及觀光ヲ終ヘ五月二日入京各方面ノ講演及接待ニ応シ当方ノ接待ニテ日光遊覧ノ上同七日横浜解纜ノ秩父丸ニテ桑港ニ向ケ出発セル処同氏来朝日誌御参考迄別紙ノ通り送付ス尚別紙日誌二部ノ中一部ハ参考トシテ在寿府杉村公使ニ送付アリ度シ

(別 紙)

国際連盟経済財政部長「サー・アーサー・ソルター」来朝日誌

四月三十日(木)

上海ヨリ「エムプレス・オブ・カナダ」ニテ午後一時神戸ニ来着、青木連盟東京支局長ノ出迎ヲ受ケ直チニ京都ニ向ヒ京都「ホテル」ニ入ル、同日智恵院、清水寺等ヲ見物シ京都「ホテル」ニ一泊

五月一日(金)

午前中二条離宮、御所、平安神社等ヲ見物、後奈良ニ遊ヒ更ニ大阪ニ至リ午後七時ヨリ大阪自由通商協会ノ主催ニテ大阪「ビルディング」ニ於テ「世界ノ不況ト国際的協力」ナル題下ニ講演ヲナシ(青木支局長通訳)同夜大

阪発東京ニ向フ
五月二日(土)

午前九時東京駅着直チニ帝国「ホテル」ニ入ル
午前十一時大蔵大臣ヲ訪問、会談
午前十一時半外務省ヲ訪問シ松田条約局長及松島欧米局長ト会談

午後一時外務大臣招待午餐会(大臣官邸)ニ出席
午後五時連盟協会総会(保険協会)ニ出席講演
午後七時太平洋問題調査会主催、晩餐会(新渡戸博士邸)ニ出席

五月三日(日)

午前八時二十分上野発十時五十分日光着、金谷「ホテル」ニ入ル(石川事務官同行ス)
東照宮ヲ見物後中禅寺湖方面ニ遊フ、金谷「ホテル」ニ一泊

五月四日(月)

午前十一時日光ヨリ帰京
午後零時半大蔵大臣主催ノ午餐会(銀行「クラブ」)ニ出席

午後四時半連盟協会外人部茶話会ニ出席
午後五時半ヨリ外務次官ノ招待ニテ歌舞伎座見物
午後八時半英国代理大使ノ招待ニ応シ同大使館ニ於ケル晩餐会ニ出席

五月五日(火)

午後零時半正金銀行招待ノ午餐会ニ出席
森賢吾氏招待ノ晩餐会ニ出席

五月六日(水)

午前中総理大臣及商工大臣ヲ訪問会談
午後四時日本経済連盟主催ノ茶話会ニ出席シ(工業「クラブ」)
「国際連盟ヨリ見たる世界ノ不況問題」ノ題下ニ講演、(青木支局長通訳)

午後七時連盟協合理事会主催ノ晩餐会(銀行「クラブ」)ニ出席

五月七日(木)

午前中各所暇乞
午後零時半東京駅発午後三時横浜解纜ノ秩父丸ニテ桑港ニ向ケ出発

257

昭和6年5月16日

幣原外務大臣より在パリ澤田連盟事務局長宛(電報)

中国財政立て直しなどに関するソルターと森貴族院議員および武内横浜正金銀行副頭取との会談について

本省 5月16日後発

第七七号

往電第七〇号ニ関シ

森賢吾及正金武内ヨリ夫々「ソルター」トノ会談ニ付内報アリタル処右会談ノ際ニ於ケル「ソ」ノ談話中注意スヘキ点大要左ノ通尚右ハ同人等ノ希望モアルニ付内密ニ付シ置カレタシ

一、森ニ対スル談話

(イ)目下借款ヲ以テ支那ヲ援助シ得ヘキヤハ世界投資市場ノ現状ニ照シ直ニ判断シ得サルモ一方同国ニ巨額ノ借款ヲ供与スルコトハ却テ同国ノ財政ヲ強固ナラシムル所以ニアラスト信セラルルヲ以テ仮令同国ニ借款ヲ与ヘ得ルトスルモ最初ハ極メテ緊切必要ナル金額ニ止ムルコト必要ナルヘシ

(ロ)支那ニ借款ヲ供与シ得ル時期到来スル場合ニハ監督方法、借款団關係、担保ノ三点ニ付考慮スルヲ要スル処
(一)監督方法ニ付テハ支那側ハ外国ノ監督權ヲ認容セサルヘキヲ以テ結局ハ助言的機關ニ依リ間接ニ監督スルノ途ヲ執ルコトヲ要スヘク又(二)借款団ニ付テハ支那側ニ強キ反対アルヲ以テ形式上ハ借款団ヲ基礎トセス例ヘハ連盟ノ仲介ニ依リ新ナル發行団ヲ組織スルト言フカ如キ方法ヲ執ルコト必要ナルヘク(尤モ實際上ハ現借款団員カ関与スルコトナルヘキモ)將又(三)担保ニ付テハ将来有望ナルハ単ニ関税ノミナルカ右ハ団匪賠償金等ニ対シ三重三重ニ担保トナリ居ルヲ以テ例ヘハ同賠償金ノ担保順位ヲ新規借款ニ譲ルカ如キ措置ヲ執リ得ハ好都合ナルヘシ

(ハ)幣制改革ニ付テハ南京政府ニ於テ今直ニ幣制ノ大改革ヲ実行スルノ意アリトハ信セラレサルノミナラス支那現下ノ事態ハ未タ之ヲ実行シ得ヘキ時期ニアラスト思考セラル

二、武内ニ対スル談話

武内トノ会谈ニ於テモ大体前記森ニ対スルト同様ノ談話

第三七号

本省 5月18日前着

巴里発往電第八六号ニ関シ

本件ニ関シテハ巴里宛電第六九号御訓令ノ趣旨ヲ体シ其後トモ引続キ杉村ト連絡ヲ保チ連盟事務局内ノ空氣善導ニ努メ来レル結果「ドラモンド」ハ当初顧問派遣ノ件ニ関シ支那側ヨリ欧米人ヲ希望シ来リ居レリトノ理由ノ下ニ「ライヒマン」同様日本人採用方ニ付賛成セサリシ由ナルカ結局本件具體的ノ問題トシテ考慮スル時期ニ達シタル際ニハ国籍ノ如何ヲ問ハス適任者ヲ詮衡シ之ヲ推スコトスヘキ旨杉村ニ確言シ且從來杉村ノ参加ニ肯セサリシ事務局委員会ニ同人ヲモ加フルコトナレリ而シテ前記往電事務総長ヨリ理事会ニ提出スヘキ「ノート」ノ内容及字句ニ付テモ起案者タル「ライヒマン」ヨリ杉村ヲ通シテ我方ノ意見ヲ求メ来リタルニ付我方ヨリ原案ニ対シ四五修正ヲ要求シ其内二三ヲ採用結局要領別電第三八号ノ如ク決定来ル十八日理事会ニ提出スルコトナレリ其際ニハ芳澤理事ヨリ貴電御訓令ノ趣旨ヲ体シ如何ニ技術的問題ト云フモ支那ニ於テハ動モスレハ政治問題化スル危險アルコト故連盟トシテハ

アリタルカ武内以外ニ、三実業家同席シタル關係モアリ余リ突込ミタル話ハナカリシ模様ナリ只其ノ際「ソ」ハ前記(ロ)ト同趣旨ノコトヲ述ヘタル外連盟カ計画ヲ樹テ其ノ実行ニ取掛ルニ当リテハ之ヲ徹底セシムル確信ナキ限り之ヲ敢ヘテセサルヘキ旨並ニ目下問題トナレル銀價救済ニ関スル諸案ハ何レモ實現スヘシト思ハレサル処抑々銀價ハ其ノ高下ヲ問ハス何レカニ安定セハ可ナルヘク只憂フル所ハ大ナル變動ニアル旨述ヘタル由ナリ
委細郵報

英米ニ転電シ独伊ニ暗送シ仏及杉村ニ転報アリタシ

258 昭和6年5月17日 在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

連盟の对中国援助問題に関する事務総長ノ一
トへの我が方修正申し入れについて

別電 昭和六年五月一七日付在ジュネーヴ澤田連盟

事務局長より幣原外務大臣宛第三八号

修正事務総長ノ一トの概要

ジュネーヴ 5月17日後発

此点大イニ戒心ノ要アルコト且本件実行ニ付テハ充分日本ノ経験ヲ利用スヘキ所以ヲ力説シ其了解ノ下ニ右事務総長ノ「ノート」採用方同意ノ積リナリ

尚別電第六項ニ関スル部分ハ巴里発往電第七三号「四」記載ノ通り中国側ヨリ銀價吊上會議ノ召集ヲ要求シ来ルヘキ場合ヲ予想シテ起草セラレタルモノナル由ナルカ之ニ付テモ杉村ヲ通シ当方反対ノ趣旨ヲ述ヘ置ケル結果将来スルコト有リタル場合ニハ兎ニ角理事会ニ諮リ其承認ノ下ニ何等行動ヲ為スヘシトノコトニテ将来理事会ノ問題トナリタル際当方ノ意ニ満タサルモノアリタル時何トカ阻止ノ方法モアルヘシト存シ之ニ同意シ置ケリ
英、米、仏、独、伊、露ヘ暗送セリ

(別電)

ジュネーヴ 5月17日後発
本省 5月18日前着

第三八号

「連盟トノ技術的協力ニ関スル支那政府ノ通告」ト題シ先ツ本件從來ノ経過ヲ略述シタル後「理事会カ本件中国政府

ノ提案ヲ受諾スルニ決定シタル時ハ連盟ノ当該機關カ其助力ヲ与フルニ當リ從フヘキ規則ヲ定メ置クノ要アルヘク之カ為左記手續ニ對シ理事會ノ承認ヲ求ム」ト述ヘ支那提案中

第一項一定期間支那ニ派遣セラルヘキ職員ハ連盟ノ専門機關ノ活動及中国政府カ之ヲ利用シ得ヘキ方法ニ付説明ヲ与フルノ權限ヲ有スルモノタルヘク之カ為専門機關ノ一部長ヲシテ再ヒ中国ヲ訪問セシムルコト然ルヘク

第二項乃至第四項ハ事務總長ヨリ当該機關ニ移牒シ同職務運用手續ノ要求スル如ク之ヲ理事會ニ諮リ其同意ノ下ニ必要ナル措置ヲ執ラシメ

第五項教育制度及中国ニ於ケル學芸ノ中心ト外國トノ連絡ニ關スル件ニ付右ト同様學芸協力委員會ニ移牒シ

第六項中国政府カ技術會議ノ召集ヲ要求シタル時ハ事務總長ハ之ヲ理事會ニ通告シテ其決定ヲ求ムヘシ

トノ大綱ヲ列記シ最後ニ經費ノ点ニ關シ最近開催セラレタル監督委員會ハ(一)中国政府ハ延滞金ヲ含ム分担金支払ノ確約ヲ与ヘタルニ依リ明年度予算ニ支那トノ連絡費トシテ四十八万瑞西「フラン」ヲ計上スルニ異議ヲ挾マス(二)差當リ

連盟ニ於テ支那援助ノ場合同國ト特ニ密接ナル關係ヲ有スル我方ノ知識經驗ヲ利用スル事ハ連盟トシテ正ニ採ルヘキ策ナルヘキ旨顧問推薦ノ場合ニ於テハ日本人タルカ故ニ之ヲ除外スルカ如キ事ナキノミナラス当該問題ニ關シ適任者アル場合ニハ連盟ヨリ進ンテ之ヲ推薦スル様承知セラレタキ旨ヲ縷述セル處「ドラモンド」ハ連盟當局トシテハ日本側ニ對シ区别的待遇ヲ与ヘントスルモノニ非ス唯將來顧問推薦ノ場合ニ於テ若シ支那側ヨリ例ヘハ英文學教授トカ又ハ欧州特殊地方ニ於ケル特殊工事ヲ完成シタル技師等ヲ指定シ其派遣方ニテモ要求シタル場合ニハ全然特殊ノ註文トシテ当該教授或ハ技師ヲ推挙スル外ナカルヘク日本ヨリノ顧問派遣ノ儀ハ日支間ノ直接ノ問題トシテ處理サル事ハ如何ナルヘキヤト述ヘタルニ付本使ヨリ日支間直接ノ問題ハ無論日本丈ニテ處理スヘシ唯仮ニ支那側ヨリ日本人以外ノ人物ヲ要望シ來レル場合ニ於テモ当該問題ニ付日本人ニ適任者アリタル時ハ連盟トシテハ進ンテ該日本人ヲ採用セシムル様仕向クル事肝要ナリト述ヘ

尚澤田ヨリ之ニ付言シ日本ハ連盟ノ成立以來其忠實ナル一員トシテ連盟各般ノ事業殊ニ日本ニ關係薄キ純然タル欧州

本年度ハ中国政府ノ支払フヘキ延滞金ノ一部ヲ以テ不足ヲ補フコトヲ例外的ニ且總會ノ同意ヲ條件トシテ承認スル旨ヲ記載セリ

英、米、仏、白、伊、露、各大使ニ郵送セリ

259 昭和6年5月18日 在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

連盟の对中国技術援助に我が方参加につき連

盟事務總長との会談について

ジュネーヴ 5月18日前發
本 省 5月18日後着

第三九号

芳澤理事ヨリ

對支援問題ニ關シ連盟事務局内ノ空氣緩和セラレタル次第ハ澤田局長發往電第三七号ノ通ナル處理事會開會前事務總長ヲシテ本件ニ關スル当方ノ所見ヲ充分諒解セシメ置ク事肝要ナリト存シ昨十六日澤田同道同總長ヲ往訪シ先ツ過般來本件ニ關スル同氏ノ骨折ハ當方ニ於テモ之ヲ多トシ居ル旨ヲ述ヘタル上巴里澤田宛貴電第六九号ノ御趣旨ヲ体シ

問題等ニ付テモ偏ニ國際協調ノ促進及世界平和ノ達成ヲ顧念シ出來得ル限りノ貢獻ヲ為シ來リタルコトハ總長ニ於テモ充分認メ居ラルコトト存スル處今ヤ日本ニ緊切ナル關係ヲ有スル支那問題ヲ連盟ニ於テ處理セントスルニ當リ進テ日本ノ長所ヲ利用スルコトヲ図ラサルノミナラス却テ幾分ニテモ之ヲ阻害セントスルカ如キ態度ニ出ツルコトアラシカ右ハ鮮カラス日本ノ感觸ヲ害シ延テハ日支ノ關係ニ面白カラサル影響ヲ及ホシ遂ニハ日本ノ對連盟態度ヲ極端ニ惡転セシムルコトアルヘキヲ以テ今後本件ヲ處理スルニ當リテハ右ノ点ヲ充分念頭ニ置キ善處セラルコトト致シタシト語リタル處「ド」モ當方ノ主張ヲ首肯シ今後共日本側ニ對シ差別待遇ヲ与フルカ如キコトナカルヘキコトヲ縷返シテ確言シ前述ノ如ク支那ヨリ特殊人物ヲ指摘シ之ヲ要望シ來レル場合ハ兎ニ角一般的問題トシテ適當ナル人物推挙方依頼アルカ如キ場合ニハ何等国籍ニ依リ區別ヲ設ケス当該問題ニ最適任ト認ムル者ヲ推薦スル考ナリト述ヘ又事務局内委員會ニ杉村ヲ参加セシムルコトトシタル上連盟ノ技術機關タル財政經濟交通衛生各委員會ニハ日本側代表モ加ハリ居ラルルノミナラス結局本件ニ關スル重要問題ハ理事

会ノ承認ヲ得テ実行シタシト存シ居ル次第ニ付事件ノ進展ニ伴ヒ日本側トシテモ之等各機関ヲ通シ充分其所見ヲ披瀝セラレ得ル次第ニモアリ今後共日本側ノ御趣旨ハ充分尊重シ得ラルルコトト存シ居ル旨述ヘ居リタリ尚事務総長ノ理事会ニ提出セラルル「ノウウト」ノ草案ヲ見ルニ右支那援助ニ関スル諸費用ハ総テ連盟ヨリ支払ハルル積リナル如ク見ユル旨当方ヨリ指摘セル処「ド」ハ実ハ連盟ノ予算中対支援助ニ振向ケ得ヘキ費用ヲ有シ居ル次第ニアラス幸ヒ支那側ニ於テ連盟分担金ノ滞納（ホンノ一部分ノコトヲ意味セルコトト察ス）ヲ今後支払フ旨誓言シ居ルニ付之ヲ右対支援助費用ニ振向ケタク其趣旨ヲ以テ来ル總會ニ於テ其承認ヲ得タク存シ居ル旨並ニ右總會迄ノ所要費用トシテハ理事会ニ於テ十萬瑞西「フラン」ヲ特ニ支出セラレタキ旨要求シタシト考ヘ居ル旨ヲ述ヘ居リタリ

右会談ニ依リ本件ニ関スル連盟当局ノ態度緩和セラレタル事ヲ明ニシタルモ「ド」ハ顧問推挙ノ件ニ関シ連盟トシテ日本側ニ対シテモ差別待遇ヲ与フル事非サルヘシト云フモ個々ノ場合ニ於テ果シテ進ンテ日本人ヲ推挙スヘキヤ疑問ナキ能ハス況ンヤ他国人ニ先ンシテ日本人ヲ推薦セントス

ン及び伍在スイス中国公使との会談について

重一機密第一一〇号

昭和六年五月十九日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎（印）

在中国

臨時代理公使 重光 葵殿

杉村次長「ライヒマン」会談録等送付ノ件

今般国際連盟事務局杉村次長ヨリ同次長ト過般中国訪問ヨリ帰任セル「ライヒマン」及在瑞西伍凱声中国公使（国際連盟中国事務所長兼任）トノ会談録写及「ライヒマン」当地滞在中ニ於ケル同人ト各方面トノ会見録写内密ニ入手シタルニ付御参考ノ為夫々別紙甲号及乙号^{（省略）}ノ通送付ス

（別紙甲号）

二日午後「ライヒマン」ト長時間談話ス彼ノ述ヘタル要点次ノ如シ

一、東京ニ於テハ永井次官石井子爵等ヨリ欲待ヲ受ケ感謝ニ堪エス日本医師社会ノ自分ニ対スル反感モ多少和ラキタル様子ニテ安心セリ右ニ対シ「医界時報」ノ評論ノ如キハ齒牙ニ懸クルノ要ナシト言ヒ置ケリ

ルカ如キ所迄考ヘ居ルモノニ非サルモノト認メラルル依テ本問題ハ将来愈具体化セラルル際個々ノ場合ニ付我方ニ於テモ監視ヲ怠ラス其主張貫徹ノ為努力ヲ続ケサルヘカラスト存セラルル次第ナルカ此点ハ政府ニ於テモ常ニ御留意ヲ願ヒ愈ノ場合ニハ日本側ヨリ何レノ方面ヨリ見ルモ適任者ナリト認メラルル候補者ヲ推挙シ得ル用意ヲ整ヘ置ク事肝要ナリト存スル処差当り当方トシテハ目下幸ヒ仏英外相等當地出張中ノ事ニモアリ一応其諒解ヲ得置ク事然ルヘキカト存シタルモ仏外相ハ大統領選挙ニ失敗ノ結果遠カラス政界ヨリ引退スル事トナリ居リ又英外相ニ話ス事トスルモ「ド」ト予テヨリノ關係ニ鑑ミ「ド」以上ニ当方ノ主張ヲ支持スルモノトモ思ハレス旁本件ニ付テハ明十八日理事会ノ席上ニ於テ澤田往電第三七号末段ノ趣旨ヲ敷衍陳述一応止メヲ刺シ置キ其諒解ノ下ニ事務総長ノ提案ニ同意スル考ナリ

英、米、仏、独、伊、露ヘ暗送セリ

260

昭和六年五月十九日

幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛

連盟の对中国援助に関する杉村次長とライヒマ

二、支那ニテ蒋介石ハ連盟ニ於ケル支那ノ地位乃至立場ニ重点ヲ置キ種々質問シ胡漢民ハ連盟ノ技術的援助ハ総テ歡迎スルモ唯々財政ニ関スルモノ丈ハ拒絕シタシト言ヒ宋子文トノ内話ニ於テハ打明ケテ嘗テ波蘭カ連盟ニ借款セムトシタル際種々ノ面倒ニ遭ヒ遂ニ断念シタルノ事実ヲ述ヘ借款交渉ノ暗黒面ヲ説述シタルニ大ニ理解スルトコロアリシ様子ナリキ

三、支那ニ対シ連盟カ顧問ヲ推挙スル場合先ツ大切ナルハ顧問等カ連盟ノ精神ヲ体シ支那ノ友人トナリ支那問題ヲ自分ノモノトシテ解決スルノ用意ナカルヘカラサルコトナリ支那人ハ今日ト雖モ徒ニ氣品高ク且自説ヲ天降リ的ニ押付ケムトスル英米等ノ顧問ニ比シ何等偽善ノ素振ナク支那人ト衣食ノミナラス酒色ヲモ俱ニシ真ニ支那人ノ「カマラード」トシテ働キタル露西亜顧問ヲ徳トスルノ風アリ

四、日本人顧問ヲ連盟ニ於テ採用スヘシトノ注文ヲ東京ニテ受ケタルカ例ヘハ藥草ノ研究等ニ就テハ是非日本側ノ助力ヲ仰カサルヘカラサルモ率直ニ申サハ日本カ二三十年前支那ノ各界ニ植付ケタル勢力カ今日殆ト地ヲ弘ヒタ

ルノ觀アルハ其責支那人ニノミアリトハ言フヘカラス從テ日本人顧問採用ノ前提条件ハ連盟ノ精神ヲ以テ支那ニ寄与スルコトニ付キ充分ノ了解力日支双方ノ間ニ成立スルニ存ス右ハ英仏人等ニ就テモ程度ノ差コソアラムカ同

一ナリ

五、「ソルター」ハ印度ニテ經濟諮問機關（仏國流ノ商業會議所其他ヲ代表スルモノニハ非ス英國流ノ副王ヨリ任命スルモノノ由）ニ關スル意見書ヲ提出シタル後上海ニ來リタルカ印度ニ於ケル英國人等ノ奢侈ニ過クルコト及無見識ナルニハホトホト呆レタリト言ヘリ支那ニ於テハ先ツ銀價救済ノ問題ニ就キ意見ヲ求メラレ次テ「ケムレル」委員會報告書ニ對シ批評ヲ乞ハレ更ニ時日アラハ其他ノ經濟問題ニ就キ支那側ノ諮問ニ応スル由ニテ又「ハース」ハ支那ト連盟交通機關トノ關係ニ就キ一案ヲ作成シ提出スル由ナリ

六、「アヴノル」カ先年渡支シタルハ濟南事件直後ニテ其後東京ニ於テ吉田外務次官ヨリ強硬ナル對支意見ヲ聞カサレタル為本来日本側ニ對シ厚意ヲ有スルモ支那ニ於ケル連盟ノ事業ノ將來ヲ想ヒ支那側ニ氣兼ねシ支那問題ヲ取

スヤトノ口吻ヲ洩シ尤モ少クトモ小官ニ對シテハ將來誠意協力セムトスルノ風ヲ示セリ

二日午後支那公使吳凱聲來訪

「ソルター」及「ハース」ノ渡支ニ就テハ當時何等予告ヲ受ケサリシノミナラス支那ニ於テハ宋子文、王正廷共ニ南京ニ在ラサリシ際突発的ニ「ソ」及「ハ」ノ招請力決セラレタル模様ニテ旁々其後理事會ニ於テ「ソ」「ハ」ノ派支力決セラレタルトキ議事ニ参加ヲ求メラレタルモ之ヲ承諾シ得サリシカ如キ次第ニテ今猶ホ事態判明セサル為メ困リ居リシ次第ナリト前置キシタル後連盟力愈々支那ノ借款ヲ引受クル場合各國側ノ応募分担額及元利支払ニ對スル監督ノ方法ニ就キ何等聞込ミタルコトナキヤト質ネタルニ付キ監督方法ニ就キテハ可成露骨ナル方式ヲ避クルコトナルヘク又連盟ニ於テ借款ヲ引受ケタル場合ト雖モ從前ノ借款團ノ存在ヲ事実上無視シ得サル事情モアルヘケレハ各國ノ応募額等ニ就テモ此点ヲ併セテ考慮セサルヘカラサルヤニ察セラルト答ヘ置ケリ

次ニ連盟ニ於テ支那ニ技術家ヲ派遣ストノ希望アルカ如何ト問ヘルニ付キ支那力之ヲ要求スル場合ノ外ハ連盟トシテ

扱フ際ニハ成ルヘク日本側ヲ遠サケムトスルノ傾アリ「ライヒマン」ハ「コメール」ノ如キ排日論者ニハ非サルモ殆ト盲目的ニ支那ヲ愛スルノ極是レ亦日本側ヲ疎ンスルノ風アリ彼トノ談話ニテ「ソルター」及「ハース」ノ渡支問題カ次ノ如キ経緯ヲ辿リタルコト明カトナレリ「ライヒマン」ハ其支那ニ對スル保健事業カ内外ヨリ大ナル歡迎ヲ受ケタルハ之ヲ悦フモ事柄ノ性質上必スシモ重要視セラレサルノ憾アリ仍テ政治問題ハ嚴ニ之ヲ避クルコトトシ技術上ノ諸問題例ヘハ經濟交通等一層重要ナル方面ニ於テ連盟カ支那ニ對シ新タナル事業ヲ開拓セサルヘカラサルヲ想ヒ事務總長及「アヴノル」ト打合せノ上過般渡支後此意味ニテ南京ノ要人連ヲ勸説シ遂ニ蔣介石ノ招電トナリタリ

「ラ」ノ内話ニテ事情右ノ如ク判明シタルヲ以テ出發前何故ニ自分ニ之ヲ打明ケサリシヤト正面ヨリ詰責シ斯クテハ將來誠意ヲ以テ協力シ得サルニ非スヤト言ヘルニ對シ「ラ」ハ一応大ニ陳謝シタル後日本ノ對支態度カ（現外相ハ例外トシ）一般ニ改マラサル限り連盟トシテハ日本ノ協力ニ就キ迷ハサルヲ得サルハ無理カラヌコトナラ

ハ進ンテ何等希望ヲ述フルカ如キコト無カルヘシト答ヘタリ更ニ支那カ九月理事會ニ選舉セラレタル後ノ態度ニ就キ日本從來ノ態度ト併セテ意見ヲ求メタルニ對シ

一、歐洲問題ニ就キテハ余リニ深入リセサル方得策ナルヘク從テ大体ニ於テ控目ノ態度ヲ執ルヲ安全トスヘク

二、日支兩國間ノ紛争ハ成ルヘク人前ニ持出サス兩者ノ間ニテ解決シ理事會ニ於テハ常ニ相提携シテ行動シタシト言ヘルニ右ハ全然同意見ナリ例ヘハ軍縮準備委員會等ノ如キニ於テモ佐藤大使トノ間ニハ常ニ此心得ヲ以テ措置シ來レリト曰ヘリ

尚連盟事務局幹部中ノ或ル者カ吳公使ノミナラス小官ヲモ除外シテ支那問題ヲ画策スルノ風アルニ對シテハ兩人共不快ノ念ニ堪エサル点全然同感ニテ此意味ニ於テ將來共彼ニ對シ一層同情的態度ヲ執リタシト思ヒ居レリ

261 昭和6年5月20日 在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より 幣原外務大臣宛（電報）

連盟の对中国援助問題に関する事務總長ノ一ト理事會において可決について

付 記 昭和六年五月一九日の連盟理事会で可決され

た事務総長ノート

ジュネーヴ 5月20日後発

本 省 5月21日前着

第四二号

芳澤理事ヨリ

往電第三七号ニ関シ

十九日理事会ニ於テ独逸関税同盟問題(往電第四一号)議了後支那援助問題ヲ上程ス事務総長ヨリ澤田発往電第三八号所報「ノート」ノ披露アリタル後英国理事ハ今次計画ニ対シ盲目的トモ称スヘキ程ノ満腔ノ讃辞ヲ呈シテ之ニ賛同シ仏伊等ノ各理事ヨリモ夫々賛意ヲ表シタルカ本使ハ貴電第六九号御訓令ノ趣旨ニ依リ(一)本件援助案ハ支那ノ再建ヲ衷心支援セントスル帝国政府ノ方針ト一致スルモノナルモ(二)所謂援助ハ之ヲ技術的方面ニ限り絶対ニ政治的方面ヲ避クヘク支那提案ノ何レノ項目モ右様解釈スヘキモノナルコト及援助ノ実行ニ当リ理事会ハ必要ニ応シ適當ナル監督ヲナシ得ヘキコトノ二点ハ事務総長「ノート」ニ依ルモ明白ナルコト(三)本件実行上殊ニ顧問ノ人選ニ付連盟カ我方ノ経験

ヲ利用スヘキコトヲ信シテ疑ハサルコト(四)連盟ノ權威ノ為本計画カ慎重ニ且万人ノ満足ヲ得ヘキ方法ニ依リ実行セラレンコトヲ切望シ(五)右「オペセルバシオン」ヲ以テ本案ニ同意スル旨ヲ述ヘ続イテ支那代表伍連德ノ謝辞アリタル後理事会ハ事務総長「ノート」ヲ可決セリ
尚本件経費ノ点ニ付テハ別ニ非公開會議ヲ開キ決定ノ筈
英、米、仏、独、伊、露ヘ暗送セリ

(付 記)

COMMUNICATION FROM THE CHINESE GOVERNMENT
IN REGARD TO CO-OPERATION WITH THE LEAGUE

AS REGARDS TECHNICAL QUESTIONS.

NOTE BY THE SECRETARY-GENERAL,

SUBMITTED TO THE COUNCIL

ON MAY 19th, 1931.

Geneva, May 15th, 1931.

The Council, at its session in January 1931, received a telegram from the National Governments of China expressing its appreciation of the prompt arrival of the

Director of the League of Nations Health Section, and inviting the Director of the Economic and Financial Section, and the Director of the Transit and Communications Section, to visit China, in order respectively to discuss the effect of the present world depression on China's economic activities and also certain problems regarding inland waterways and the reclaiming of land. The Chinese Government expressed the hope that, as the result of this preliminary consultation, practical co-operation with the several technical organs and experts of the League might on examination be found feasible.

The Council authorised the two Directors to accept this invitation and unanimously decided to render all possible assistance to the Chinese Government. The two Directors accordingly proceeded to China.

On April 25th, the Chinese Government sent a further telegram, referring to the January invitation and the subsequent conversations in China with the three

Directors of the technical organisations. This telegram, which is attached, announces the setting up of a National Economic Council and asks that the Technical Organisations of the League be continuously available for advice to the Government and the Economic Council in connection with its plan of reconstruction.

If the Council decides to accept the proposal of the National Government of China, it seems desirable to define the manner in which the competent League Organisations would be called upon to act: I would suggest the following procedure for the approval of the Council:

(1) The officer whose services are requested for such limited period as might be practicable and as might be convenient to the Government should be competent to give information on the working of the League's Technical Organisations and the manner in which they might be utilised by the Chinese Government. For this purpose, the Secretary-General considers that one of the

Directors of the Technical Organisations should be authorised to pay a further visit to China.

(2), (3) and (4) Proposals for collaboration would be transmitted by the Secretary-General to the competent Technical Organisations, for action subject to the approval of the Council as required by the rules of procedure.

(5) Similarly, the Secretary-General would refer to the International Committee of Intellectual Co-operation for action by its executive organ, the Institute of Intellectual Co-operation, or by the International Institute of Educational Cinematography, questions relating to the educational system and intercourse between intellectual centres in China and abroad.

Preliminary action in this sense has been taken in regard to a letter on this subject received from the Chinese Ministry of Education.

(6) Should the Chinese Government ask for the convocation of a technical Conference, the

Secretary-General would communicate the request to the Council for decision.

With regard to the budgetary aspect of the matter, the Secretary-General would draw the attention of the Council to the following passage in the report of the Supervisory Commission (document A. 5. 1931):

"25. The Commission noted the explanations of the Secretary-General regarding the new appropriation of 480,000 francs for Liaison with China. The expenses of the various experts which the League of Nations will place at the disposal of the Chinese Government will be covered by this new item of the budget.

"The Chinese Government having given formal assurances regarding the payment of its contributions, including arrears, the Commission does not raise any objection to the inclusion of the new appropriation in the 1932 budget.

"26. For the present year, in fact, it would, on

第四三号 本省 5月21日前着

往電第三八号ニ関シ

十八日連盟交通部長「ハース」ト伊藤トノ会談要旨左ノ通
一、本件ニ付交通関係ノ顧問ヲモ派遣スルモノト見ユル処
右ハ如何ナル部門ニ属スルモノナリヤトノ伊藤ノ問ニ対
シ「ハ」ハ右顧問ハ黄河及白河ノ治水工事ヲ企画シ且之
カ為支那ノ技師ヲ養成センコトヲ目的トシテ派遣セラル
ヘキモノニシテ五月二十八日より開催ノ交通委員会ニ於
テ右顧問ノ推薦ヲ見ル順序トナルヘシト答ヘ

二、支那ノ鉄道計画ニ関シ「ハ」ハ支那ハ白耳義ヨリノ団
匪賠償金還付額ヲ以テ海蘭鉄道ヲ完成シ又英国ヨリノ同
還付額ヲ以テ粵漢鉄道ヲ敷設スヘキ計画ヲ有シ居ル旨ヲ
述ヘ右海蘭鉄道ノ完成ニ伴ヒ海州ヲ開港トスルノ要ナカ
ルヘキヤトノ支那側ノ意見ニ対シテハ「ハ」ハ同港ハ青
島上海トモ近接シ居リ海州ヲ開港トスルトキハ自然之等
ノ港ト競争ヲ生シ面白カラサル結果ヲ見ルノ虞アルノミ
ナラス支那ニハ既ニ多数ノ開港アリ今更ニ海州ヲ開クノ
要モナカルヘシト答ヘ置キタル由

account of the desirability of immediate action along the lines desired by China, agree that, if the sums allocated by the Council for the purpose out of those which are at its free disposal (Article 3 of the budget) proved insufficient, the Secretary-General might, as a quite exceptional measure and as a derogation from the Financial Regulations, be authorised to utilise part of the arrears which the Chinese Government will pay in 1931, to meet the otherwise uncovered portion of the expenditure of the various missions. Naturally, the derogation in question will only be possible if the Assembly explicitly consents."

262 昭和6年5月20日 在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

对中国交通技術援助などに関する伊藤連盟交
通委員会委員とハース連盟交通部長との会談
について

ジュネーヴ 5月20日後発

三、尚内水航行ニ付何等カノ相談ヲ受ケタリヤトノ伊藤ノ問ニ対シ「ハ」ハ右ニ付テハ何等具体的ノ話合モナカリシカ唯支那側ハ揚子江上流迄海航船ヲ上ホシ得ル為何等カ工事ヲ為シ度キ様子ナルモ目下ノ財政状態ニ於テハ実行不可能ナリト答ヘタリ

四、將又連盟經濟部長「ストツパニ」ハ伊藤ノ問ニ対シ連盟ヨリ派遣セラルコトアルヘキ經濟顧問ノ任命ハ何レ連絡顧問(往電第三八号第一項)ヨリノ報告ニ基キ決定セラルコトナルヘク本年秋ノ經濟委員會ニ於テハ何等カノ形式ニ於テ其打合セヲ見ルコトナルヘシト語レル趣ナリ

英、米、仏、独、伊、露ヘ暗送セリ

263

昭和6年5月20日

在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

对中国交通援助のための邦人顧問予定者選定
につき意見具申

ジュネーヴ 5月20日後発
本省 5月21日後着

尤連盟ヨリ派遣セラルヘキ顧問ノ俸給等ニ付テハ未タ何等確定シ居ルトハ存セサルモ從來支那政府ヨリ直接傭入レタル顧問ニ対スル手当ハ比較ニナラサル少額ノモノナラスヤトノ懸念モアリ旁本邦ヨリ推薦スヘキ人物ノ選定ハ相當困難ノコトトハ察セラルルモ前記事情御諒察ノ上交通關係者ノミナラス其他技術者中ヨリ本件趣旨ニ副フヘキ適當ナル人物予選方御配慮ヲ請フ將又本件ニ関シ連盟ヨリ將來財政關係ノ人物ヲモ支那ニ派遣スルコトアリ得ヘキコトト存セラル其選定ニ付テハ何レノ途財政委員會ニ諮問決定ノコトト察セラルル処御承知ノ通同委員會ニハ先年来本邦代表者出席シ居ラス依テ本件ニ関シ同委員會ニ諮問ノ場合何等當方ニ關係ナク其決定ヲ見ルカ如キコトナシトセス右様ノコトアリテハ頗ル遺憾ト存セラルルニ付從來数次稟請ノ趣旨ト併セ御詮議ノ上津島委員ニ代ルヘキ本邦代表者至急御選定ヲ請フ

在英、米、仏、独、伊、露各大使ヘ暗送セリ

第四九号

支那援助問題ニ関シ事務総長ハ顧問ノ選定ニ付テハ其国籍ニ付何等差別ヲ設クル考ナシト確言シ居ルモ本件当初ヨリノ経緯ニ鑑ミ実行ノ場合ニ於テ果シテ日本人ニ均等ノ機会ヲ与フヘキヤ疑ナキ能ハス事実上當方主張達成却々容易ナラサルモノアルヤニ存セラル依テ之カ対策トシテハ本邦ヨリ各種技術問題ニ付必要ニ応シ支那ニ派遣シ得ヘキ人物ノ「パネル」テモ予メ作り置き愈々連盟ノ各機関ニ於テ支那ニ派遣スヘキ顧問決定ノ場合先ツ杉村ヲ通シ事務局内委員會ニ於テ右「パネル」中ニアル本邦人推薦方努力スルト共ニ他方各種技術委員會ニ於ケル本邦代表者ヲシテ夫々同様ノ処置ヲ執ラシメ以テ出来得ル限り當方ノ希望貫徹方最善ノ努力ヲ試ムルノ外ナシト存ス然ルニ往電第四三号「ハース」ノ談話ニ依レハ交通關係ノ顧問選定ハ來ル交通委員會ニ於テ之ヲ行ハントスル計画ナリトノコトニモアリ旁交通問題ニ関シ本邦ヨリ顧問派遣方必要トセラレ且之カタメ適當ナル人物アラハ之ヲ予選セラレ其氏名閱歴等至急御通報ヲ願ヒ愈々ノ場合前記ノ手段ニ依リ之ヲ「プレス」シ得ル様準備シ置キタク

264

昭和6年5月26日

幣原外務大臣より
在ジュネーヴ澤田連盟事務局長宛
(電報)

对中国交通援助のための邦人顧問の選定について

第二七号

本省 5月26日 発

貴電第四九号前段ニ関シ
交通顧問ハ嘗テ本邦ヨリ派遣シタル前例モアリ今回モ是非適任者ヲ推薦シ度キ考ニテ折角考慮中ナルモ顧問ノ俸給任期等未定ニシテ而モ委員會々期切迫ノ際到底之ニ間ニ合フ様人選シ得サルニ付若シ貴見ノ如ク同委員會ニ於テ顧問選定ノ運ニ至ル場合ニハ不取敢本邦ヨリモ顧問一名推薦スルコトトシ其ノ氏名閱歴等ハ後日人選決定次第連盟事務局ニ通知スルコトニ取計ヒ度キ考ナルニ付右方針ニテ措置セラレ度シ

北京、上海、奉天ニ転電シ南京ニ転報

265 昭和6年6月3日

在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)連盟交通委員会における对中国交通援助問題
の討議状況についてジュネーヴ 6月3日後発
本 省 6月4日前着

第六三三号

貴電第二七号御申越ノ次第ハ杉村ヲ通シ事務局ニ申入レ置キタルカ予テ電報シタル通り中国政府ト連盟交通部トノ協力問題愈五月三十日交通委員会ノ議ニ上程セラル伊藤ヨリノ報告ニ依ルニ其際同委員会書記長「ハース」ハ一時間ニ亘リ中国出張ノ報告ヲ為シタル後交通関係ニ於テハ(一)連盟交通部員ヲ中国ニ派遣シテ連絡ヲ保持セシムルコト(二)淮河工事ヲ中心トシ北支那河川委員会ノ事業並大上海計画ノ立案ヲ為スタメ専門家ヲ派遣スルコト(三)技師(土木ヲ主トス)養成機関設置ニ関スル研究ヲ為スタメ委員会ヲ設置スルコト(四)連盟交通機関ト中国其他トノ間ニ於ケル土木ニ関スル一般協力問題ヲ研究スル為委員会ヲ設置スルコトノ提議ヲ為シタル処瑞典委員(在支二十年幾多ノ土木事業ニ関係セ

リ)ハ中国カ土木ニ関シ外人顧問ヲ必要トセハ幾人ニテモ之ヲ得ラルヘク且右(二)ノ研究案ハ既ニ多クアルニ拘ラス其ノ実行不可能ナルハ民国ノ財政並行政ノ不完備ニ帰着スルモノナルカ故ニ連盟カ中国ニ専門家ヲ派遣シ各般ノ計画ヲ立案スルニ当リテハ此点ニ留意スルノ要アルヲ力説シ伊藤ハ連盟ト中国トノ協力ヲ機宜ヲ得タルモノトシテ之ニ賛成シタル後地理的關係上民国交通制度ハ本邦ノ交通ニ直接ノ影響アルヘキヲ以テ此種問題ニ関シテハ本邦ハ夙ニ特別ノ智識ヲ有セリトナシ從テ連盟案ノ実行ニ対シテハ此智識ヲ寄与スルニ敢テ吝カナラスト述ヘ英独伊委員ハ民国ヨリ協力希望ノ申出アル以上連盟カ之ニ応待スルヲ当然ナリト為シ之ヲ以テ一旦討議ヲ打切り六月二日更ニ協議ノ結果右書記長提案ノ意義ニ於ケル二個ノ決議案(一)(二)ヲ纏メテ一ノ決議トシ(三)(四)ヲ他ノ決議トス)ヲ可決シタルカ右決議ニ依リ設置セラルヘキ委員会ニハ当然本邦委員ヲ加フル了解ノ下ニ伊藤ハ之ニ賛成シタル趣ナリ

英、米、仏、独、伊、露へ暗送セリ

266

昭和6年6月8日

在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)对中国援助に関する中国との連絡のため連盟
首脳派遣との情報についてジュネーヴ 6月8日後発
本 省 6月9日後着

第七一七号

杉村ヨリノ内報ニ依レハ

一、其後宋子文ヨリ連盟技術機関ト民国政府トノ連絡ノ為出来得ル限り速ニ「ライヒマン」派遣ノ要求アリ事務局ニテハ「ラ」ハ既ニ度々支那ニ出張シタルコトアリ今回ハ他ノ部長ヲ派遣スル方然ルヘシトノ議モアリ種々審議ヲ重ネタル由ナルカ各部長モ当地仕事ノ都合上早速出発シ兼ナル事情アリ已ムナク差当リ「ラ」ヲ派遣シ今秋「ハース」ト交替セシメ其後技術各部部长順次渡支スルコトトシ

二、往電第六一七号教育委員派遣ト共ニ連盟側ヨリハ「ドラモンド」官房長英国人「ウォルタース」ヲ出張セシムルコトニ決定セル趣又

267

昭和6年6月22日

在パリ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛連盟事務局中国委員会における連盟技術部長
派遣に関する協議状況について

機密連本公第四七九号

昭和六年六月二十二日

在巴里

国際連盟帝国事務局長 澤田 節藏(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

連盟民国援助方ニ関スル杉村公使内報送付ノ件

連盟ノ支那援助ニ関スル理事会決議等ハ曩ニ電報ノ通ナル

カ其ノ後宋子文ヨリ連盟ト支那政府トノ「リエーゾン・オフィサー」トシテ技術部部长ヲ速ニ支那ニ派遣アリ度キ旨申越アリ右ニ関シ事務局内支那委員会ニテ種々協議ノ次第アリタル由ニテ其ノ経緯ニ付杉村公使ヨリ別紙甲号及乙号ノ通リ内報アリタルニ付右茲ニ送付ス
(別紙甲号)

昭和六年六月三日

二日事務局内支那委員会ヲ開ク「アブノル」「デユフール」小官「ライヒマン」「ハース」「ラヴデイ」「ストパニ」及書記「ヂリヤクス」出席

一、「ライヒマン」ノ渡支(添付書類第一ノ(二)参照)

宋子文ヨリ非公式ニ至急「ライヒマン」ノ渡支ヲ望ム旨要求アリ右ニ付キ小官ヨリ「用向ハ宋ノ四月二十五日付電信(一)(添付書類第九参照)及五月ノ理事会ニ提出シタル事務総長ノ覚書(一)ニ記載スル連絡事務ナリヤ」ト問ヘルニ対シ「ラ」ハ「然リ」ト答フ「然ラハ経済財政及交通問題カ対支援助ノ重要部分ヲ占ムルコトトナリタル關係上『ソルター』『ハース』『ラヴデイ』又ハ『ストパニ』ノ渡支スル方宜シカラスヤ」ト言ヘルニ対シ「ラ」ハ前

ル未目下米国ニ在ル「ソルター」ニ打電シ渡支ヲ求ムルコトニ決セリ

察スルニ「ソルター」ハ今更引返し渡支スルヲ好マサルヘク又連盟本部及英國側等ニ於テ一日モ早く其ノ報告ヲ聴カント希望スル事情モアレハ結局「ソ」ノ渡支ハ沙汰止トナルヘク「ハース」「ラヴデイ」「ストパニ」等ハ欧州連合委員会ノ為即時出発シ得サル事情アリ旁々最後ニハ「ライヒマン」ノ渡支ニ落付クモノト見サルヘカラス「ライヒマン」カ英仏側ノ後援ヲ特ニ我方ニ対シ從來宛角面白カラサル振舞アリタルノミナラス今回ノ渡支ノ如キハ初メヨリ宋トノ間ニ内々打合セ置キタルモノニアラサルカト疑ハルル節サヘアリ小官カ種々詰問シタルハ之等ノ理由ニ出ツ

二、支那ノ払込(添付書類第一ノ(三)参照)

対支援助ニ要スル費用ヲ支那ノ滞納金払込額中ヨリ支出セントスル遣方ニ対シテ連盟總會ニ於テ必スヤ種々異論出ツヘク主義ノ問題トシテハ容易ニ之ヲ同意シ得サル筋合ナルモ連盟ニ依リ支那ニ策動セントシツアル事務局内英仏系幹部ノ態度ハ殆ント盲目的ニ支那ニ特惠の待遇

記連絡事務ハ各部長ニ於テ交替渡支スルヲ便トスル旨ヲ述ヘ暗ニ自分ハ保健問題ノミニ付キ至急渡支スルノ理由アルカ如キ口吻ヲ洩シタレハ前記連絡事務ハ事務総長覚書及宋ノ電信ニ依ルニ一人ニテ之ヲ遂行シ数人交替シテ担当ストハ解セラレス加之嘗テ「ライヒマン」カ「ハース」又ハ「ウォルタース」ヲ之ニ当ラシメ度キ旨ヲ内話シタルコトヲ指摘シ更ニ進ンテ「本件ハ既ニ理事会ノ決議トナリ連盟ト南京政府トノ間ニ公然交渉セラルヘキモノナルニ拘ラス非公式ノ書面カ往来スルハ面白カラス尚至急渡支ヲ望ムト云フモ「ソルター」「ハース」等ニ於テ既ニ一応計画ヲ建テタルノミナラス宋自身モ九月ノ總會ニ出席ノ予定(添付書類第十ノ(五)参照)ナル此ノ際取急キ事務局幹部ノ一人カ渡支スル必要ト理由トヲ知ルニ苦シム」ト言ヘルニ「ハース」ハ「理事会ニ於テ連絡事務ノ為技術部部长一名ヲ任命スヘキ旨ヲ決シタル以上National Economic Councilカ其ノ事業ノ着手ニ当リ一日モ早く連盟幹部ノ来援ヲ望ムハアナカチ不条理トモ思ハレス」ト答ヘ一方「アブノル」「ライヒマン」「ハース」他方小官及「デユフール」トノ間ニ種々意見ヲ交換シタ

ヲ与ヘントシ「ライヒマン」ノ如キハ現ニ連盟ニ予算上ノ經費ナキニ拘ラス学芸協力ノ委員会ニ支那委員ノ出席ヲ促シ且書記一名ノ帯同ヲ約シタルカ如キ事実サヘアリ此点「デユフール」ヨリ手厳シク突込マル

三、交通問題(添付書類第一ノ(四)及第三、第六、第七参照)

「ハース」ヨリ詳細ナル説明アリタルカ日本側ノ立場ニ対シテハ「ハ」ハ自身良ク諒解シ居ルト交通委員会ニ於ケル伊藤次長ノ尽力ニ依リ将来特ニ憂慮スヘキモノナシト認ム

四、財政經濟問題(添付書類第十及第十一参照)

宋ノ書面第四項ノ顧問任命ニ付キ「何人カ其ノ選ニ当ルヘキヤ」ト問ヘルニ対シ「アブノル」ハ「顧問ノ任命等ハ全部各専門委員会ノ権能ニ属シ事務局内ニ於テ彼は容喙スヘキモノニアラス」ト言ヒタレハ「右ハ實際上ノ事実ヲ無視シタル言分ナルノミナラス果シテ然ラハ事務総長ノ回答案末段 I shall hope……以下ハ削除スヘキモノナリ」ト論シタルニ彼ハ右削除ニ同意セリ

交通及經濟委員会ニハ幸イ伊藤次長参加スルモ財政委員会ニハ久シキニ亘リ我委員ノ出席ナク而シテ連盟ノ対支

援助カ益々具体化セントスル際此儘ニ放置スルハ種々我ニ不利ナル結果ヲ齎スヘキニ付キ特ニ省察ノ要アリト認ム「アブノル」「ライヒマン」等ノ腹ハ今日ト雖モ決シテ易々トシテ日本人顧問ノ採用ヲ容認セントスルモノニアラス從テ我方ノ主張貫徹ノ為ニハ将来各方面ニ亘リ尚一層ノ努力ヲ要スト思考ス

五、「ウオルタース」ノ渡支(添付書類第十二、第十三参照)
(省稿)

本問題ニ付「ウオ」ノ意見モ参酌シ(書類第十三参照)
(省稿)
種々討議ノ末「ウオ」ハ連盟教育調査委員カ教育方面ニ造詣深キモ連盟ニ付キ智識ナキニ顧ミ事務総長ノ代表者トシテ委員連ヲ補佐スルノ任務ヲ帯ヒ渡支スルコトニ決セリ尚教育方面ニ付テハ經費不足ノ關係上種々ノ困難アリ支那側ノ歛心ヲ得ンカ為數多ノ安受合ヲナシタル「ライヒマン」ニ対シ「デユフル」ヨリ盛ニ詰問スル処アリキ

本委員会ノ内情ハ前記ニ依リ大方察知セラルル如ク「アブノル」「ライヒマン」等ノ言説遣口ニ不都合ノ点少カラス從テ我方トシテモ已ムヲ得ス多少強硬ナル態度ヲ執ラサルヲ得サル場合少カラサルモ乍去「デユフル」ト協

ノニアラス又支那ト英仏ト言フカ如キ或ル連盟国トノ間ノ關係ニ立ツモノニアラス一ニ連盟ト支那トノ間ニ行ハルヘキモノナレハ連盟トシテハ各国間ニ一致協力以テ支那援助ノ実ヲ挙クルノ方針ヲ以テ進マサルヘカラス」等種々持説ヲ述ヘ意見ヲ交換シタル末「アブノル」ハ「ソルター」ハ恐ラク渡支ヲ肯セサルヘク又「ハース」モ十月迄ハ動き得サル事情ニアレハ先ツ「ライヒマン」ヲ送り次ニ十月頃「ハース」ト交代セシメ其ノ後「ラヴデイ」「ストパニ」ノ如キヲ順次派遣シテハ如何ト言ヒタレハ「夫レニテ可ナリ」ト答ヘ置ケリ尚ホ「アブノル」ハ当初支那ニ連盟ヨリ総顧問ノ如キヲ派遣セントノ案アリシモ小官ノ反対ヲ考慮シ彼ノ発意ニテ部長ヲ連絡ノ為出スコトニ為シタル行掛ヲ述ヘタル個人又ハ或ル国々ニテ対支援助ヲ独占セントスルカ如キハ之ヲ避ケサルヘカラスト付加セリ

268

昭和6年6月(23)日

在ジュネーヴ澤田連盟事務局長より
幣原外務大臣宛(電報)

連盟経済委員会における对中国経済援助問題 の討議状況について

カシテ英仏側ニ對抗スルハ結局面白カラサル結果ヲ招致スト思考セラルルヲ以テ能フ限り隱忍自重ノ方針ヲ執リツツアリ

(別紙乙号)

昭和六年六月三日

三日「デユフル」ハ「ライヒマン」カ宋ト非公式ノ書面又ハ電信ヲ往復シ其ノ写サヘモ吾々ニ示ササルハ不都合ナルヲ以テ事務総長ニ書面ヲ差出シ将来何事モ公然ト処理スルコトニ指令セシメントスル考ナルカ右ニ対シ何等意見ナキヤ」ト問ヒタレハ全然同意見ナリト答ヘ置ケリ

「アブノル」ハ「昨日ノ委員会カ意外ニモ議論險惡トナリタルニ驚ケリ」ト前置シ各問題ニ付腹藏ナキ意見開陳ヲ求メタレハ「本来小官ハ連盟カ対支援助ニ成功センコトヲ望ミ之カ為微力ヲ致サン希望ナルモ如何ニセン「ライヒマン」ノ遣口ニ陰日向アリ連盟精神ニ反スト認メラルル点サヘアルハ監視ヲ要スト思ヒ種々露骨ニ質問ヲ為シタル次第ナリ「ラ」ハ宋トノ親交ヲ恃ミ連盟ノ対支援助ヲ一手ニ引受ケントスル風アルモ連盟ノ対支援助ハ支那政府ノ或ル要人ト連盟幹部中ノ一人トノ間ノ個人的關係ニ依リ行ハルヘキモ

第八二号

ジュネーヴ 本 省 6月23日前着 発

連盟ノ支那援助問題ハ二十日ノ経済委員会ニ上程セラレ議長ヨリ同問題ハ目下ノ処交通保健教育等ニ局限セラレ居ルモ将来経済財政方面ニ及ハサルヲ保シ難シ其際事務総長ヨリ経済顧問ノ選任其他ニ付意見ヲ求メ来リタル場合ニハ之カ処理方議長及副議長ニ一任アリ度キ旨提案セリ伊藤ハ右提案ニ賛意ヲ表シ唯日本ハ対支關係ノ密接ナル点等ヨリ從來同事情ノ研究ヲ怠ラス從テ他国ニ勝レル知識ヲ有シ居ルヲ以テ連盟ノ対支経済援助カ問題トナル場合ニハ専心之ニ協力シ其特殊知識ヲ提供スルヲ惜マサルヘシト述ヘタルニ議長ハ本件ニ付経済委員会ノ活動スル場合極東問題ニ付深キ知識ヲ有スル委員ノ協力ヲ得ル事ハ経済委員会トシテ欣幸ニ堪ヘサル所ナルノミナラス其協力ヲ仰カスシテハ真ノ目的ヲ達スル能ハサルヘシト述ヘ他国委員ハ何等発言スルモノ無ク議長ノ提案可決セラレタル趣ナリ尚同會議前伊藤ハ予メ経済委員会議長及副議長ト会谈シ前段陳述ノ趣旨ヲ説明シタル処兩人共支那問題ニ付日本ヲ閑却スルカ如キ

事ナキハ当然ナル旨述ヘタル由又経済部長「ストパニ」ハ伊藤ニ対シ支那問題ハ目下連盟事務局内ノ支那委員会ニ於テ研究シ居リ同委員会ニハ杉村モ出席シ居ルヲ以テ我方利益ハ充分保護セラルヘク経済顧問ノ選任等ニ際シ議長及副議長ノ外日本委員ヲ出席セシムル事トセルカ独委員等ヨリ

モ同様ノ申出アリ徒ニ事態ヲ紛糾セシムル虞アルヲ以テ本問題ニ付テハ議長及副議長ニ一任セラレタキ旨申出タル由ニテ伊藤ハ右様ノ諒解ニテ承諾セル趣ナリ
在仏大使へ暗送セリ

四 対独賠償問題

1 対独賠償専門委員会(ヤング委員会)

269 昭和3年9月12日 在ジュネーヴ連盟三全権より
田中外交大臣宛(電報)

ライン撤兵問題と賠償問題に関する関係国代表者会議について

ジュネーヴ 9月12日後発
本省 9月13日前着

第一九号

安達大使ヨリ

九月十一日「ライン」撤兵問題ニ付関係国代表者ノ会合ヲ開クニ付出席アリ度キ旨「ブリアン」ヨリ申越シタルニ依リタ刻「カツシエンタン」卿宿舍ニ赴キ英、仏、白外相、伊国代表(「シヤロヤ」)及独宰相ト会合セリ

先ツ独宰相ヨリ平和条約第四百三十一条ヲ楯トシ法律上独逸カ「ライン」撤兵ヲ要求スル権利アル旨並政治上其ノ必要ナル所以ヲ述ヘタルニ対シ「ブリアン」ハ先年「トワリ

」ニ於テ「ストレーゼマン」カ約セル諸点ニ関シ独逸ヨリ未タ何等ノ申出無ク仏国トシテハ其ノ申出ヲ待チツツアル次第ナリト応シ又「ロカルノ」協定成立当時ノ事情ヲ説明シ其ノ撤兵問題ト関連スル処無キヲ論シ法律上ノ見解ニ付テハ意見ヲ留保セリ「カツシエンタン」卿ハ当面ノ問題ハ過去ノ事実又ハ法律上ノ見解ニ非スシテ如何ニセハ速ニ撤兵ヲ実現シ得ルヤニアル処英国ニ於テハ政府、輿論共ニ撤兵ト賠償トハ密接離スヘカラサル関係アルモノト認メ居レリ独逸ヨリ此ノ趣旨ニ基キ何等提案スルヲ得サルヤト尋ネタルニ独宰相ハ「トワリー」会見ノ頃ハ賠償問題解決案ノ作成可能ナリト思考シ種々研究シタルモ一般金融ノ状況殊ニ米国市場ニ於テ故障アリ「ドーズ」案実施後ハ其ノ実現益々困難トナレルニ付法律上ノ根拠ニ基キ何等ノ交換条件ヲ付スルコト無ク撤兵実行ヲ要求スルモノナル旨ヲ述ヘタリ